AgileWorks R3

X-WebForm ユーザーマニュアル

R3.3 第 1 版(2026/07/15)

ATLED

目次／索引

1. はじめに 5
1.1. X-WebForm の起動 5
1.2. 画面構成 5
1.3. ビュー表示 6
デザインビュー 6
ツリービュー 6
コードビュー 7
ルーラーとグリッド 8
1.4. ウィンドウ表示 9
複数ウィンドウの表示 9
画面の分割 10
HTML・PDF レイアウト 11
1.5. プレビュー表示 12
1.6. X-WebForm の終了 12
2. 基本設定 13
2.1. 動作環境設定 13
基本動作設定 13
AgileWorks 連携 15
J2SE 動作 15
2.2. フォーム設定 16
基本動作設定 16
フィールド設定 19
2.3. 初期設定ファイルの編集 20
3. フォームの読み込み・保存 21
3.1. フォームの新規作成 21
3.2. フォームの読み込み 21
ファイルから開く 21
インポート 21
ダウンロード 22
3.3. フォームの保存 23
ファイルに保存 23
エクスポート 23
4. フォームレイアウトの設定 25
4.1. ページ構成 25
4.2. レイヤページ方式 25
基本設定 25
ページの削除 29
レイヤページ構成設定 29
表明細の印刷設定 31
5. フォームの作成 34
5.1. 基本操作 34
配置 34
選択 34
移動 35
リサイズ 35
コピー・切り取り・ペースト 36
削除 36
プロパティの設定 36
ドラッグ&ドロップによるイメージ・背景の設定 36
5.2. 水平線・垂直線・長方形枠・塗りつぶしの描画 37
水平線 37
垂直線 37
直線 37
長方形枠 38
長方形 38
5.3. 文字ラベルの描画 39
5.4. 入力フィールドの定義 39
文字フィールド 39
数値フィールド 39
整数フィールド 40
テキストエリア 40
コンボボックス 40
リストボックス 42
ボタン 42
ラジオボタン 43
チェックボックス 45
イメージフィールド 45
西暦・月・日・曜日フィールド 46
日時フィールド 49

印影フィールド 50
バーコード 51
不可視フィールド 52
5.5. 枠線の表示 52
5.6. 背景色の設定 52
5.7. 表明細レイアウト設定 52
グループの設定 53
既存グループへのフィールド追加 55
グループの解除 56
表明細レイアウト内でのフォーカス移動 56
5.8. カレンダ設定 56
5.9. 計算式設定 56
計算式「合計」の設定 57
計算式「四則演算」の設定 57
計算実行の制御 58
制限事項 59
5.10. ルックアップ設定 59
5.11. ミラー定義設定 62
ミラー定義の追加 62
ミラー定義名の変更 62
ミラー定義の削除 63
ミラー定義メンバの選択 63
ミラー定義一覧 63
フォーム表示時の動作 64
5.12. 正規表現比較設定 65
5.13. プロパティの種類 66
各フィールドのプロパティ一覧 74
5.14. プロパティの一括変更 77
5.15. ID の予約語 80
6. マスタ参照ウィンドウ 81
6.1. マスタ参照ウィンドウの管理 81
6.2. フィールドへの割り当て 83
7. JavaScript 設定 84
8. トラブルシューティング 85
8.1. X-WebForm が突然終了した 85
8.2. フォームのプレビューが表示されない 85
8.3. ブラウザの表示倍率を変更するとフォーム表示が崩れる 86

◆ 改版履歴

版数	年月日	改版内容
第 1 版	2026 年 07 月 15 日	第 1 版作成

1. はじめに

『X-WebForm for AgileWorks』(以下、X-WebForm と呼称) は、ワークフロー製品『AgileWorks』上のフォームを開発する為のソフトウェアです。本書では X-WebForm のフォームデザイン方法について説明します。

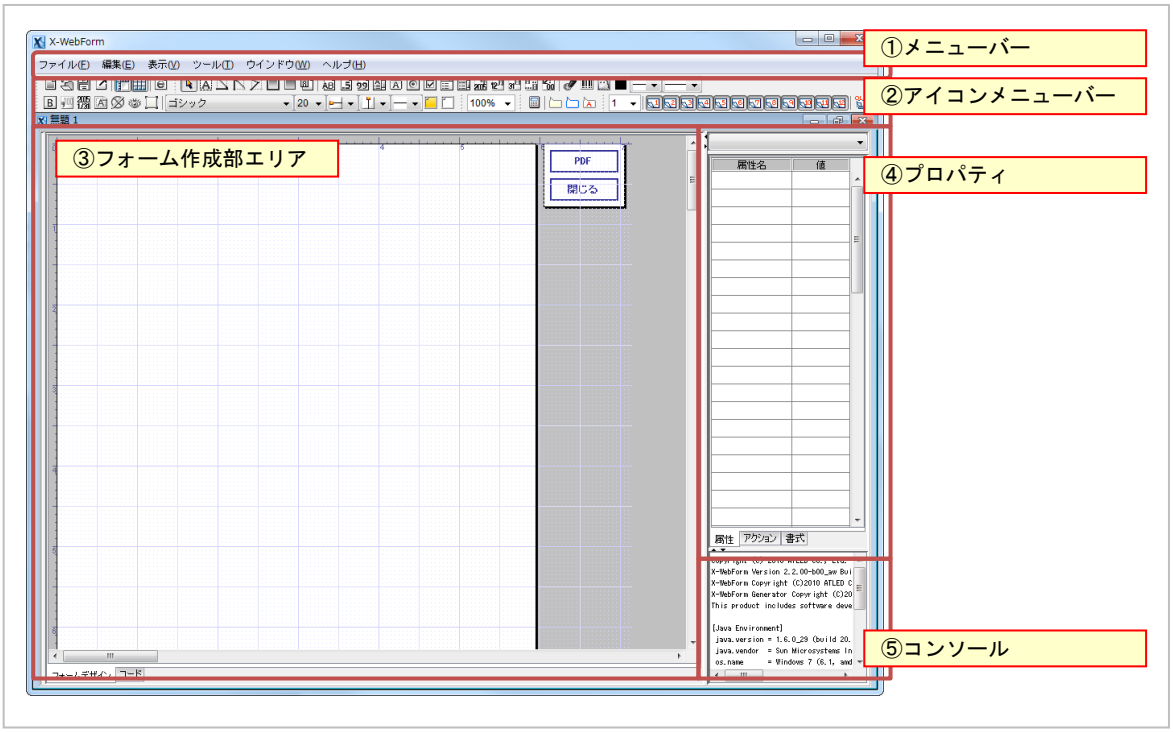
1.1. X-WebForm の起動

X-WebForm インストールディレクトリにアクセスし、xwebform.cmd ファイルを実行します。



1.2. 画面構成

X-WebForm は、メニューバー、アイコンメニュー、フォーム作成部、プロパティ部、コンソール表示の 5 つの画面から構成されています。



① メニューバー

X-WebForm の操作・設定を行うためのメニュー。

② アイコンメニューバー

フォーム上に配置するフィールドや図形オブジェクトを操作する各種ツールボタン。

③　フォーム作成部エリア

フォームを作成します。

④　プロパティ

フォーム上に配置するフィールドや図形オブジェクトに対する設定情報の確認や変更を行います。

⑤　コンソール

入力チェック時のメッセージやエラー情報など、各種のメッセージを表示します。

1.3.　ビュー表示

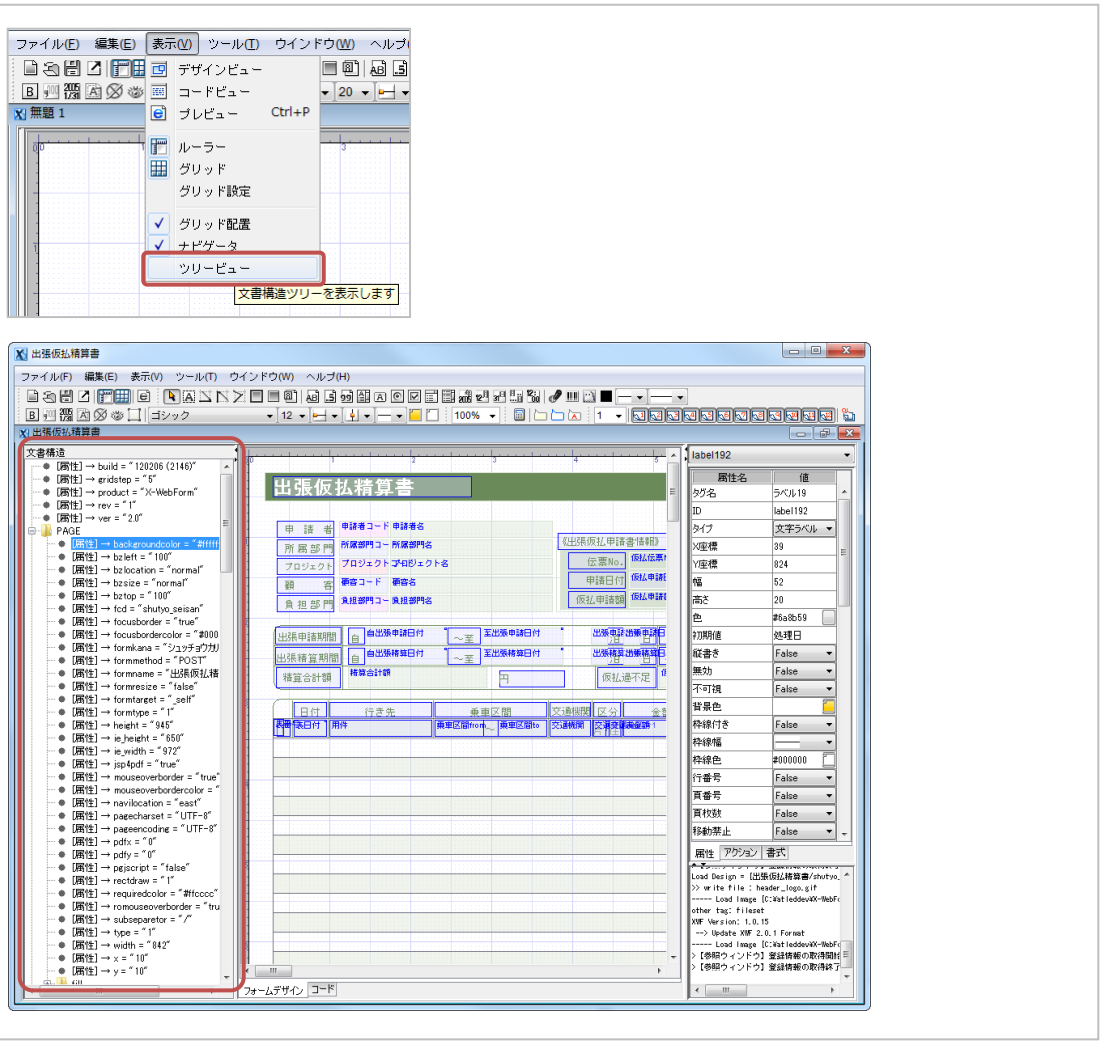
X-WebForm では、フォーム作成をサポートするための様々なビューが用意されています。

デザインビュー

初期表示されるフォームのデザインを行うデフォルトのビューを指します。

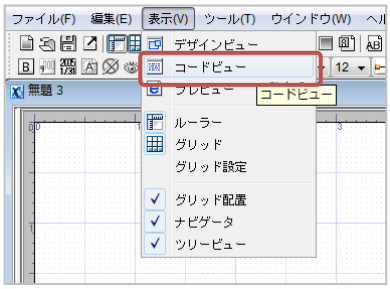
ツリービュー

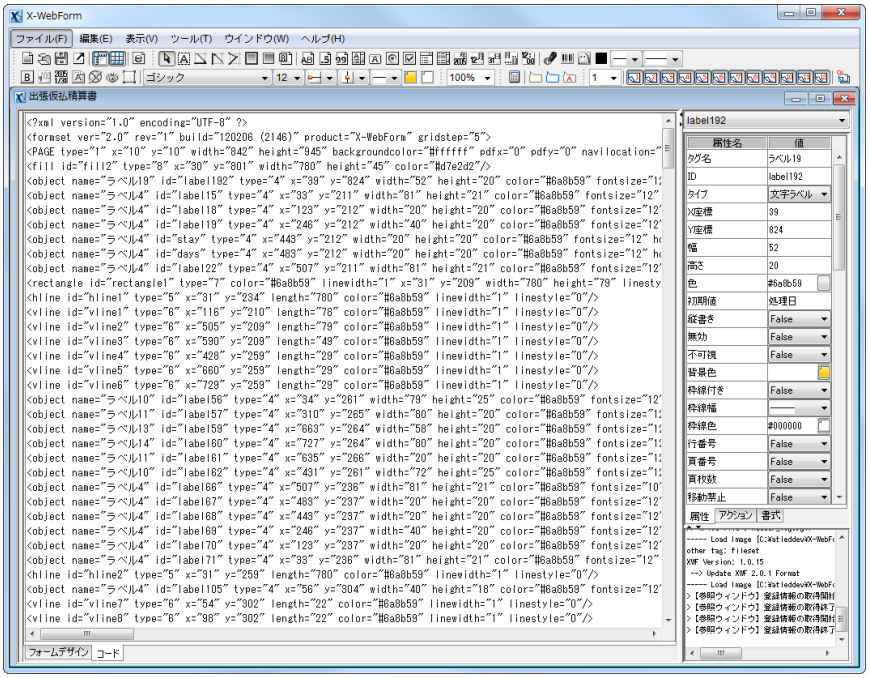
メニューバーの表示からツリービューをクリックすると、フォーム構造を現すツリービューが画面左側に表示されます。
フィールド･オブジェクトに限り､ツリー部をクリックすると配置されているコンポーネントを選択することができます。



コードビュー

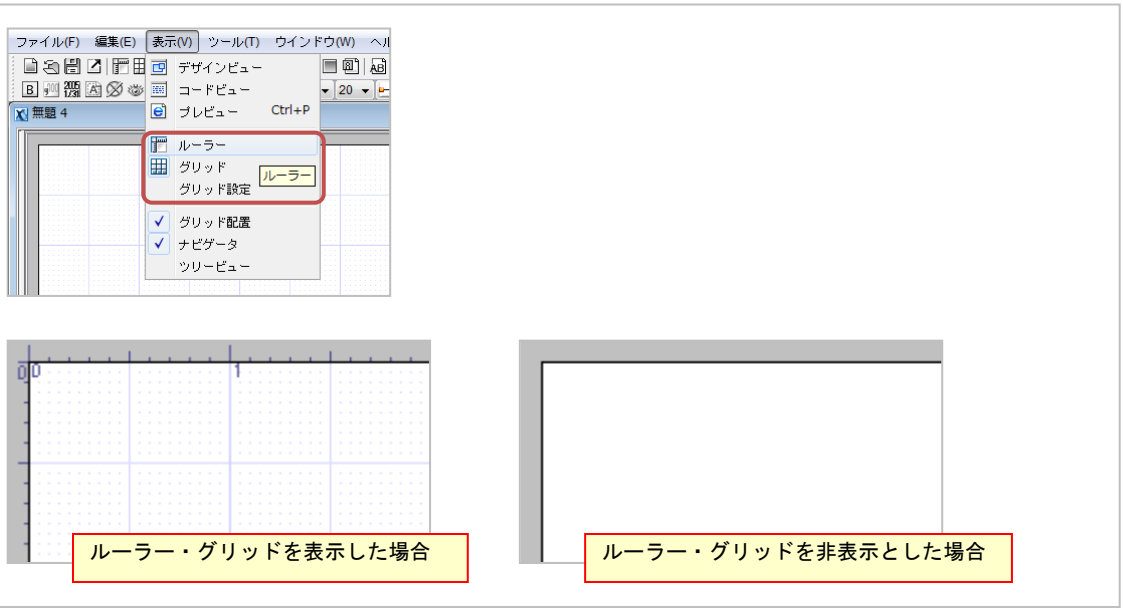
メニューバーの表示からコードビューをクリックすると、作成中のフォームに関する内部情報を XML 形式で参照することができます。直接編集による設定変更はサポートしておりませんのでご注意ください。



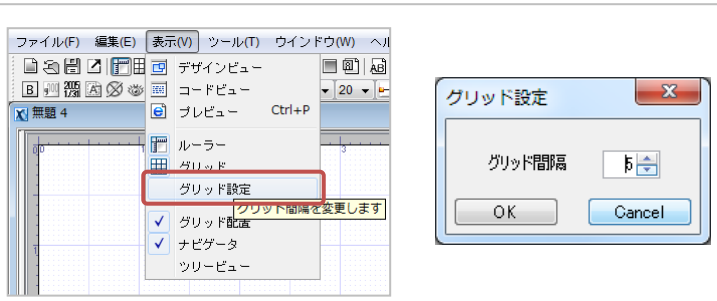


ルーラーとグリッド

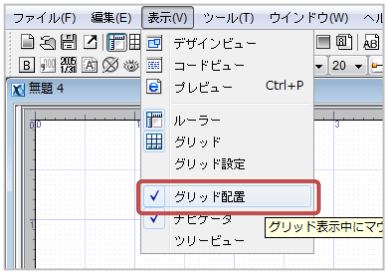
フォーム作成画面にはフォームサイズを現すルーラーとフィールドを配置する際の目安として利用するグリッド(格子状の線と点)が表示されます。ルーラーとグリッドを表示することで、座標位置を視覚的に認識することが可能です。



グリッドの間隔は“グリッド設定”画面から編集中のフォームに対してのみ一時的に行う事ができ、グリッド表示中はマウスによるフィールド作成、移動、サイズ変更の操作がグリッドに合わせて行うことができます。



グリッド表示中であっても“表示”メニュー内の“グリッド配置”を OFF にすることで 1 ピクセル単位での操作が可能になります。

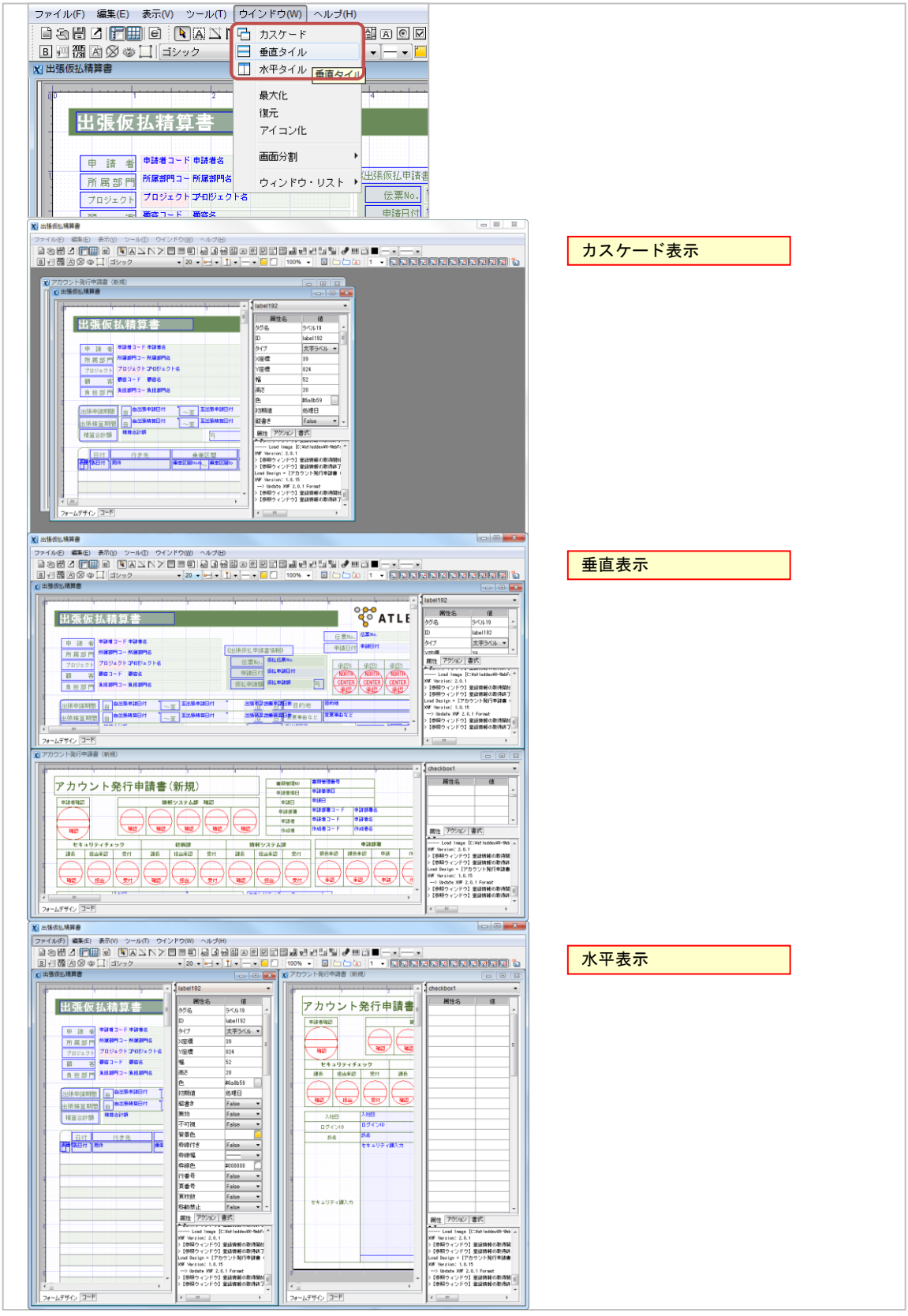


1.4.　ウィンドウ表示

X-WebForm では、フォーム作成をサポートするための様々なウィンドウ表示方式が用意されています。

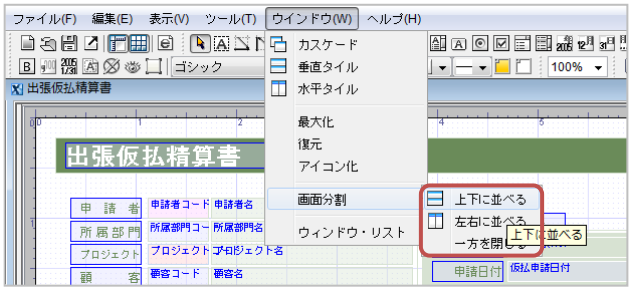
複数ウィンドウの表示

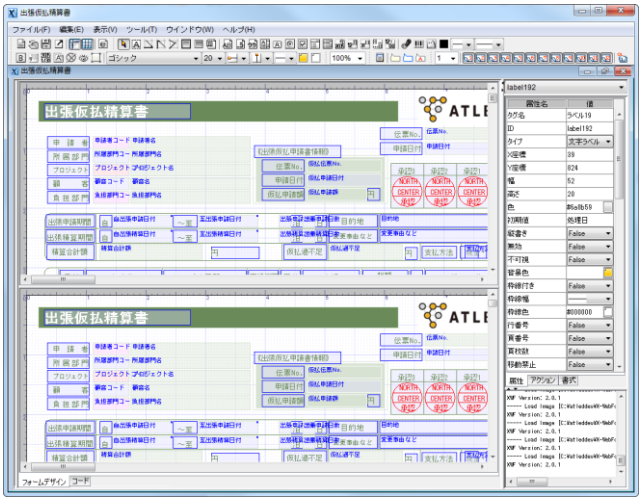
複数のフォームを開いている場合、各フォームのウィンドウをカスケード・水平・垂直表示に変更することが可能です。



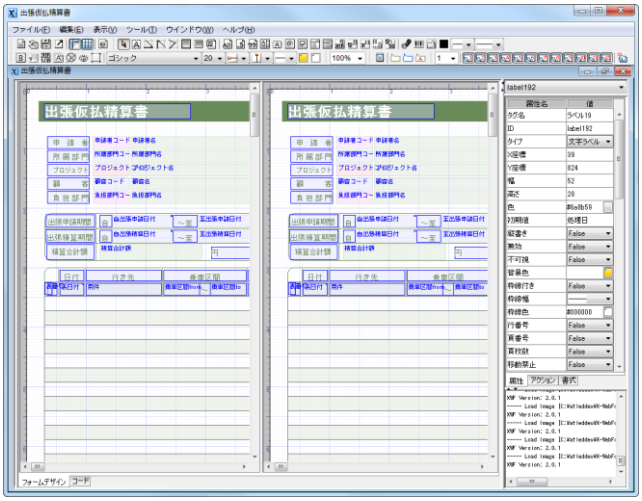
画面の分割

現在開いているデザインビューを水平・垂直に分割して表示することが可能です。





垂直分割



水平分割

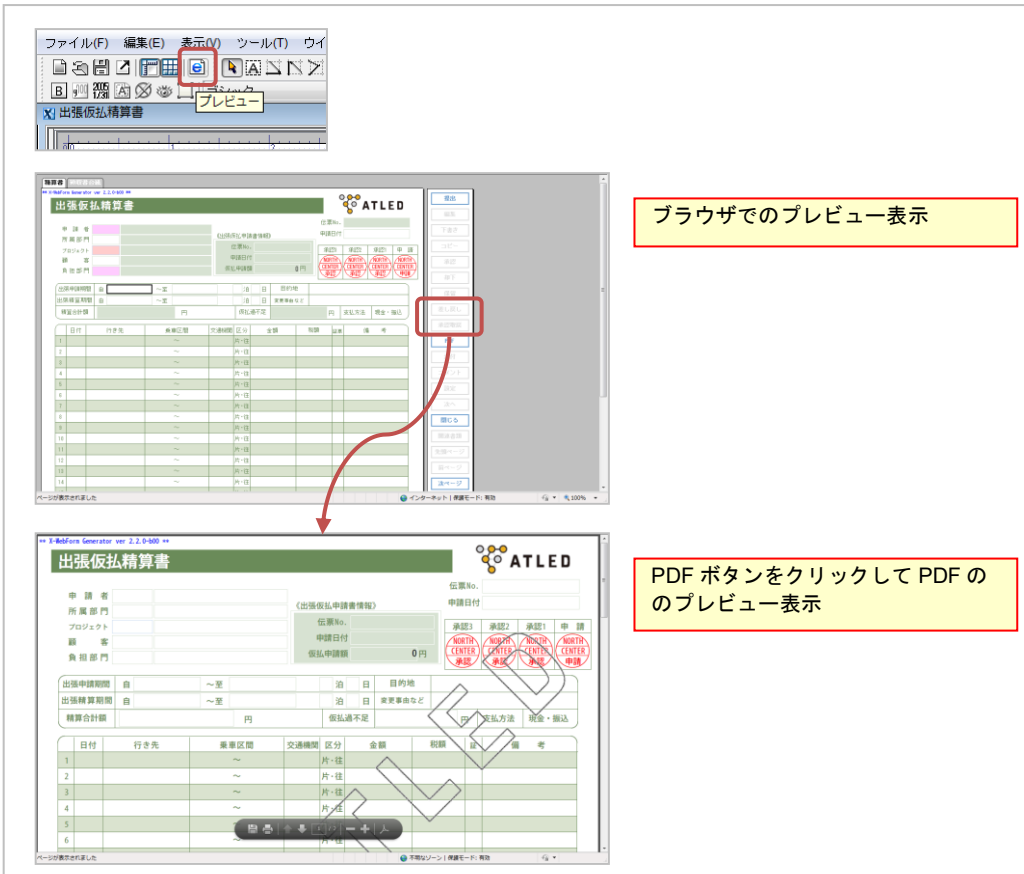
HTML・PDFレイアウト

[右クリック]-[表示切替]より、HTML レイアウトを表示するか PDF レイアウトを表示するか選択可能です。
画面を分割した状態でレイアウトを切り替えることで、HTML と PDF のレイアウトを両方表示しながらフォームを作成することも可能です。HTML と PDF とでレイアウトを変更する際に利用してください。



1.5. プレビュー表示

アイコンメニューバーにあるプレビューアイコンを押すと、X-WebForm に内蔵された JSP エンジンが起動され、作成中のフォームが実際にブラウザ表示された状態でレイアウトを確認することができます。X-WebForm 起動後の最初の 1 回に限り、JSP エンジンの起動に多少時間が掛かりますが 2 回目以降は高速に動作します。



- ブラウザに表示されるフォームや PDF 化した場合に表示される文字の状態やピッチはデザイン画面に表示されている状態と異なります。実際に運用する場合の画面はブラウザや PDF になりますので、プレビューはこまめに行って表示されるイメージの確認を行うようにして下さい。
- PDF レイアウトの確認は、プレビューで表示される入力フォーム(HTML)からナビボタンの「PDF」を操作して行います。
- X-WebForm が作成する PDF ファイルにはフォント名のみが指定されており、フォントデータの埋め込みは行われていません。そのため、PDF を表示するビューアが指定されているフォントを何に置き換えるかにより表示されるフォントが異なる場合があります。表示に利用する PDF ビューア(Adobe Reader 等)の種類、バージョンを揃えるようにしてください。
- プレビュー画面に数値やテキストを入力した後に、PDF ボタンを押すと入力した内容が PDF 画面にも表示されます。
- PDF プレビューは PDF ファイルのダウンロードとして実行されます。
- ブラウザ内に PDF を表示する為には、クライアント PC に「Adobe Reader」がインストールされている必要があります。Acrobat Reader がインストールされていない場合は、PDF ファイルのダウンロードダイアログが表示されます。
- PDF プレビューの中央には必ず「ATLED」と表示されます。

ヒント
内蔵エンジンはポート番号 8988 で動作します。このポート番号が利用できない場合は、動作環境の設定メニューより使用されていない別のポート番号に変更してください。

1.6. X-WebForm の終了

ウィンドウの閉じるアイコン、またはメニューバーの[終了]メニューより X-WebForm を終了します。

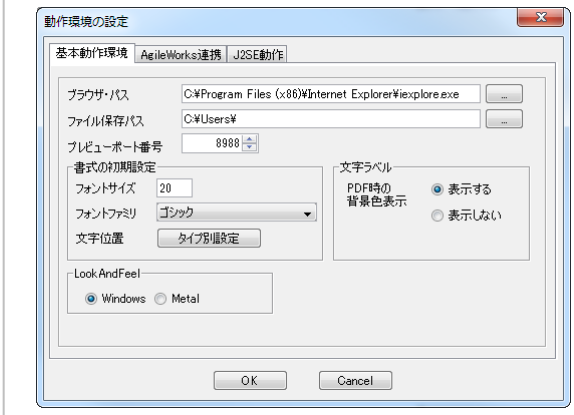
2. 基本設定

2.1. 動作環境設定

メニュー[動作環境設定]より、X-WebForm の動作に関わる設定や AgileWorks への接続設定を行います。

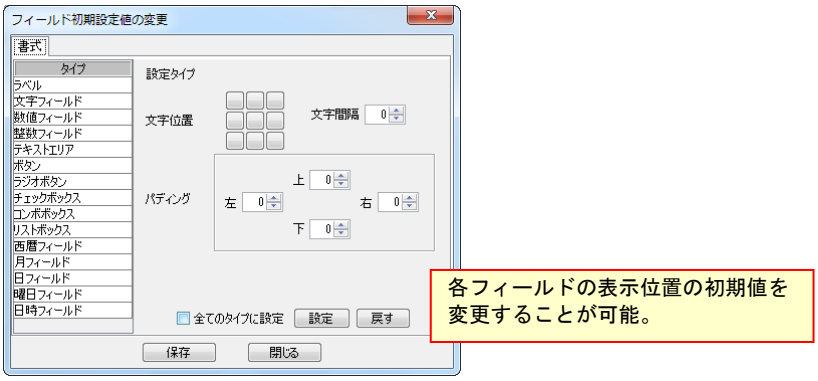
基本動作設定

X-WebForm デザイナのデフォルト環境を変更する場合に指定します。ファイルメニューより動作環境設定を指定します。



項目	説明
ブラウザ・パス	プレビューの際に使用するブラウザへのパスを指定します。初期状態では Internet Explorer のパスが指定されています。Google Chrome、Firefox、Edge を利用する場合はパスを変更してください。 ※ブラウザの制限事項により、Firefox を利用した場合は「閉じる」ボタンからウィンドウを閉じることは出来ません。その場合はウィンドウの閉じるボタンを利用してください。
ファイル保存パス	ファイルを開く、ファイルを保存する際に利用される初期フォルダパスです。初期値は、利用ユーザーのマイドキュメントになります。
プレビューポート番号	内部サーブレットエンジンが利用するポート番号です。初期値は 8988 です。
フォントサイズ	デフォルトフォトサイズを指定します。初期値は 20 です。
フォントファミリ	フィールドを配置した際に指定される初期フォントタイプになります。
文字位置	※後述参照
PDF 時の背景色表示	文字ラベルに背景色を指定した場合、PDF 出力時に背景色を表示するか否かの初期値を指定します。
LookAndFeel	X-WebForm の画面表示イメージを Windows イメージと Metal イメージで切り替えます。推奨設定は“Windows”です。

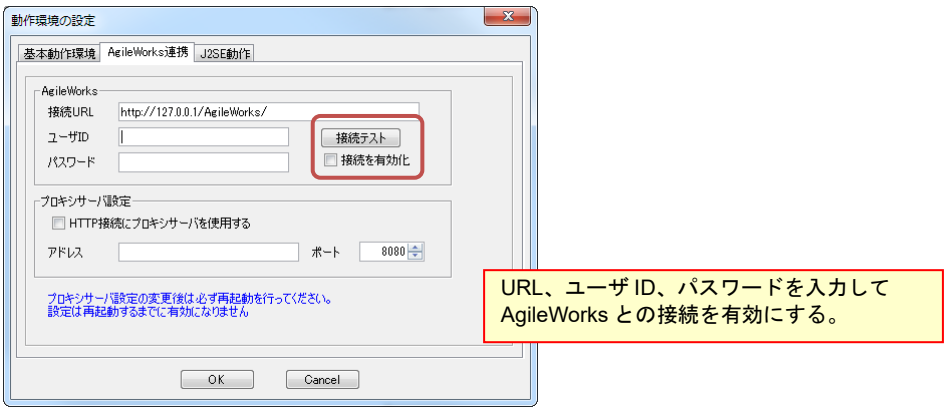
【タイプ別設定】ボタンをクリックすると、フィールド種類毎に表示文字・数値の垂直位置、水平位置、文字パディング(上下左右)の初期値を指定するダイアログが表示されます。指定後に作成するフィールドの初期値は設定内容に沿った動作になります。



項目	説明
タイプ	指定するフィールド種類を選択します。
設定タイプ	設定中のフィールド種類を青字で表示します。
文字位置	文字位置の初期値を 9 個のボタンから決定します。 ラベルは中央、文字列は左中段、数値は右中段が推奨です。
文字間隔	文字の間隔を指定します。
パディング	文字フィールド定義領域の上下左右に開ける空間の量を指定します。
全てのタイプに設定	チェックしている場合は、指定した内容を全てのフィールド種類に設定します。チェックを外している場合は指定タイプのみとなります。
設定	指定中の設定情報を仮保存します。
戻す	指定中の設定情報を元に戻します。仮保存の状態は元に戻ります。
保存	仮保存した設定内容を再起動後も維持される様に保存します。
閉じる	仮保存した内容を含め設定内容を破棄してウィンドウを閉じます。

AgileWorks 連携

AgileWorks への接続情報を設定します。



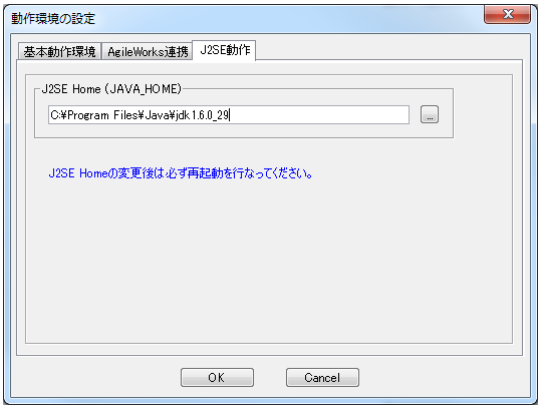
項目	説明
接続 URL	接続する AgileWorks サーバーへの URL を指定します。
ユーザ ID	接続するユーザ ID を指定します。
パスワード	接続ユーザのパスワードを指定します。入力値は伏せ字で表示されます。
接続テスト	指定された“接続 URL”、“ユーザ ID”、“パスワード”が正しいか、実際に AgileWorks サーバに接続して確認を行います。
接続を有効化	指定されているパラメータで AgileWorks への接続を行う場合にチェックします。チェックされない場合は、AgileWorks への接続は行われません。
HTTP 接続にプロキシサーバを使用する	AgileWorks に接続する際プロキシサーバを経由する必要がある場合にチェックします。チェック後、X-WebForm を再起動する必要があります。
アドレス	プロキシサーバのホスト名、もしくは IP アドレスを指定します。
ポート	プロキシサーバへのアクセスポート番号を指定します。

接続を有効とすることで以下の機能が有効となります。

- フォームダウンロード
- フォーム新規アップロード
- フォーム修正アップロード
- マスタ参照ウィンドウ管理
- フィールドのマスタ参照ウィンドウ設定
- フィールドのルックアップ設定
- コンボボックス/リストボックス選択候補へのデータソース設定
- プレビュー時におけるマスタ参照ウィンドウ、データソースの動作

J2SE動作

X-WebForm の動作に使用する J2SE のパスを指定します。
通常インストール後に変更する必要はありませんが、JavaVM のアップデート等が必要になった場合、新しい JavaVM のパスを指定します。設定を変更後は X-WebForm の再起動を行なってください。

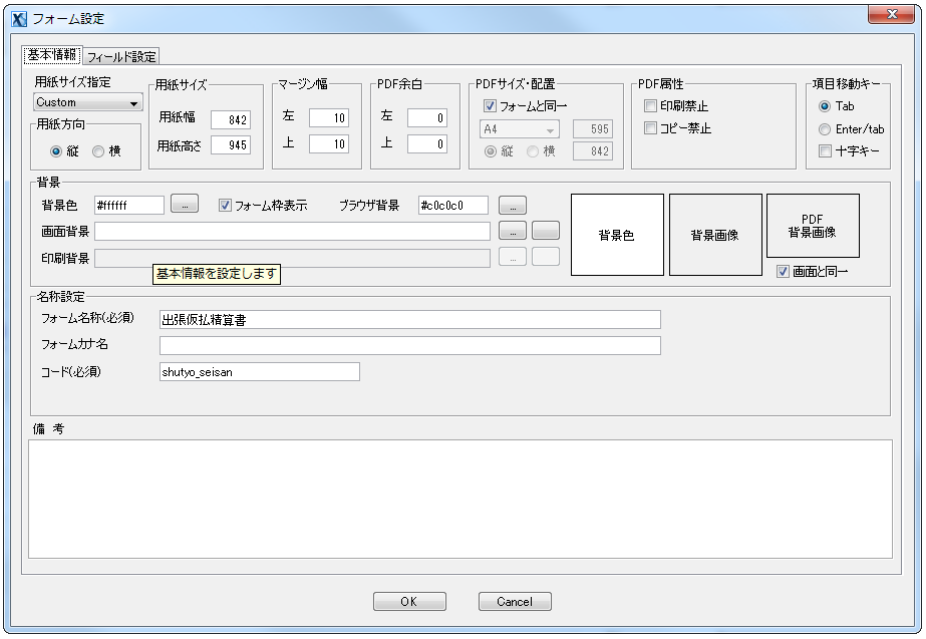


2.2. フォーム設定

メニュー[フォーム設定]より、フォームやフィールドの基本情報の設定を行います。

基本動作設定

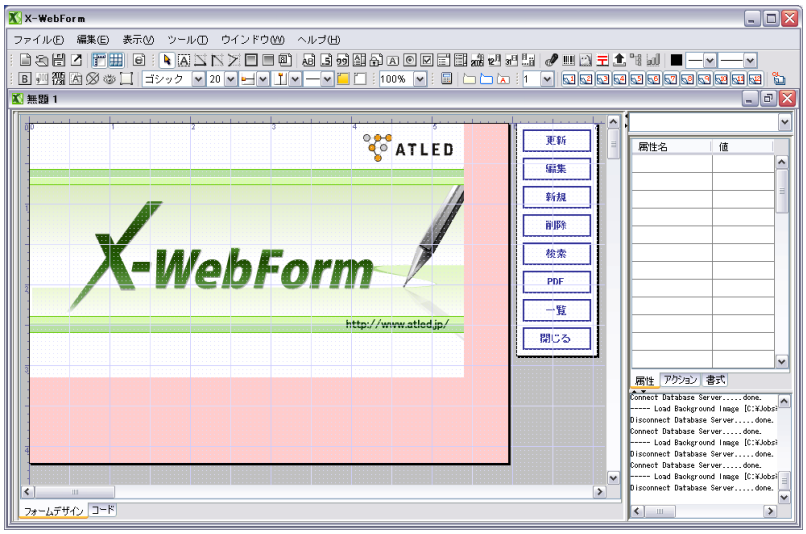
作成するフォームの基本的な情報を設定します。



項目	説明
用紙サイズ指定	用紙のサイズを指定します。 必要な用紙サイズが無い場合は、「Custom」を選択し、用紙サイズをピクセル値で指定します。インチサイズの場合は 1 インチ(約 2.54cm)＝72 ピクセル相当で換算して下さい。
用紙方向	用紙の向きを指定します。
用紙サイズ	用紙サイズをピクセル値で指定します。
マージン幅	ブラウザに表示する際、ブラウザ内の表示領域における画面左上からの距離をピクセル値で指定します。
PDF 余白	PDF ファイルを作成する際に用紙の左側と上側に余白を作ることができます。余白サイズはピクセル値で指定します。
PDF サイズ指定	PDF のレイアウトをブラウザ入力フォームと異なるレイアウトとする場合に詳細を指定します。 ■フォームと同一 ブラウザ入力フォーム(HTML)と PDF 作成時のレイアウトを同じにする場合チェックします。デフォルトはチェックされた状態となります。 ＜入力フォーム(HTML)と PDF のレイアウトを変える場合＞ チェックを外すと入力フォーム(HTML)と PDF のレイアウトは異なったものとなります。フィールドの配置、サイズは、[デザイナ画面右クリック]-[表示切替]より HTML レイアウトと PDF レイアウトの表示を切り替えながら、それぞれのレイアウトにおけるフィールド配置位置の調整を行う必要があります。 デザイン・設定するの際は、以下の機能を活用してください。 a. [デザイナ画面右クリック]-[画面分割] レイアウトを画面上分割して表示する機能となります。 両方のレイアウトを確認しながら設定できます。 b. [フィールドを選択して右クリック]-[配置]-[HTML(PDF)に反映] 両方のレイアウトで配置位置が同一の場合、 本メニューにより片方のレイアウトに設定された配置位置を もう片方のレイアウトに反映することが可能です。 ■ 用紙サイズ・縦・横

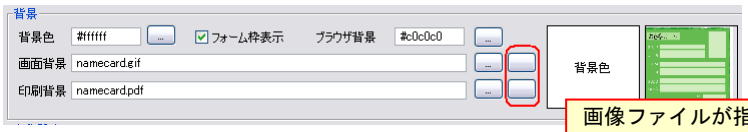
	PDF レイアウトの用紙サイズを指定します。
PDF 属性	作成する PDF に属性を指定することができます。 ■ 印刷禁止 PDF を閲覧するビューアで印刷操作を不可能にする為の情報を PDF に追加します。但し、全てのビューアで動作するわけではありません。対応ビューアが必要です。(一般的なビューアは対応しています) ■ コピー禁止 PDF を閲覧するビューアで <CTRL>+C 操作等によるクリップボードへのコピー操作を禁止する情報を PDF に追加します。 但し、全てのビューアで動作するわけではありません対応ビューアが必要です。(一般的なビューアは対応しています) ＜注意事項＞ 「印刷禁止」「コピー禁止」属性を有効にすると AgileWorks の証跡 PDF や関連書類の一括 PDF 化ができないという制限事項があります。
項目移動キー	フォームを表示した際に、項目間の移動をタブキーでおこなうか、Enter キー&タブキーで行うかを指定します。 「十字キー」をチェックすると表以外の項目において、左右矢印 (←/→) による項目移動ができるようになります。
背景色	用紙の色を指定します。 サンプルタブではよく利用される色を選んで指定することが可能です。HSB タブでは、色相成分(H)、色の彩度(S)、色の明度(B)で指定します。RGB タブでは、赤(R)、緑(G)、青(B)で指定します。 色番号フィールドを利用すると、16 進数表記で色を指定することができます。
フォーム枠表示	ブラウザ表示の際に用紙枠の表示を行いません。
ブラウザ背景	ブラウザ表示の際に用紙背景部分の色を指定します。
画像背景	通常背景に設定される用紙に代えて、GIF・JPEG・PNG 等の画像を背景として利用することができます。既存の書類をスキャナー等で取り込み背景に利用することで、作業効率が大幅に向上します。 フォームデザイン画面で用紙(白い表示部分)の外側に画像をドロップすることでも設定できます。また、表示する画像が別の Web サーバーにある場合は”http://”から始まる URL を記述します。
PDF 背景	PDF に背景表示する PDF・GIF・ JPEG・ PNG を指定します。 画像を指定した場合に限り設定画面内に小さく表示されます。PDF の場合は表示されません。画像表示欄下の「画面と同一」にチェックがされている場合、背景画像と同じ画像を PDF 背景にも使用します。 ＜注意事項＞ 背景 PDF を利用する場合、利用する PDF の基準座標が PDF の左下になければなりません。”Adobe Illustrator”など座標指定が可能なソフトウェアで PDF を作成する場合は注意してください。
フォーム名称	フォームの表示名を指定します。
フォームカナ名	フォームのカナ名を指定します。本設定は AgileWorks では利用されません。
コード	フォームのコードを指定します。
備考	備考を指定します。本設定は AgileWorks では利用されません。

＜【補足】背景画像と背景色の関係について＞
背景色と背景画像の両方を指定した場合、以下の図のように背景色の上に背景画像が重なって表示されます。

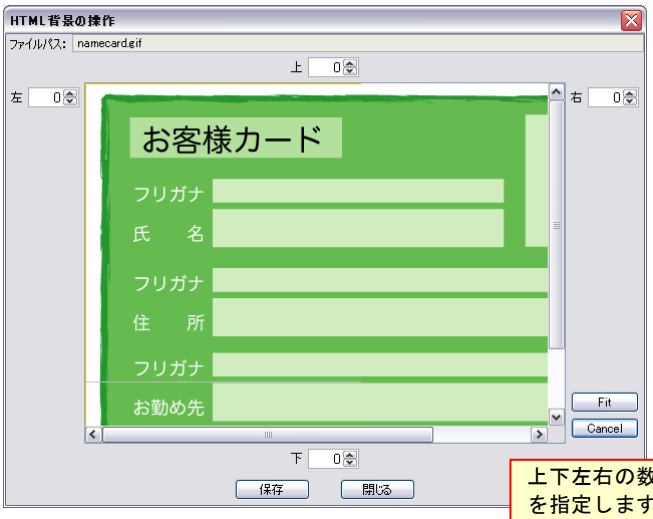


＜【補足】背景画像のサイズ調整について＞

背景画像として指定した画像が用紙サイズより大きい場合や､指定した画像の端を取り除きたい場合に画像のサイズを調整することができます。画像の縁に線などが含まれているような場合に、線を取り除くことができます。(GIF・PNG・JPG の場合のみ可能です)



画像ファイルが指定されている項目の右にあるボタンをクリックすると修正用の画面が表示されます。



上下左右の数値項目を操作し、画像の切り取り位置を指定します。数値を指定すると画像の隅からオレンジ色の線が移動し切り取り位置を示します。シルバーの線は用紙サイズを表しています。

切り取り範囲が指定できたら「保存」ボタンを押して画面を閉じます。

⚠ 注意事項
簡易処理である為、サイズ調整を行うと画質が低下する場合があります。変換後の画質が許容範囲とならない場合は市販の画像修正・変換ソフトを利用して下さい。

フィールド設定

デフォルトのタブ移動順序指定、項目属性、及び表示情報の指定を行います。



■ 表示階層

フィールドが一覧表示されるリスト内に表示するフィールドの階層を指定します。フォーム内で表定義（繰り返し）、ラジオボタン・グループ等を利用している場合は、それらがツリー形式で表示されます。ツリーの名称部分をクリックすると、一覧表の内容が切り替わりますので、それぞれの階層内でのフィールド設定変更や、項目の並び変えを行います。

■ 共通背景色

必須項目、編集禁止、無効項目として指定されたフィールドの背景色を指定します。個々のフィールドに背景色指定が無い場合に、この設定が使用されます。

■ マウスオーバー時の枠

フォームの入力フィールド上にマウスカーソルが存在する場合にフィールドの枠表示を変化させます。初期値は赤(#DD0044)となります。

■ フォーカス取得時の枠

フォームの入力フィールドがフォーカスを取得した際にフィールドの枠表示を変化させます。標準状態では黒(#000000)で表示されます。

■ フィールド一覧

項目	説明
表	表定義に利用されているフィールドの場合、使用されている表の定義名を表示します。
Group	グループ化されているフィールド（ラジオボタンなど）の場合、使用されているグループの定義名を表示します。
タグ名	フィールドの名称です。
ID	フィールドの ID です。
タイプ	フィールドの型(文字フィールド、数値フィールドなど)を表示します。
必須	フィールドを必須とするかどうかを指定します。
順序	フィールドの順序を入れ替えます。TAB 移動順を変更する際に利用します。 順序はフィールドの列をドラッグ&ドロップすることでも変更可能です。
ショートカットキー	フィールドに対するショートカットキー指定を行います。 キーには 0～9 までの数値を指定し、空白の場合はショートカットは動作しません。キーが指定されると、ブラウザにフォームが表示されている際に、<ATL>キーと同時に数値キーを押下すると、対応するフィールドにフォーカスが移動します。 表定義内のフィールドの場合は、表の 1 行目にあるフィールドに移動します。

	また、複数ページ構成の場合に表示中のページ以外のページにフィールドがあると、フォーカス移動と同時にページ切り替えが発生します。

2.3. 初期設定ファイルの編集

起動用の初期設定ファイルを変更することで、フォーム新規作成の際に設定される情報を変更することができます。
初期設定ファイルは以下のディレクトリに配置されています。

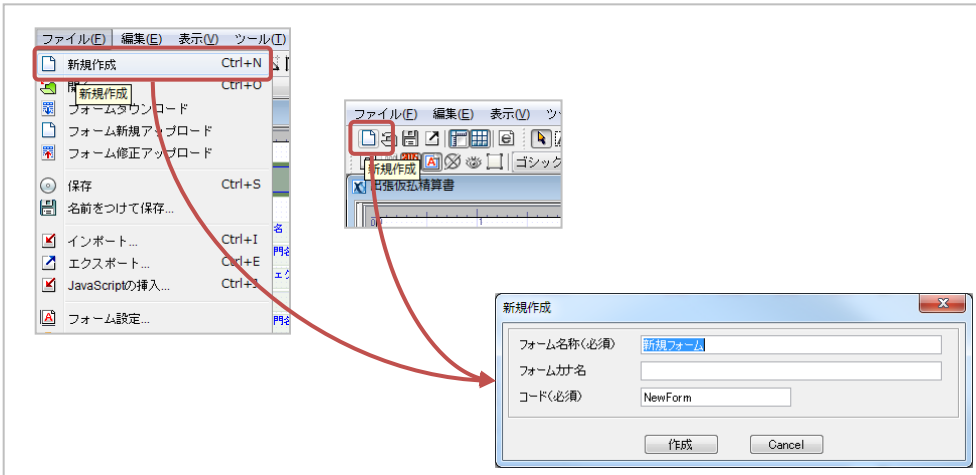
(インストールディレクトリ)/conf/designer/formconfig.properties

カテゴリ	パラメータ名	説明
用紙サイズ	width	用紙幅（ピクセル値）
	height	用紙高さ（ピクセル値）
PDF 余白	pdfx	PDF 左余白（ピクセル値）
	pdfy	PDF 上余白（ピクセル値）
初期画面サイズ	ie_width	ブラウザ設定の初期画面横サイズ。ie_size=size で有効
	ie_height	ブラウザ設定の初期画面縦サイズ。ie_size=size で有効
	ie_size	normal:指定なし/full:最大化/size:指定サイズ
項目移動キー	Enterkey	false:Tab/true:Enter
左右矢印移動	moveallow	false:無効/true:有効
ナビゲータ表示	navilocation	ナビゲータの表示位置（north/south/east/west）
	navipopup	ナビゲータのポップアップ表示
	shownavigator	ナビゲータを表示する・しない
背景	backgroundcolor	色コード(16 進)で指定します。（#ffffff）
	backgroundimage	ブラウザ背景画像
	templatepdf	PDF 背景画像・PDF
PDF 作成	createpdf	PDF 作成の初期指定
	userpassword	※現状 Version では指定できません
	ownerpassword	※現状 Version では指定できません
	restrictprint	true :PDF ビューアで印刷が利用できない false:PDF ビューアで印刷が利用できる
	restrictcopy	true :PDF ビューアで<CTRL>+C が利用できない false: PDF ビューアで<CTRL>+C が利用できる
文字コード	pagecharset	ブラウザ表示コード（utf-8/Windows-31J） ※ AgileWorks 連携の際は utf-8 のみ指定可。
	pageencoding	JSP 文字コード（utf-8/Windows-31J） ※ AgileWorks 連携の際は Windows-31J のみ指定可。
マウスオーバー時の枠	mouseoverborder	フィールド上をマウスカーソルが移動した際に枠を表示する
	mouseoverbordercolor	枠の色(#DD0044)
	romouseoverborder	フィールドが R/O の際に表示するか否か
フォーカス取得時の枠	focusborder	フィールドがフォーカスを取得した際に枠の色を変化させるか否か
	focusbordercolor	枠の表示色(#000000)
初期値操作	hiddenvalue	ブラウザ表示で利用する HTML 内に初期値を含めるか否か。含めない場合は、別途 Ajax 通信により取得・表示される。

3. フォームの読み込み・保存

3.1. フォームの新規作成

新規作成アイコン、またはメニュー[新規作成]から新規作成ダイアログを表示し、項目を入力して【作成】ボタンをクリックすると新規状態のフォームが表示されます。

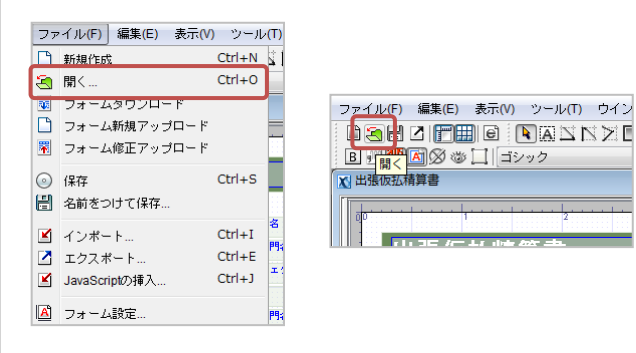


項目	説明
フォーム名称	フォームの表示名を指定します。
フォームカナ名	フォームのカナ名を指定します。本設定は AgileWorks では利用されません。
コード	フォームのコードを指定します。

3.2. フォームの読み込み

ファイルから開く

開くアイコン、またはメニュー[開く]より、保存された XWF ファイルまたはエクスポートされた ZIP ファイルを読み込みます。



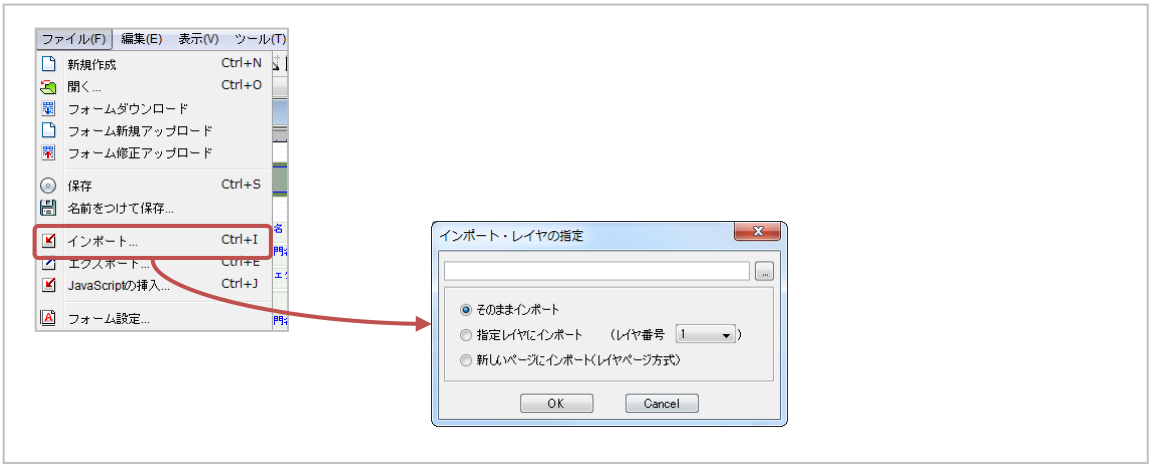
> ⚠ 注意事項
> 弊社製品「X-point」のフォームデザインツール「eFormMaker」で作成した TSF/EFM ファイルはサポートしておりません。必ず X-WebForm for AgileWorks で作成した XWF ファイルを利用してください。

インポート

別のファイルに格納されているフォームを現在編集中のフォームに取り込むことができます。取り込む際には取り込み先を特定のレイヤに指定することができ、個別に作成したフォームを複数ページ構成のフォームに変換する作業の助けにな

ります。

メニュー[インポート]からインポートダイアログを表示し、インポートする XWF ファイルと方式を入力して【OK】ボタンをクリックします。



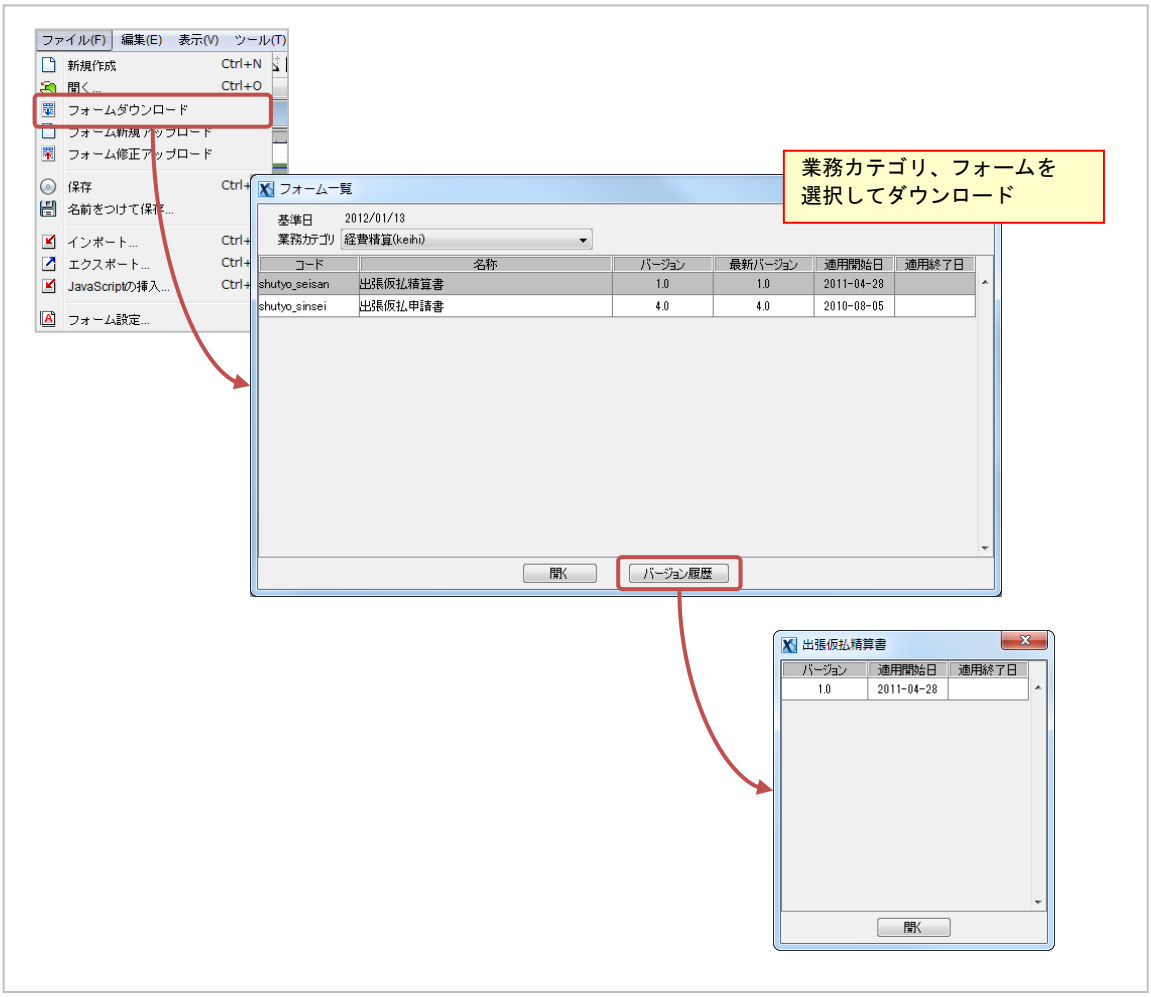
項目	説明
インポートファイル	XWF ファイルを指定します。
そのままインポート	指定されたフォームを編集中のフォームにマージします。
指定したレイヤにインポート	指定されたフォーム・ファイルに含まれているフィールド、図形をインポートの際に特定レイヤ番号に変更して編集中フォームにマージします。
新しいページにインポート	指定されたフォーム・ファイルを新しいページに取り込まれるよう、空きレイヤ番号に変更して編集中フォームにマージします。編集中フォームが“単一ページ”の場合は“レイヤページ構成”に変更されます。 インポートするフォームのサイズが異なる場合は、追加ページのサイズがインポートするページのサイズに設定されます。 また、インポートするフォームに背景画像が指定されている場合は、追加したページのみにインポートページの背景画像が設定されます。

インポートするフォームのサイズが異なる場合は、追加ページのサイズがインポートするページのサイズに設定されます。

ダウンロード

AgileWorks と接続している場合、登録されているフォームをダウンロードすることが可能です。

メニュー[フォームダウンロード]より、ダウンロードダイアログを表示し、フォームを選択してダウンロードします。
【バージョン履歴】ボタンより、選択されたフォームの過去バージョンをダウンロードすることも可能です。

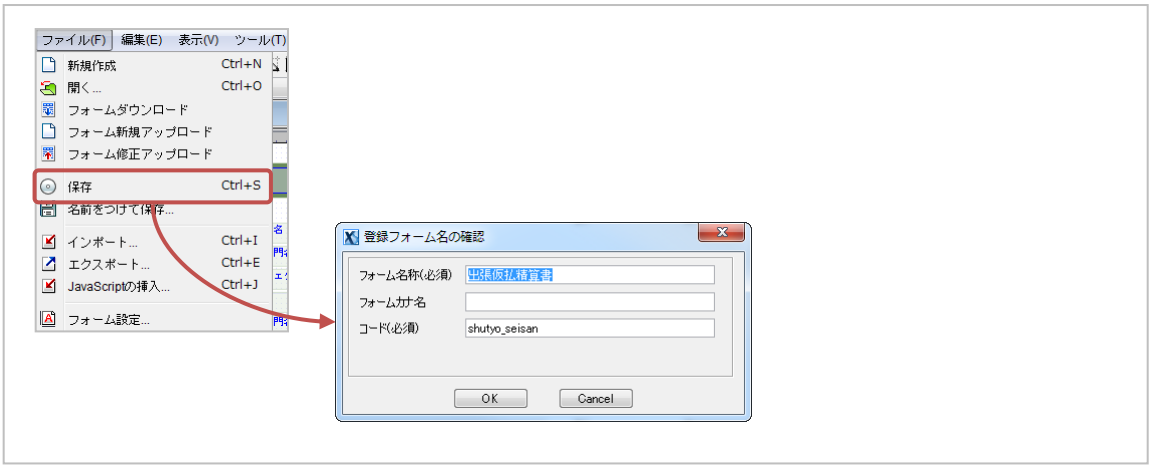


3.3. フォームの保存

ファイルに保存

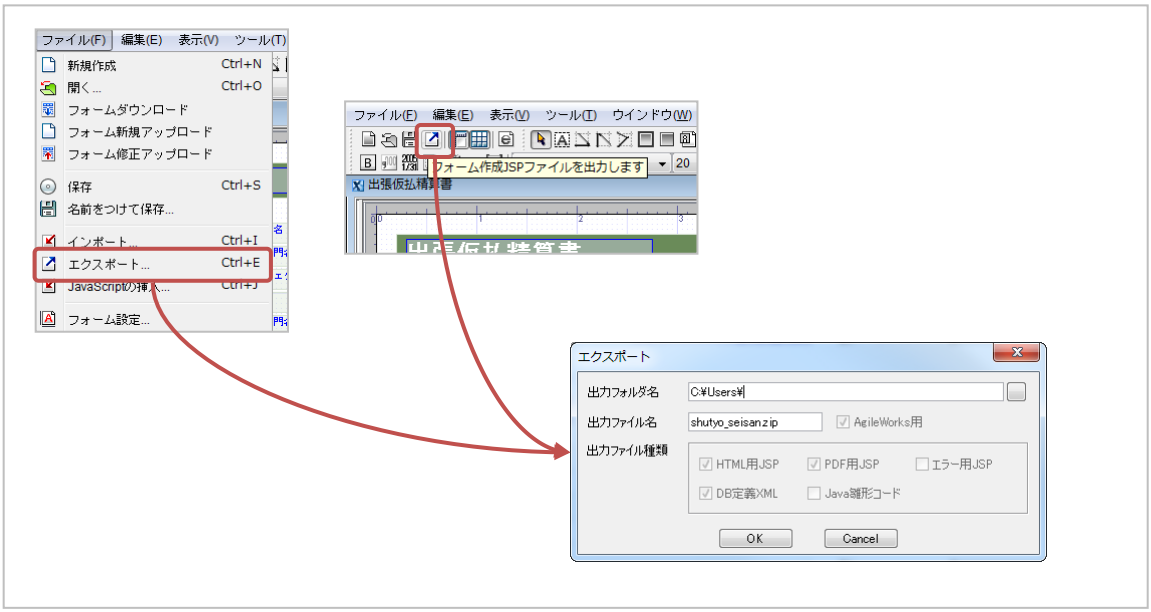
保存アイコン、またはメニュー[保存]から、現在表示しているフォームを XWF ファイルに保存します。
保存前には登録フォーム名の確認ダイアログが表示されますので、内容を確認の上【OK】ボタンをクリックすることで保存が完了します。

別名で保存する場合はメニュー[名前をつけて保存]を選択してください。



エクスポート

エクスポートアイコンから、現在表示しているフォームを ZIP ファイルにエクスポートします。
AgileWorks へフォームを登録する場合は、XWF ファイルではなくこの ZIP ファイルを管理サイトよりアップロードします。

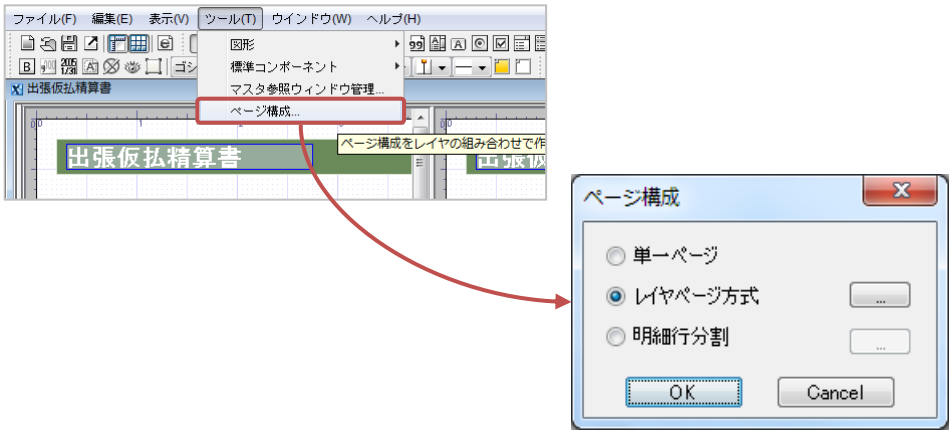


項目	説明
出力フォルダ名	ZIP ファイルを出力するフォルダを指定します。
出力ファイル名	ZIP ファイルの名称を指定します。

4. フォームレイアウトの設定

4.1. ページ構成

デフォルトでは表示するフォームは全て単一ページとなりますが、[ツール]-[ページ構成]でフォームのページ構成を 3 種類のタイプから選ぶことができます。



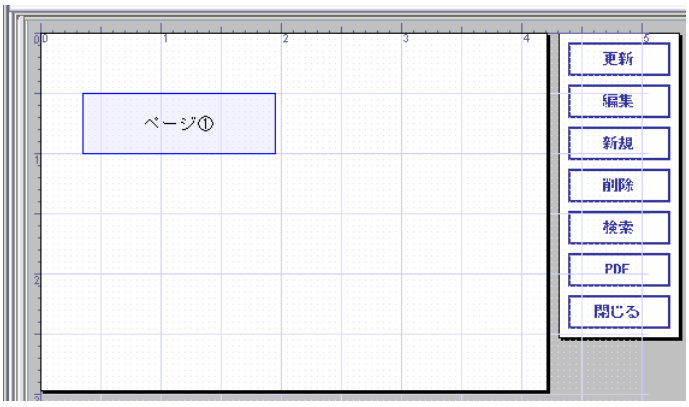
項目	説明
単一ページ	ブラウザ表示、PDF 出力はいずれも 1 ページになります。
レイヤページ方式	指定されたレイヤをひとつのページとしページ切り替えを行うブラウザ表示を行います。PDF 出力はページ毎に改ページを行います。
明細行分割	1 つのスクロール表を元に明細行を複数 PDF ページに印刷する方式です。 レイヤページ方式に統合されました。本機能は下位互換機能の為、将来的に廃止される予定です。

4.2. レイヤページ方式

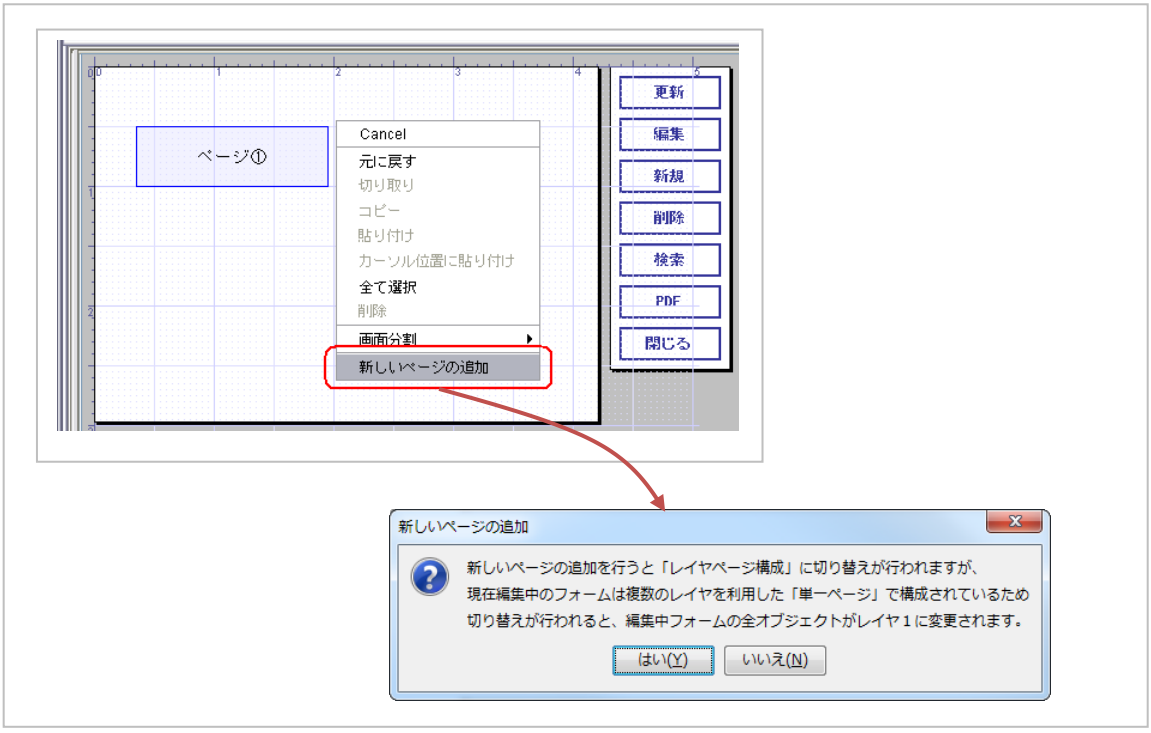
ページ構成画面で"レイヤページ方式"を指定することで、一つのレイヤを一つのページに見立て複数ページに渡るブラウザ表示、PDF 作成を行う事ができます。以下にレイヤページ方式での動作例を示します。

基本設定

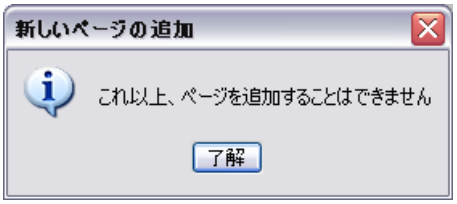
始めに先頭のページに通常フォーム作成と同様にフィールドを配置します。



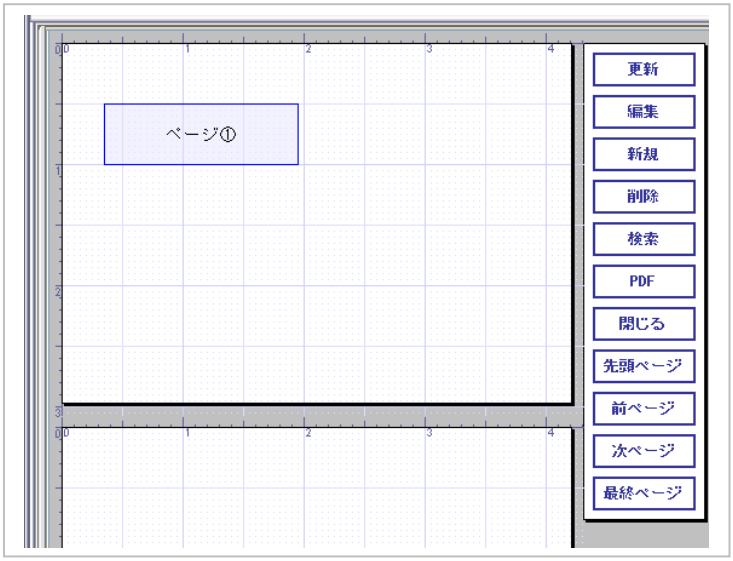
フォームを作成したらフォーム上でマウス右ボタンをクリックし「新しいページの追加」を選択します。
ページ構成の切替確認画面が表示されたら「はい(Y)」をクリックします。



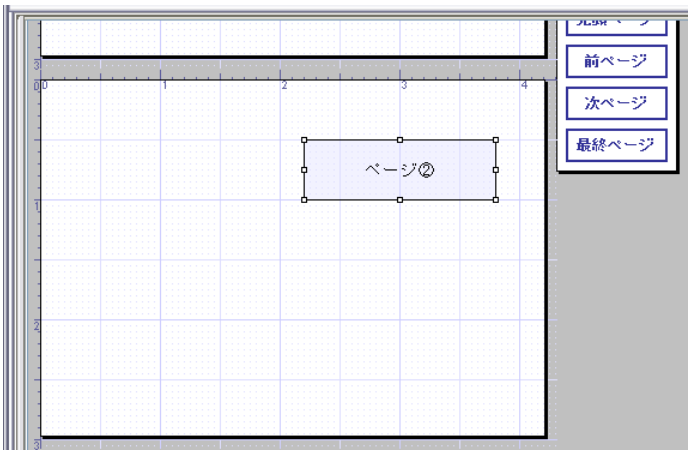
空きレイヤ番号が無くなると、ページ追加できないことを示すダイアログが表示されます。



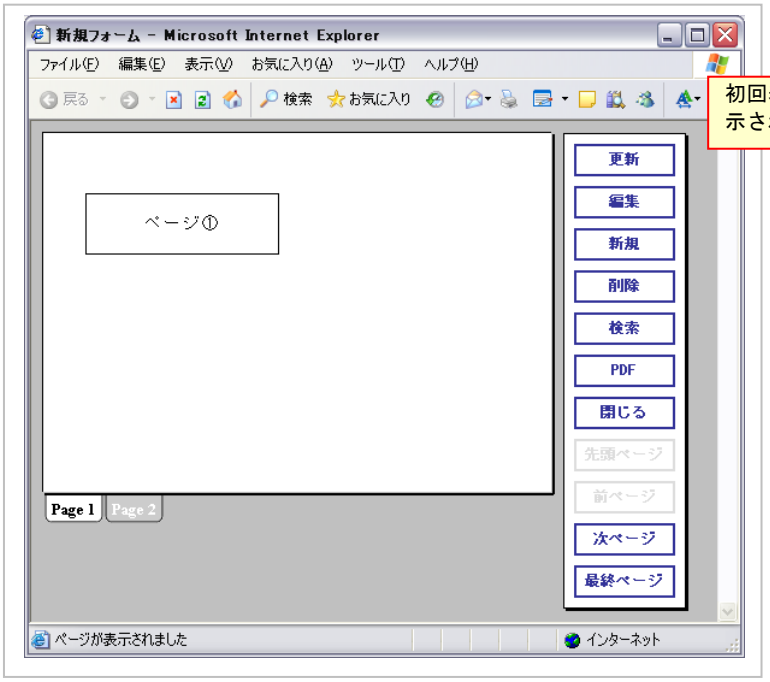
フォーム編集画面に表示されている編集中フォームの下に新しいフォームが追加されます。



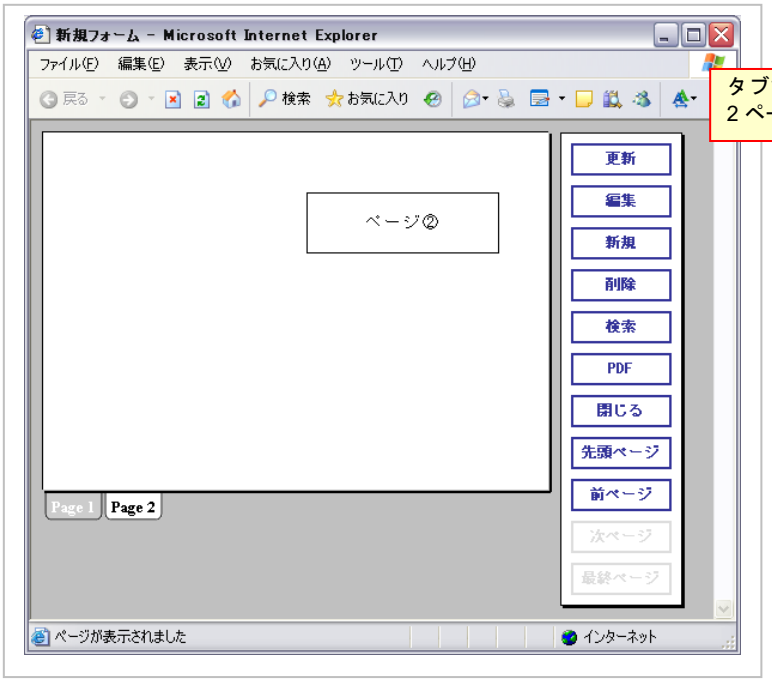
2 ページ以降にフィールドを配置していきます。



作成したフォームをプレビューすると、ページ 1 指定したレイヤ 1 の内容が表示されます。「Page 1」、「Page 2」と表示されているタブによってページを切り替えます。

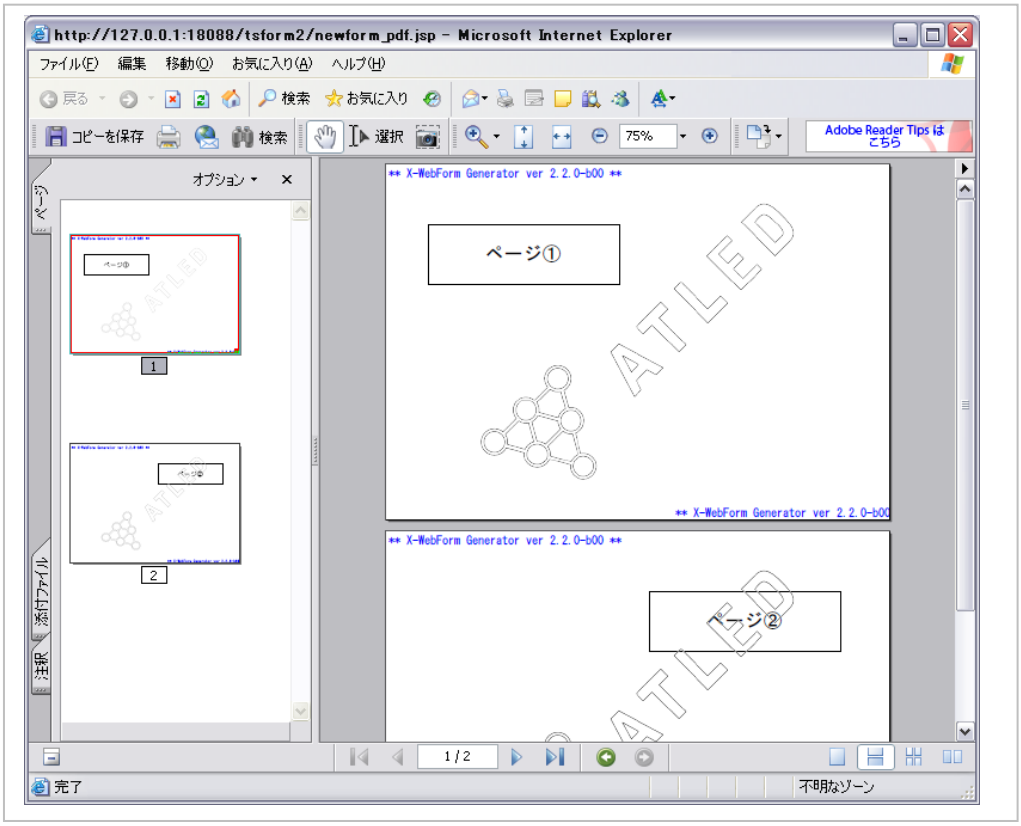


初回表示時は 1 ページ目が表示される



タブでページを切り替えると 2 ページ目が表示される

PDF 出力を行うと複数ページで出力されます。

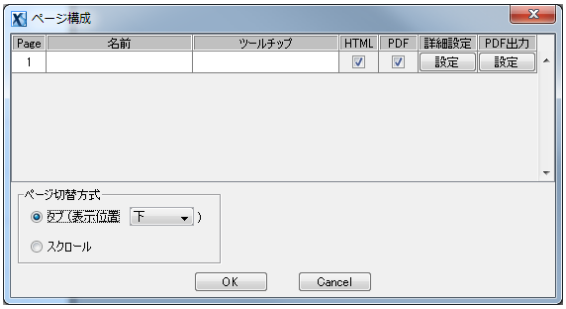


ページの削除

フォーム表示画面内で[右クリック]-[ページの削除]を選択すると、メニュー表示の直前までマウスカーソルがあった位置のページが削除されます。削除を行うとそのページ上に配置されていたフィールドも削除されます。

レイヤページ構成設定

ページ構成切替画面から、レイヤページ構成設定画面を表示します。
本画面より、ページ切り替えの方式や HTML/PDF の表示条件などを指定します。



■ ページ情報とページ切替方式の設定

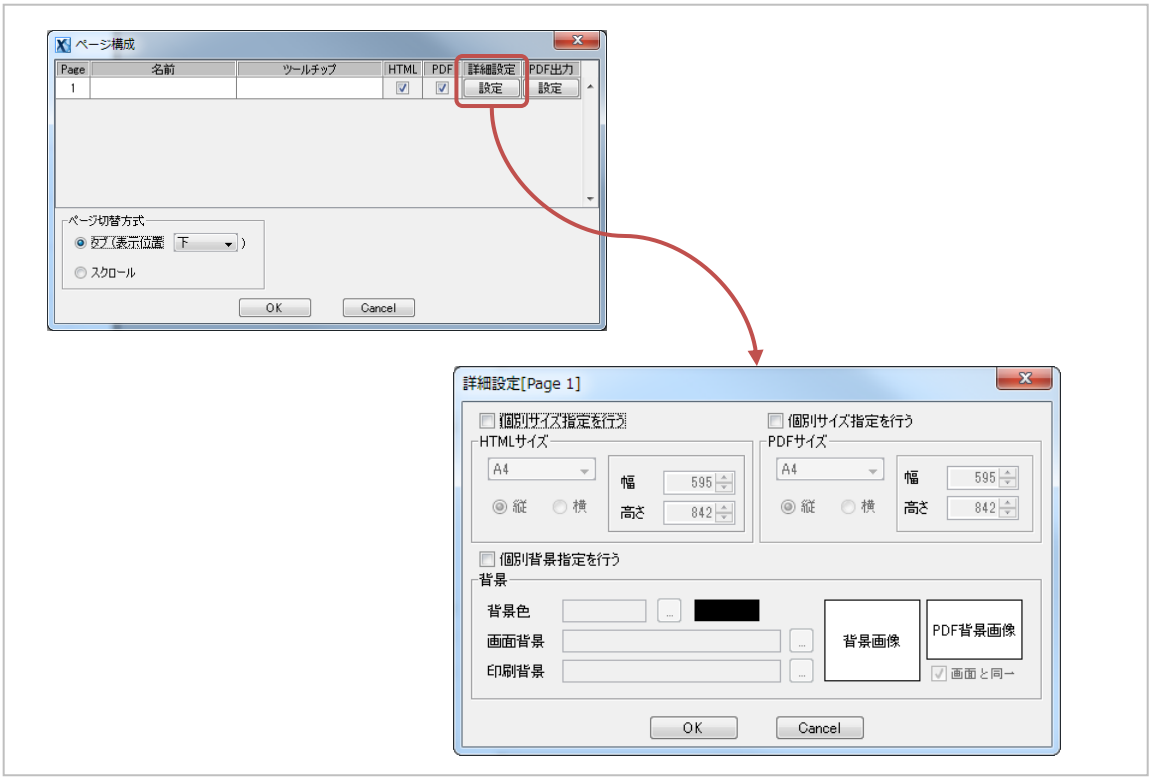


項目	説明
名前	ページ切替方式が「タブ」の場合に、タブに表示する文字列として利用されます。
ツールチップ	ページ切替方式が「タブ」の場合に、タブにマウスカーソルを合わせた場合に表示するツールチップとして利用されます。
HTML	ブラウザ上でページを表示するかどうかを指定します。
PDF	PDF 上でページを表示するかどうかを指定します。

ページ切替方式	タブを選択した場合、表示されるページは常に 1 ページのみとなり、ページ切り替えは指定位置に表示されたタブによって行います。Ctrl＋数値キー(1～10 まで)での切り替えも可能です。 スクロールを選択した場合、全ページが縦に展開されます。
タブ表示位置	タブの表示位置を上下左右から選択します。

■　ページの詳細設定

通常の動作では各ページのサイズ、背景色、背景画像は「フォーム設定」で指定した内容で表示されますが、「ページ構成」画面の”詳細設定”欄のボタンから個別設定を行う事で設定した画面に限りサイズ、背景色、背景画像を変更する事ができます。

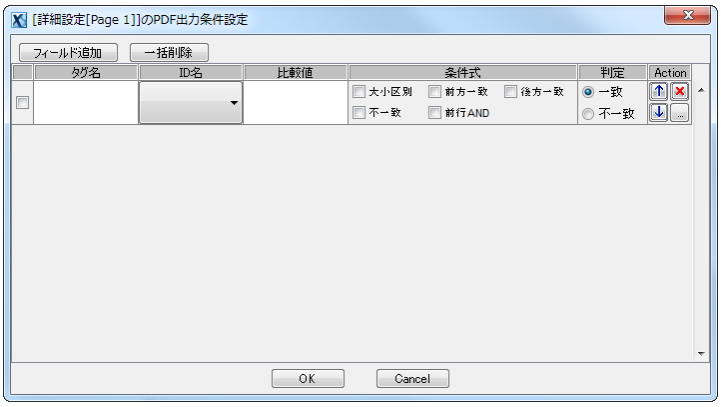


項目	説明
個別サイズ指定を行う	個別サイズの指定を有効にする場合にチェックします。チェックしない場合は、フォーム設定での指定内容となります。
HTML/PDF サイズ	HTML/PDF の用紙サイズを指定します。必要な用紙サイズが無い場合は、「Custom」を選択し、用紙サイズをピクセル値で指定します。インチサイズの場合 1 インチ(約 2.54cm)＝72 ピクセル相当で換算して下さい。
個別背景指定を行う	個別設定の指定を有効にする場合にチェックします。チェックしない場合は、フォーム設定での指定内容となります。
背景色	入力フォームの背景色になります。PDF には出力されません。 同時に背景画像が指定されている場合は、画像表示されない余白部分の色になります。 指定を省略した場合は、フォーム設定で指定されている色になります。 指定した背景色はダイアログ表示ボタンの右にサンプル表示されます。
画面背景	GIF・JPEG・PNG 等の画像を入力フォームの背景に表示します。 指定を省略した場合は、フォーム設定で指定されている画像になります。 指定した画像は入力ダイアログ横の領域に縮小表示されます。
印刷背景	PDF・GIF・ JPEG・ PNG を PDF 作成時に背景として利用します。 指定を省略した場合は、フォーム設定で指定されている画像、PDF になります。 指定した画像は入力ダイアログ横の領域に縮小表示されます。PDF は表示されません。 ＜注意事項＞ 背景 PDF を利用する場合、利用する PDF の基準座標が PDF の左下になければなりません。”Adobe Illustrator”など座標指定が可能なソフトウェアで PDF を作成する場合は注意してください。
画面と同一	「画面と同一」をチェックすると、背景画像と同じ画像を PDF 背景にも使用します。 デフォルトでチェックされています。

■　PDF 出力条件設定

入力フォームのフィールド値により PDF の出力を制御します。

例えば、チェックボックスにチェックが付けられた場合は 2 ページ目を PDF 出力しないといった制御が可能です。



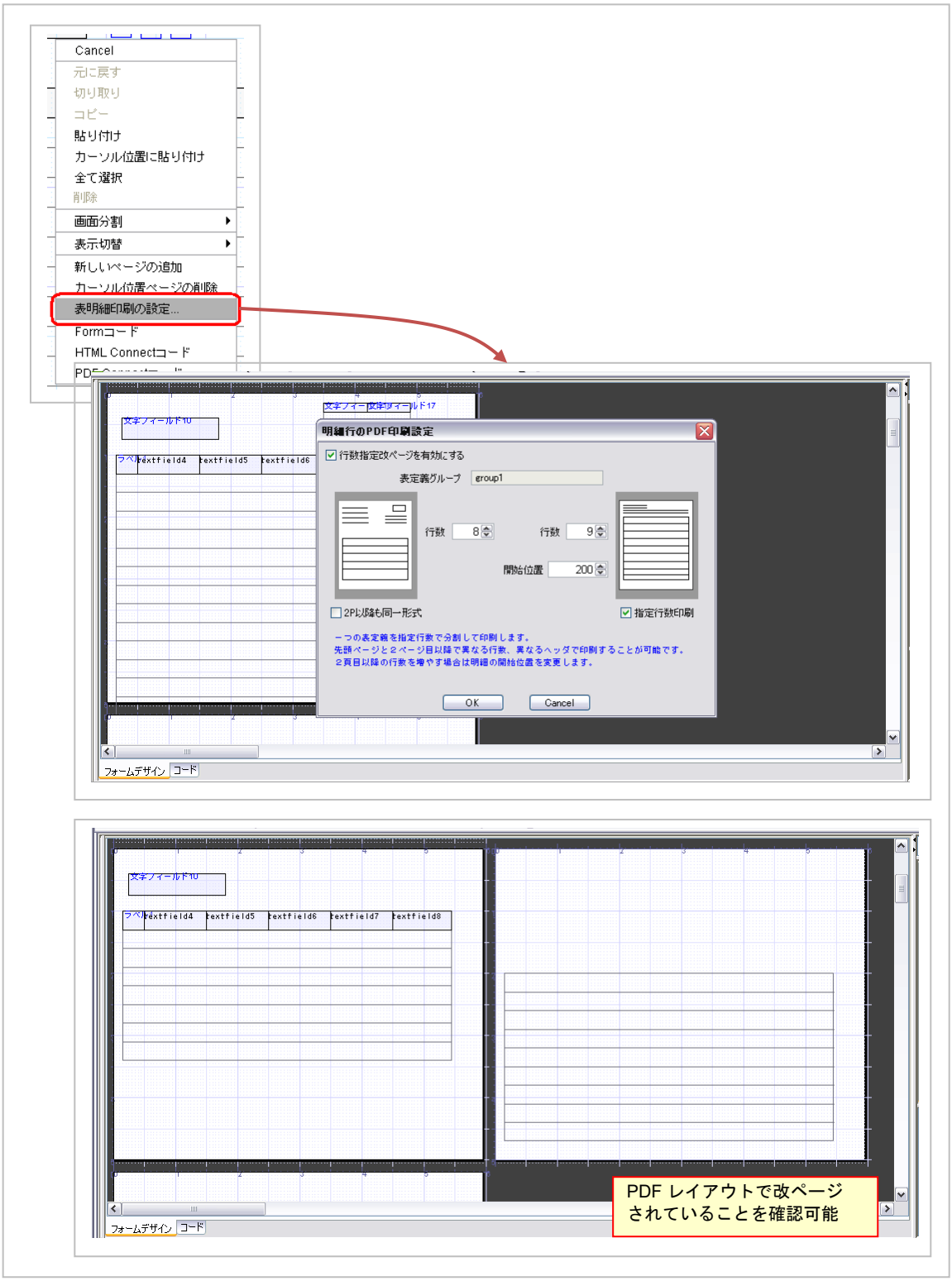
項目	説明
タグ名	判定に利用するフィールドのタグ名が表示されます。
ID	判定に利用するフィールドの ID をリストから選択します。
比較値	ID に指定したフィールドの値が何である場合に"真"とするか比較値を指定します。
条件式	値を比較する際の条件を指定します。複数項目を同時に指定できます。 大小区別: 比較時に大文字小文字を無視します。 前方一致: 前方一致で判定します。 後方一致: 後方一致で判定します。 不一致: 取得値と比較値が一致しない場合(つまり NOT) 前行 AND: 前の行と判定結果との論理積(AND)結果で判定します。 従って「前行 AND」のチェックがあると、 その前の行は単独では機能しません。
判定	取得値と比較値を条件式に指定されたオプション項目を加味して判定した結果が真・偽のどちらを有効と判定するかを指定します。 一致: 結果が"真"である場合に有効とします。 不一致: 結果が"偽"である場合に有効とします。
Action	行全体に対する操作を行います。  一行前に移動  一行後に移動  クリックした行を削除します  次行との間に空行を追加します。最終行では新たな行を追加されます。

表明細の印刷設定

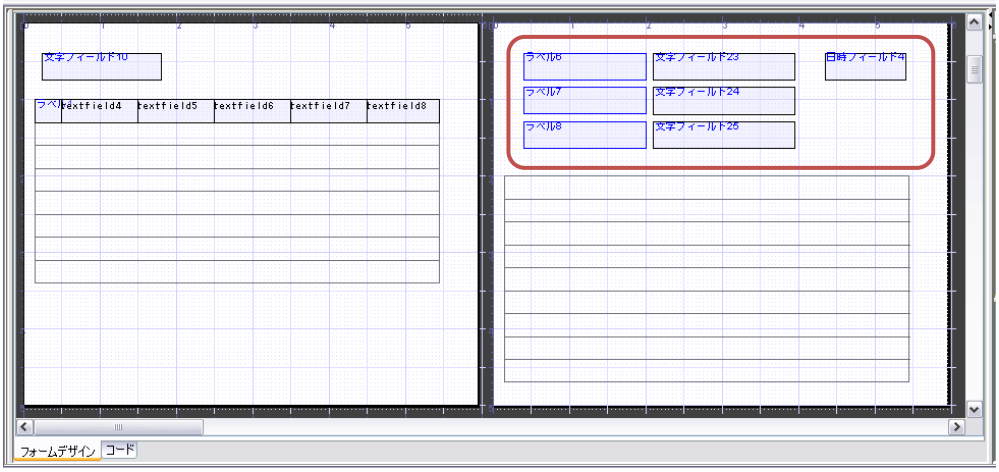
ページ内に、印刷する用紙高さを超える行数を持つ表が存在する場合、用紙の高さを超える部分は PDF に出力されません。その様な場合、表定義を持つフォーム画面上でマウス右ボタンをクリックし「表明細印刷の設定」を選び「明細行の PDF 印刷設定」画面を開き指定行数毎に改ページを行う設定を行います。

本機能の利用にあたって以下の条件・制限事項があります。

- ページ構成が「レイヤページ方式」の場合のみ利用可能です
- **ページ数が 1 ページ**、かつ表明細に**スクロール設定がされている場合に限り利用可能です**
- フォーム設定画面で PDF サイズ指定項目の“画面と PDF は同一”のチェックが外れている必要があります
- PDF 用紙サイズが指定されていない場合、表の作成が HTML 基準、PDF 基準の何れであるかに関係なく、HTML サイズで指定されている PDF ページサイズになります



設定で「2P 以降も同一形式」のチェックを OFF にすると、フォームを”PDF レイアウト”で表示した場合に限り、フォームの右側に 2 ページ目以降のレイアウト表示が行われるようになります。
2 ページ目以降のフォーム表示には 2 ページ目以降でのみ表示されるフィールドを配置することができます。



項目	説明
行数指定改ページを有効にする	表部分を指定行数毎に改ページする場合にチェックし有効にします。 有効に設定すると各項目の設定が可能になります。
表定義グループ	設定の対象となる表定義の ID 名が表示されます。修正はできません。
2P 以降も同一形式	2 ページ目以降のレイアウトを 1 ページ目同じにする場合、チェックします。
行数(左側項目)	1 ページ目に表示する行数を指定します。
行数(右側項目)	2 ページ目以降に表示する行数を指定します。 “2P 以降も同一形式”が指定されている場合は設定できません。
開始位置	2 ページ目に印刷する表定義の開始位置をピクセル値で指定することができます。0 を指定した場合は、1 ページ目と同じ位置から印刷されます。 "2P 以降も同一形式"が指定されている場合は設定できません。
指定行数印刷	2 ページ目以降の印刷行数が指定されている行数に満たない場合に空行を印刷します。 "2P 以降も同一形式"が指定されている場合は設定できません。

5. フォームの作成

5.1. 基本操作

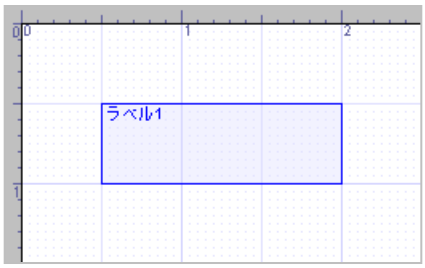
配置

各種オブジェクトを配置するためには、まずアイコンメニューバーに表示されているアイコンを選択します。



配置したいオブジェクトをクリック

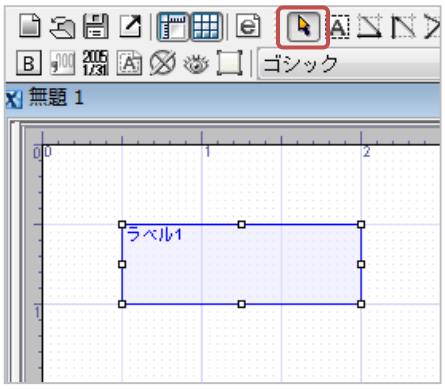
アイコンを選択後、フォーム上の配置したい座標にマウスカーソルを合わせてドラッグすると、選択したオブジェクトが配置されます。



ドラッグしながらオブジェクトのサイズを調整する

選択

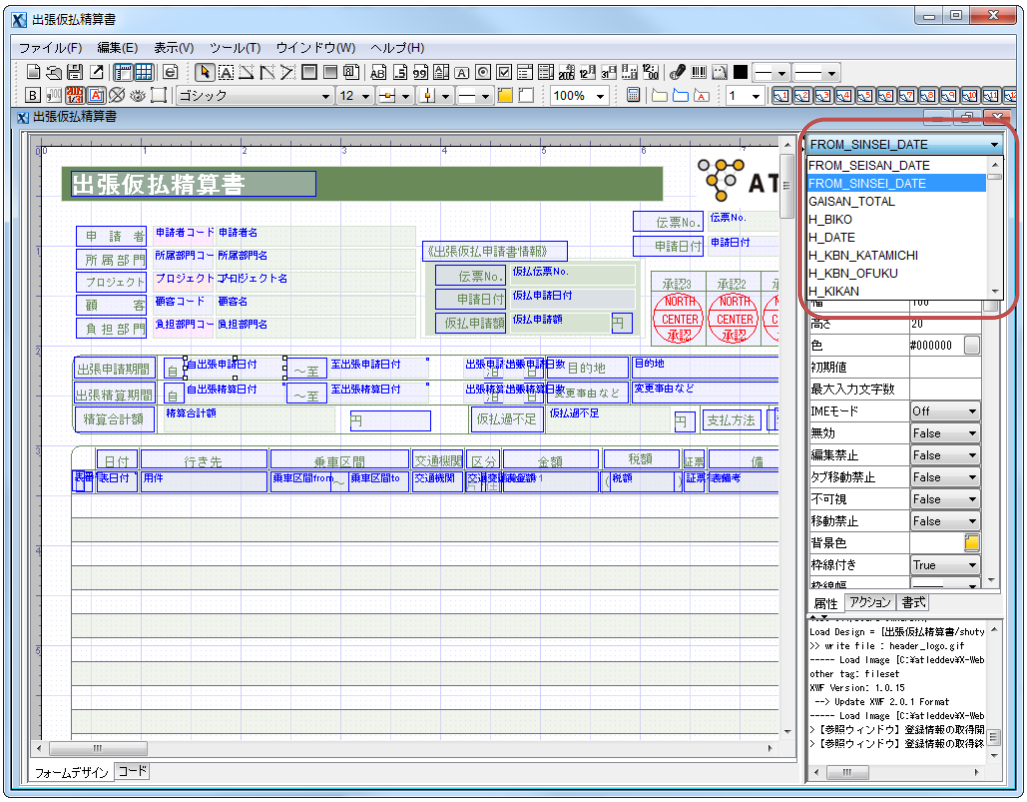
配置されたオブジェクトを選択する場合は、アイコンメニューバーにある「選択ツール」を選択し、対象オブジェクトをクリックまたはドラッグします。選択状態になったオブジェクトに対して、各プロパティの設定を変更することができます。



ドラッグした場合は選択エリア内のオブジェクトが複数選択状態となります。
また、オブジェクトが重なって表示されている場合は、以下の方法で選択状態とすることも可能です。

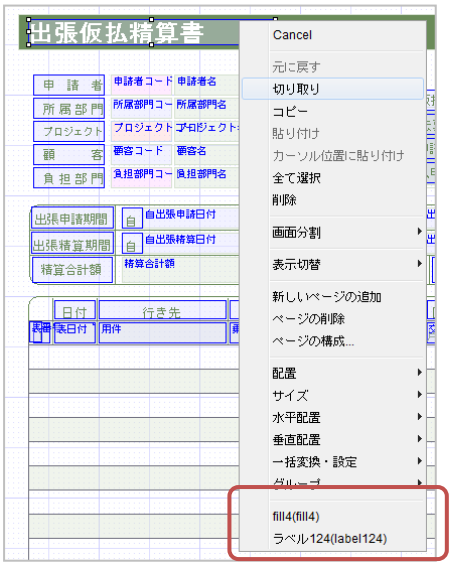
■ ID リストから選択する

プロパティ画面上部に表示されている ID リストより ID を選択すると、該当オブジェクトが選択状態となります。



■ マウス右ボタンから選択する

オブジェクトが重なっている座標で右クリックを押すと、コンテキストメニューに複数のオブジェクトのリストが表示されます。ID を選択すると、該当オブジェクトが選択状態となります。



移動

選択状態でオブジェクトをドラッグすると、配置位置を移動することができます。Ctrl + 矢印キーで 1px ずつ移動することも可能です。

リサイズ

選択状態でオブジェクトを端からドラッグすると、幅・高さを変更することができます。Shift + 矢印キーで 1px ずつリサイズすることも可能です。

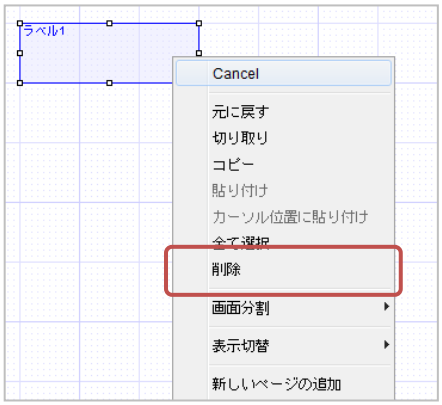
コピー・切り取り・ペースト

通常のテキスト同様に、配置されたオブジェクトに対して Ctrl+C でコピー、Ctrl+X で切り取り、Ctrl+V でペーストすることが可能です。ペーストの場合、オブジェクトの ID は自動設定されたものとなります。

また、[メニュー]-[編集]や[右クリック]からも同様の操作を行うことが可能です。

削除

配置したオブジェクトを選択した状態で、Delete キーまたは[右クリック]-[削除]より削除することができます。



プロパティの設定

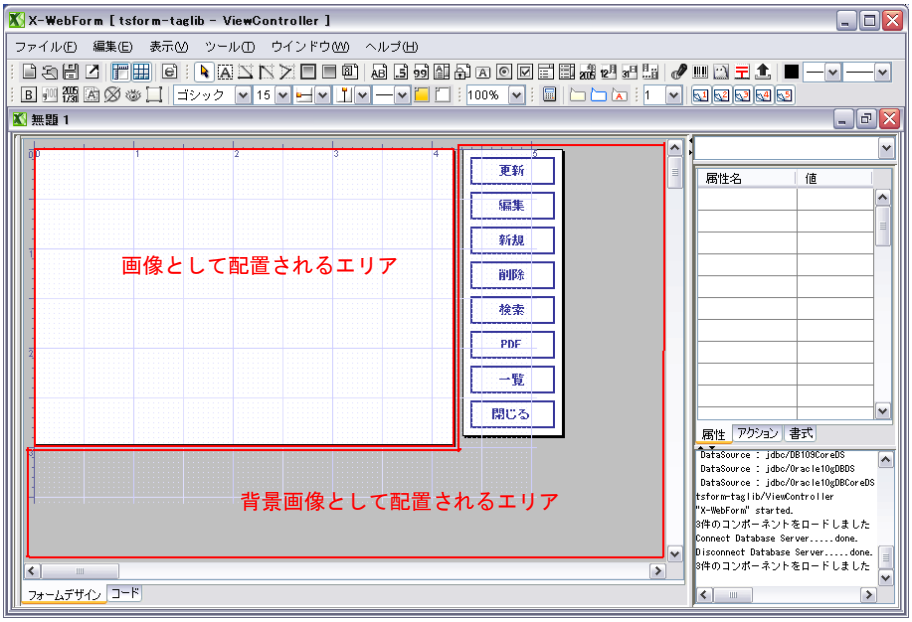
オブジェクトを選択すると、プロパティ画面に当該オブジェクトの情報が表示されます。
値列を変更することで設定が反映されます。「初期値」などの直接入力を行うプロパティの場合は、入力後に Enter キーを押下することで変更が反映されます。



オブジェクトの種類によって
設定可能なプロパティが異なる。

ドラッグ&ドロップによるイメージ・背景の設定

クライアント端末に保存されているイメージファイルを X-WebForm にドラッグ&ドロップすることで、画像や背景画像の指定が可能となります。ドロップするエリアによって画像として利用するか背景画像として利用するかが決定されます。
PDF ファイルをドロップした場合は、PDF 出力時の背景 PDF として設定されます。

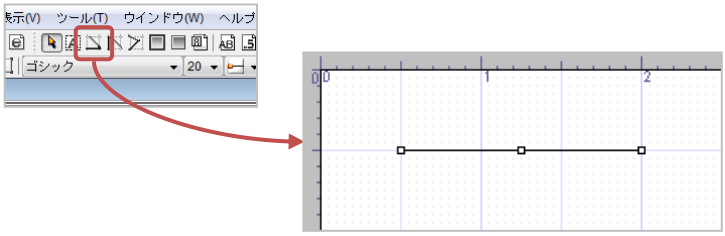


5.2. 水平線・垂直線・長方形枠・塗りつぶしの描画

ブラウザ上に表示する用紙の罫線となる部分を、水平線、垂直線、直線、長方形枠、長方形を組み合わせて作成します。

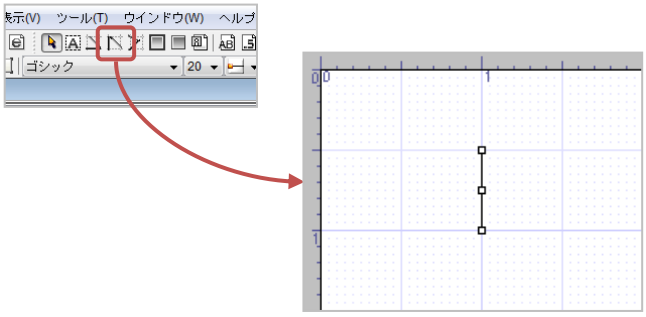
水平線

画面に水平線を描画します。



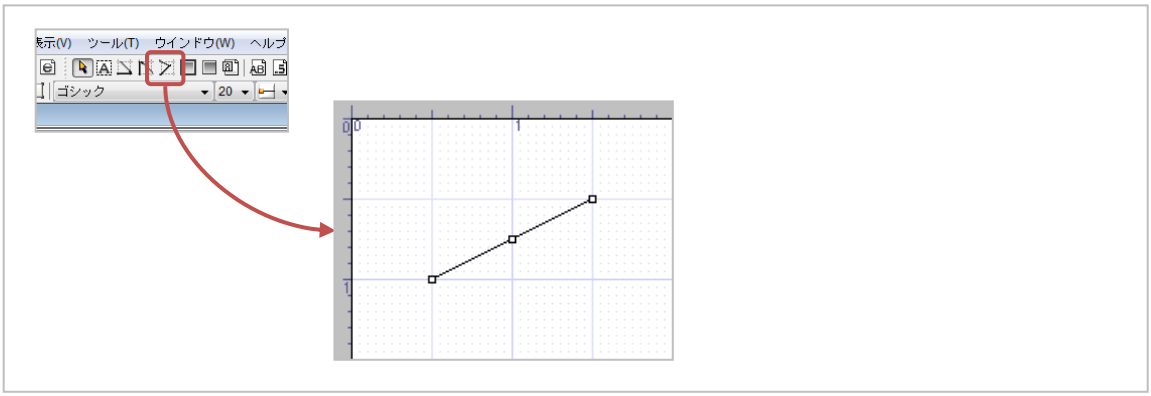
垂直線

画面に垂直線を描画します。



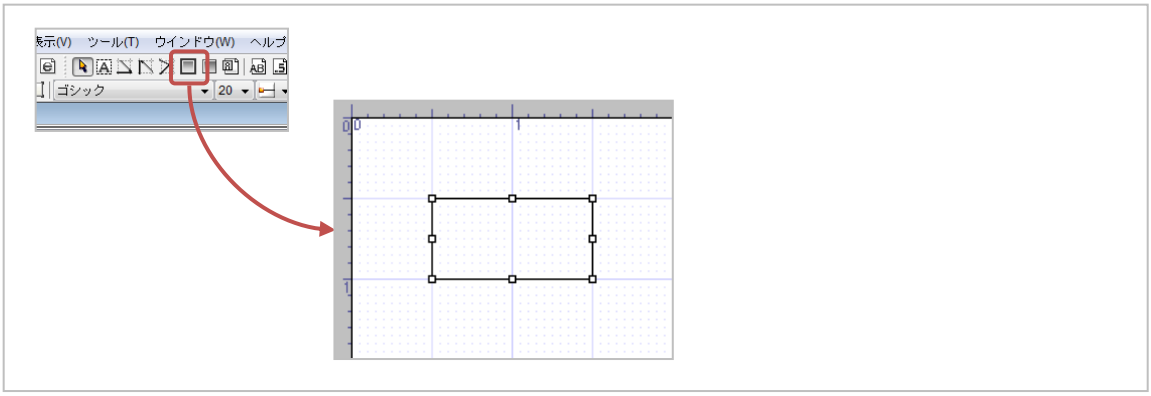
直線

水平線、垂直線、斜線を描画します。

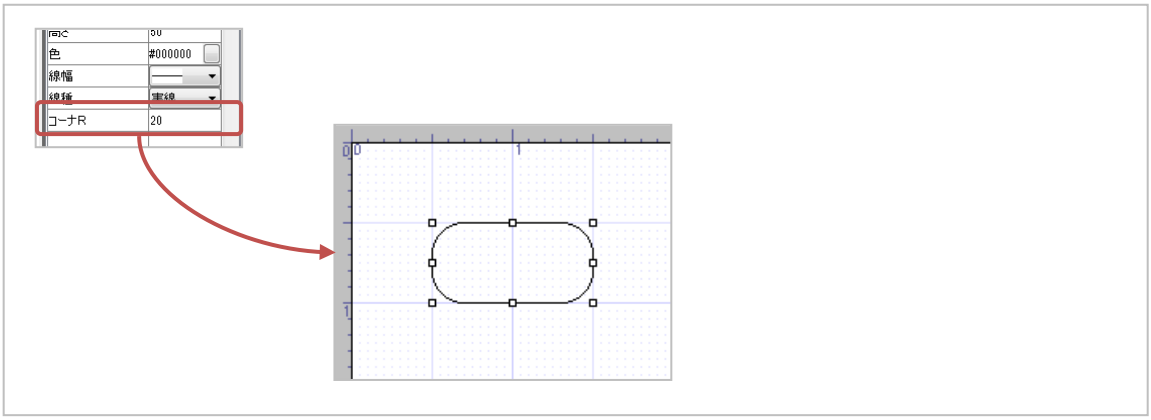


長方形枠

直方形の枠線を描画します。

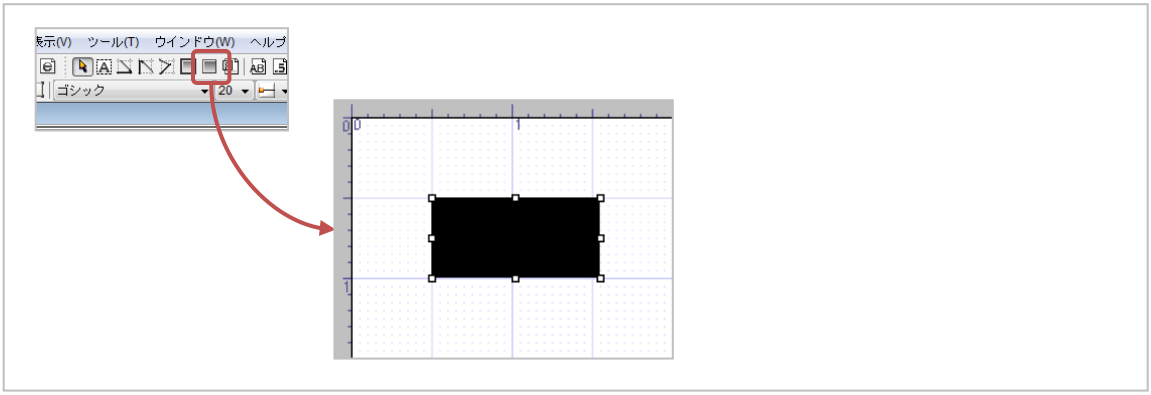


プロパティのコーナＲに数値を入力するとコーナーが角丸で表示されます。



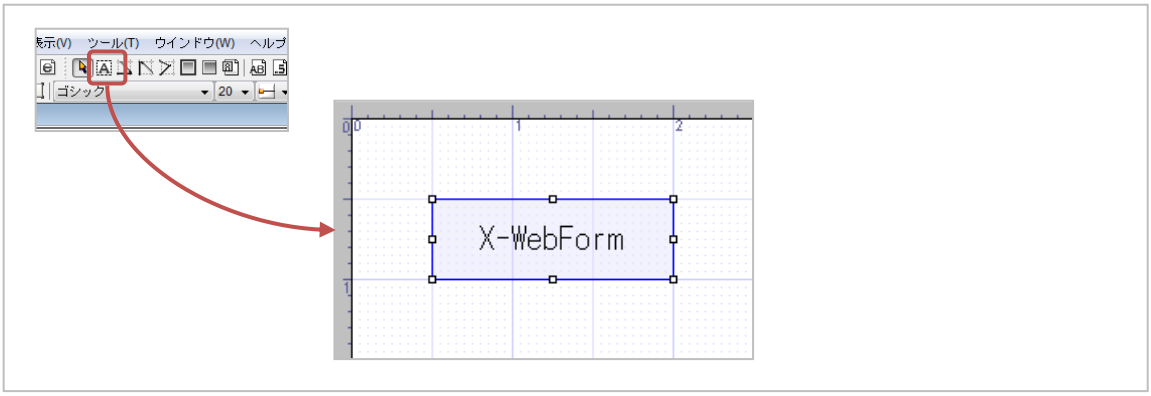
長方形

直方形を描画します。

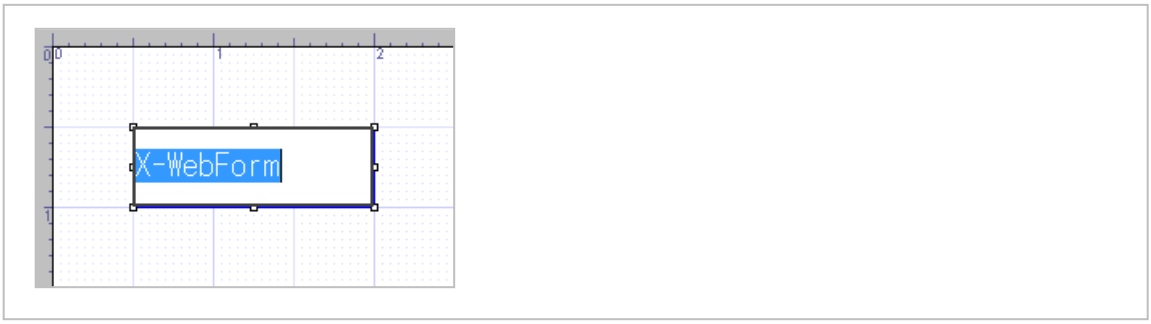


5.3.　文字ラベルの描画

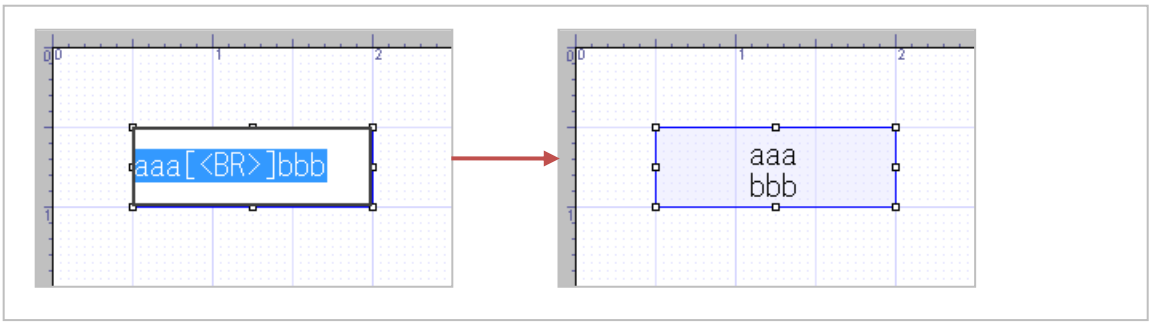
固定文字を配置します。プロパティ「初期値」に設定された文字列が表示されます。



フィールドをダブル・クリックするとデザイン画面上で直接”初期値”を入力することも可能です。

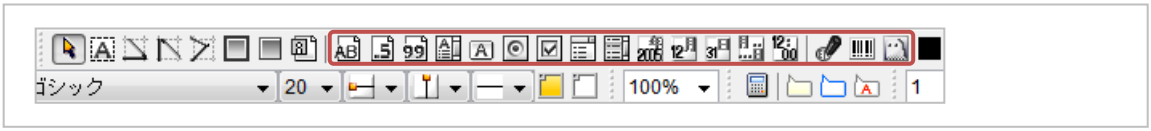


改行を含める場合は、改行部分に”[
]” を指定します。



5.4.　入力フィールドの定義

アイコンメニューバーより各フィールドのアイコンを選択して配置します。



文字フィールド

名前の通りフォーム内に文字テキストを入力するエリアを作成します。ただ、改行入力の機能は持っていないので改行を行いたいのであればテキストエリアを使用します。

数値フィールド

数値入力を行わせたい個所にエリアを作成します。数値フィールドは文字フィールドとは違い、数値のみの入力となりますが、計算などを設定することができます。

整数フィールド

整数入力を行わせたい個所にエリアを作成します。
整数フィールドには小数点を含まない整数のみ入力でき、また自動計算の設定を行う事ができます。

> ⚠ 注意事項
> 整数フィールドの入力可能最大値・入力可能最小値の設定は、-2147483648～2147483647 の範囲で指定できますが、内部動作の関係で正常に動作する範囲は-999999999～999999999 となります。

テキストエリア

文字フィールドとは異なり、改行文字を含めた文字列や長文などを入力する際に使用します。

PDF 出力時には、入力内容がテキストエリアの指定領域を超えないよう自動的に制御されます。そのため、プレビューを行いながらテキストエリアの幅・高さを調整し、想定される入力内容が収まる程度の領域を確保するようにしてください。

> ⚠ 注意事項
> テキストエリアで垂直配置を中央、下に指定した場合に表示可能行数を超えた入力がされると、先頭行が中央または下に配置された状態になり、PDF 表示した際のイメージが HTML(入力フォーム)と異なって表示されるといった制限があります。

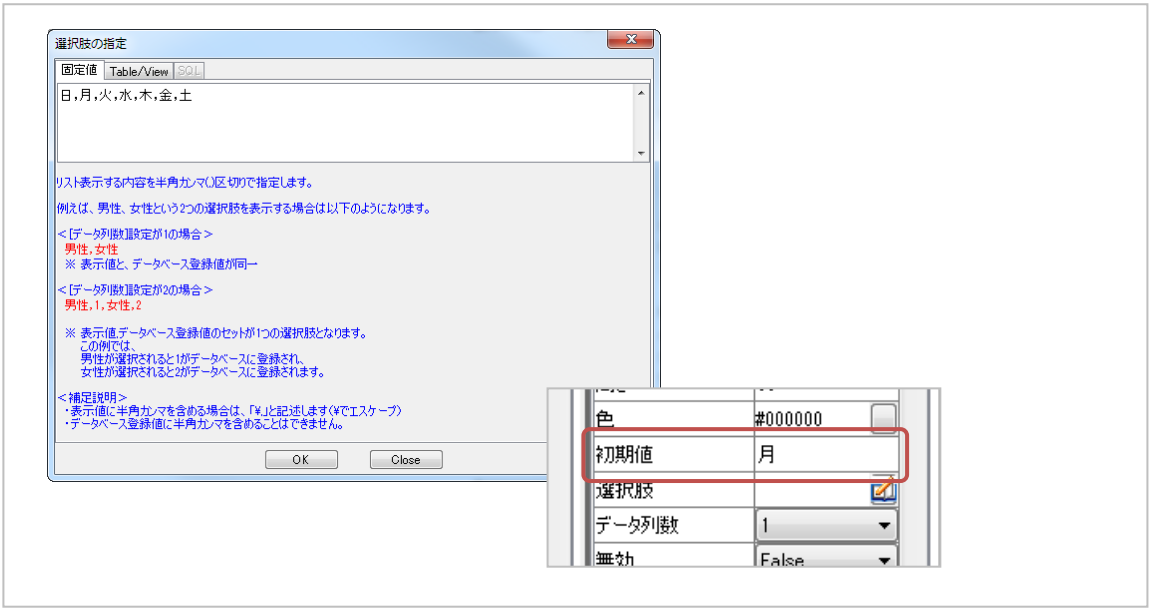
コンボボックス

選択候補の中から値を選択させたい場合に使用します。

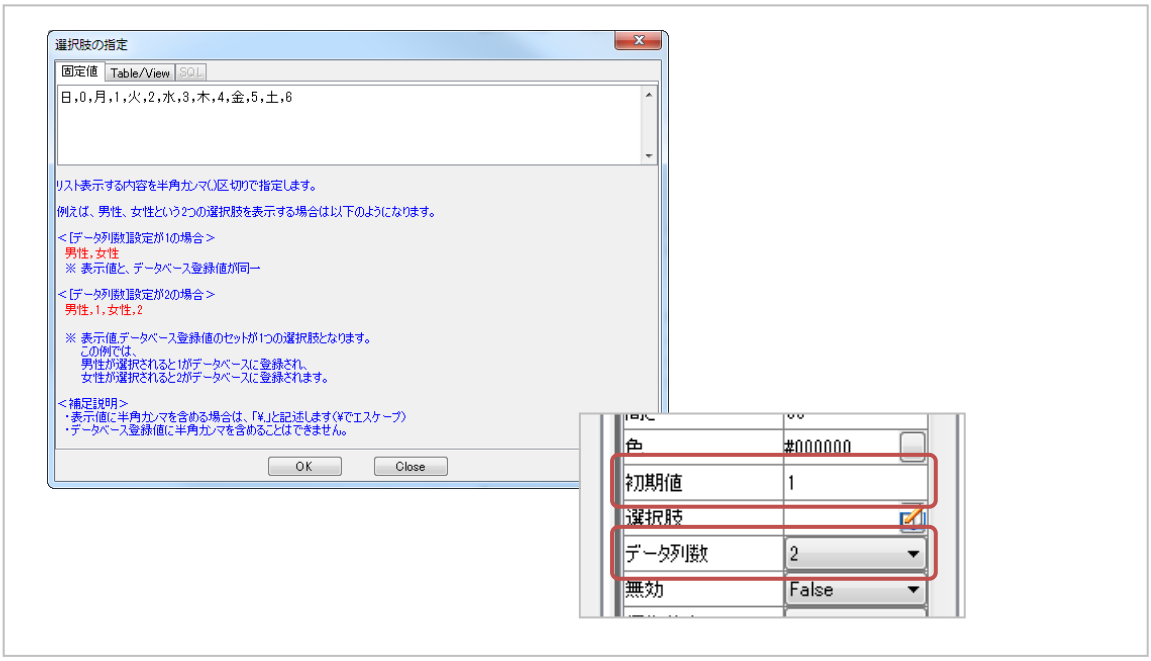
選択する項目の指定は固定の選択候補を表示する「固定値」と、AgileWorks に登録されているデータソースを参照する「Table/View」の 2 種類から行うことが可能です。また、任意の選択候補の値を「初期値」に指定することで、当該候補が初期選択状態となります。

■ 固定値

固定値タブに値をカンマ区切りで指定します。

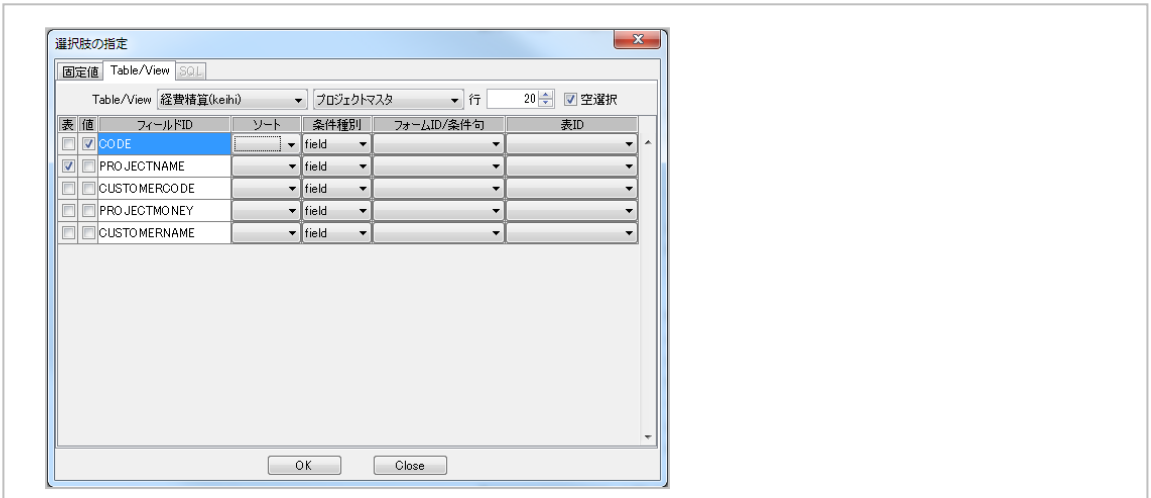


表示値と選択値を異なる値としたい場合は、表示値と選択値を交互に設定し、かつ「データ列数」を 2 に設定します。
この時、初期値に指定すべき値は選択値側となります。



■ Table/View

Table/View タブにて、AgileWorks に登録されているデータソースを選択します。
この時、データ列数の設定は無視されます。



項目	説明
Table/View	選択肢を取得するマスタデータの業務カテゴリ/マスタ名を指定します。
行	データベースから取得するデータレコード数の上限を設定します。 適切な値を設定しておくことで、レコードの抽出条件が誤って設定されていた場合や想定以上のデータが選択されてしまい、選択項目の取得で負荷が高くなることを防ぐことが可能になります。 取得行数の制限を行わない場合は、行数に 0 を指定します。
空選択	選択肢の先頭に「空行」を加えます。
表	選択リストに表示する項目を指定します。値が選択されていない場合は値としても使用されます。”表”は必須項目です。複数選択はできません。
値	選択リストを選んだ際に値として使用します。複数選択はできません。
フィールド ID	データベースにおけるフィールド名称。
ソート	リストを並べる際にレコードをソートする条件を指定します。
条件種別	“フォーム ID/条件句”に指定される内容が、フォーム上のフィールドを示すものか、固定値を示すかを既定します。フィールド ID を指定すると、レコード抽出の際にフィールドに指定されている値でレコードの抽出を行います。
フォーム ID/条件句	フォーム上のフィールド ID、もしくは固定値を指定します。
表 ID	指定するフィールド ID が表定義内に含まれる場合、そのグループ ID を指定します。

注意事項

＜選択候補数による影響＞
選択候補の数が多くなると、フォーム表示時のパフォーマンスが劣化します。また、ユーザーによる候補選択操作のユーザビリティが低下します。
選択候補は多くても数十行程度を目安とし、それ以上多くなる場合は後述の「マスタ参照ウィンドウ」の利用をご検討ください。

＜フォーカスの有無で表示が変わる＞

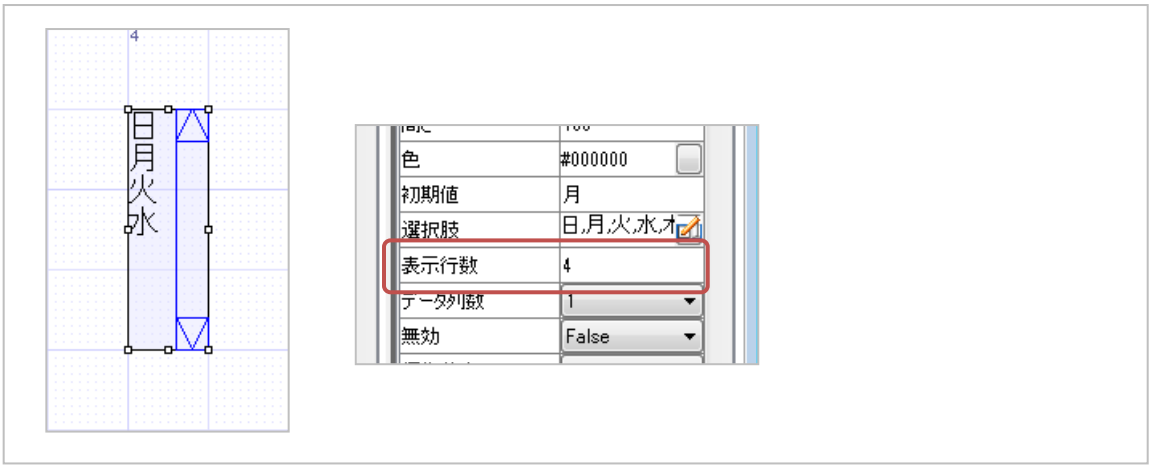
フォーカスが無い場合は文字位置の指定が有効になりますが、フォーカスを取得すると指定されているフィールド位置の左上にリストが固定されます。リスト選択が終了しフォーカスを失うと元の状態に戻ります。

＜デザイン時のサイズに応じて文字サイズが変わる＞

フォーカス取得時のリスト表示サイズをデザイン時の枠サイズに合わせられるよう、文字の大きさを自動的に調整します。

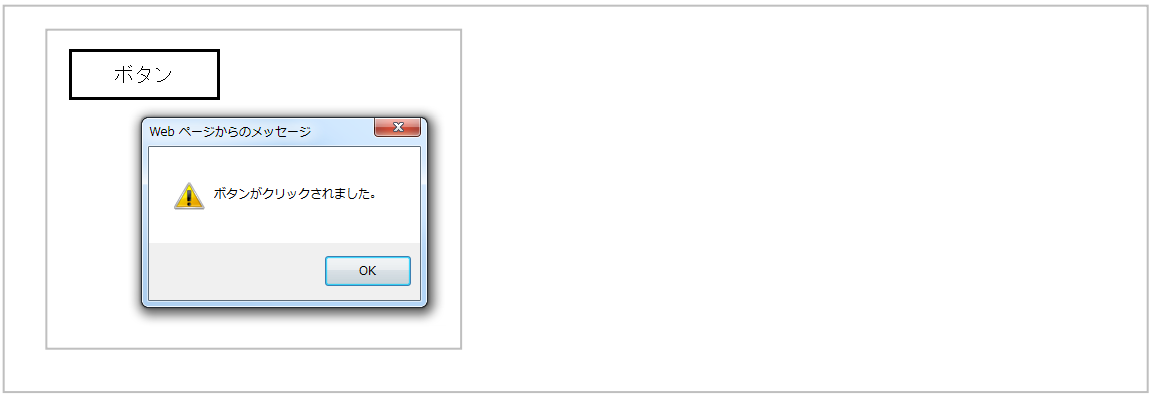
リストボックス

コンボボックスの設定に加え、選択候補を表示する行数を指定します。
その他の設定、注意事項については「コンボボックス」を参照してください。

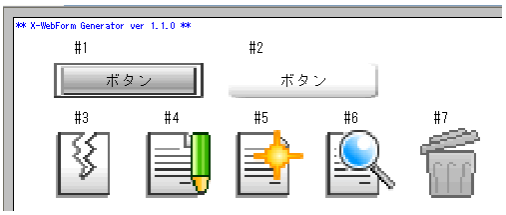


ボタン

ボタンはブラウザ上の入力補助を目的としたオブジェクトです。クリックすることで任意の JavaScript を実行させることが可能です。ボタンは PDF 出力の際には表示されません。



画像のイメージをプロパティ「イメージ」で指定することが可能です。
あらかじめ用意された 7 種類のイメージか、クライアント端末に保存された画像を利用することが可能です。



用意されている 7 種類の画像

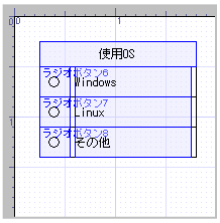
画像はボタンのサイズに合わせて拡大・縮小表示されます。#3～#7 は 32×32 の画像となりますので、画像を劣化表示させたくない場合は、ボタンのサイズを画像に合わせる必要があります。

注意事項
ボタンでは、マスタ参照ウィンドウ設定の検索動作は無効となります。
マスタ参照ウィンドウ設定の詳細は「マスタ参照ウィンドウ」を参照ください。

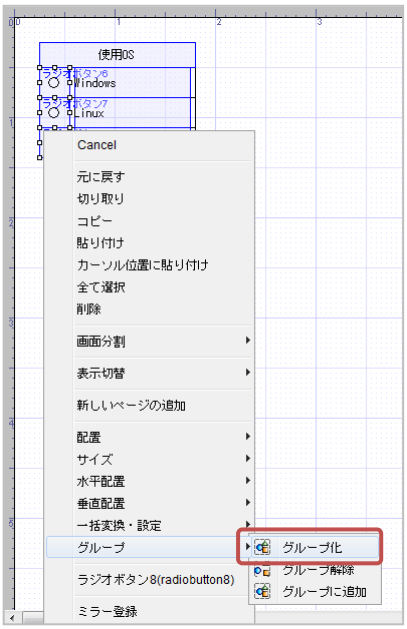
ラジオボタン

ラジオボタンは、文字ラベルなどで作成した選択項目をチェックする際に使用します。
ラジオボタンは複数個のセットからなるものです。そしてセットしたボタンから 1 つだけチェックすることができます。

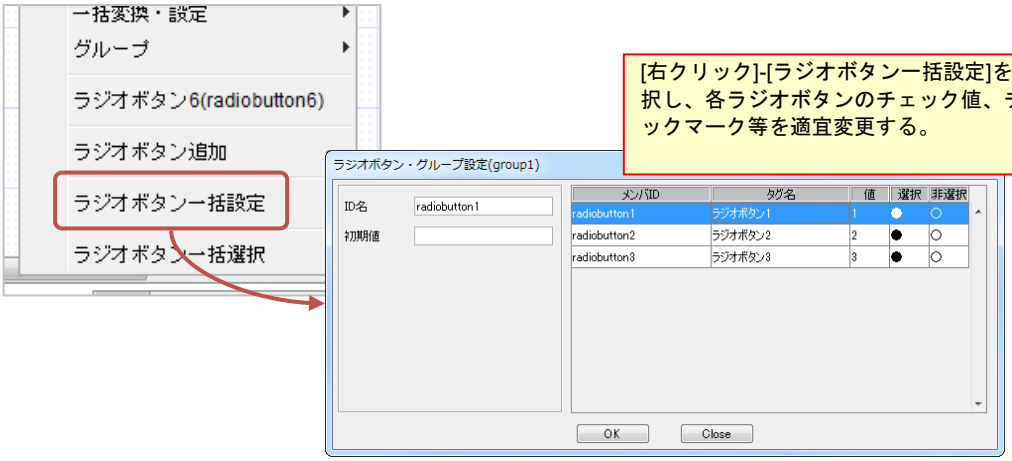
■ ラジオボタンの設定手順



ラジオボタンを複数配置する。
合わせて、選択肢を識別するためのラベルも配置する。



配置したラジオボタンを全て選択し、[右クリック]-[グループ]-[グループ化]を選択する。

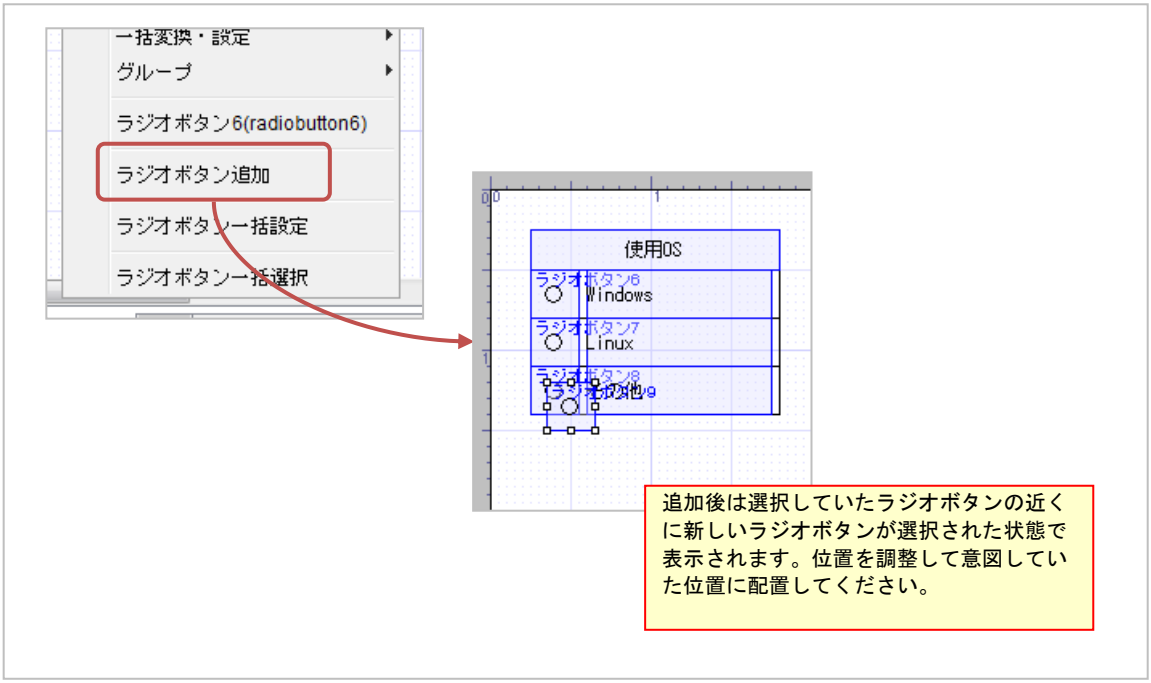


[右クリック]-[ラジオボタン一括設定]を選択し、各ラジオボタンのチェック値、チェックマーク等を適宜変更する。

項目	説明
ID 名	JavaScript 等でフォーム上のラジオボタンを扱う際の ID 名になります。 グループメンバの先頭になるラジオボタンの名称になります。フォーム設定画面などでグループ内の並びを変更すると、ID 名が変化するので注意してください。
初期値	チェック値の初期値を指定します。 設定画面ではなく、デザイン画面のプロパティ欄から設定する場合は、ラジオボタン・グループの並びで先頭のデータの初期値に指定します。先頭以外のラジオボタンに設定しても初期値の指定は反映されません。
メンバ ID	個々のラジオボタンの ID 名です。明細内では変更できません。
タグ名	ラジオボタンのタグ名です。
値	ラジオボタンのチェック値です。
選択	ラジオボタンのチェックマークです。
非選択	ラジオボタンの非チェックマークです。

■ ラジオボタンの追加

ラジオボタンを利用する場合はグループ化操作が必要ですが、ラジオボタンを一つだけ選んだ状態で表示されるポップアップ・メニューの"ラジオボタンの追加"を利用することで、グループ化を自動的に行うことができます。

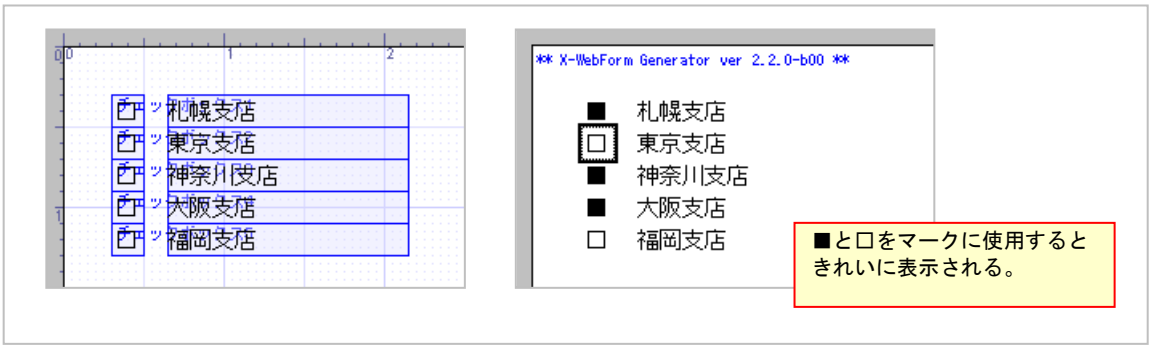


注意事項
非チェックマークを指定する代わりにラベルを重ねて配置した場合、PDF 出力時にチェックマークとラベルがずれてしまうことがあります。これは PDF で適用されるフォントの種類・サイズによってずれが発生するケースがあるためです。このような問題を回避するため、ラベルではなく非チェックマークを利用するようにしてください。

チェックボックス

チェックボックスは、ラジオボタンとは異なり複数の項目に対して一つだけチェックをつけるだけでなく、複数チェックをつけることができます。ラジオボタン同様ラベルや文字と組み合わせて使用します。

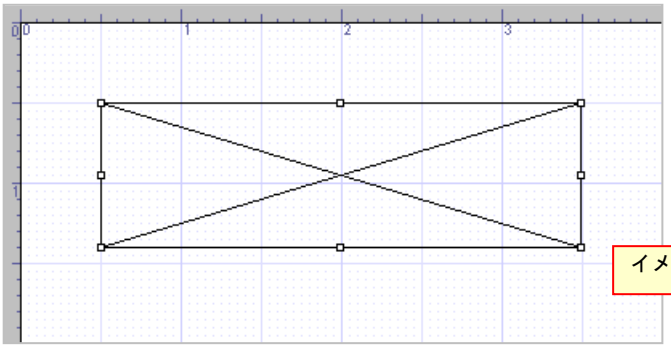
例えば「東京支店」、「神奈川支店」等の文字ラベルを作成し、その横にチェックボックスを描画していきます。



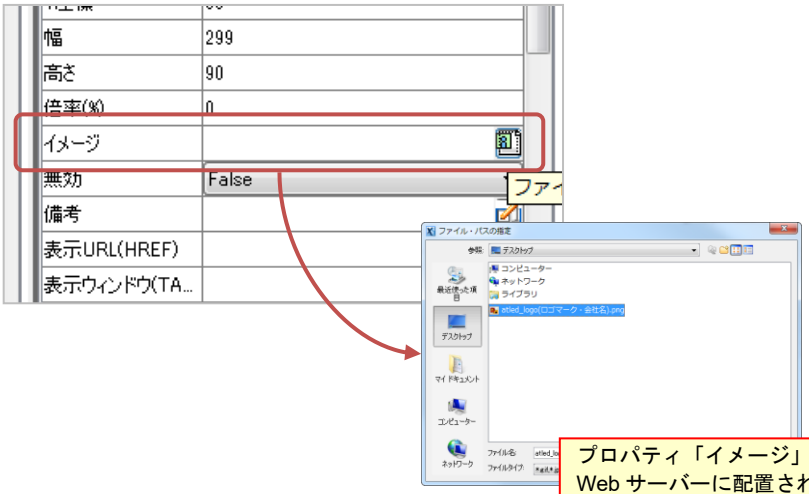
注意事項
非チェックマークを指定する代わりにラベルを重ねて配置した場合、PDF 出力時にチェックマークとラベルがずれてしまうことがあります。これは PDF で適用されるフォントの種類・サイズによってずれが発生するケースがあるためです。このような問題を回避するため、ラベルではなく非チェックマークを利用するようにしてください。

イメージフィールド

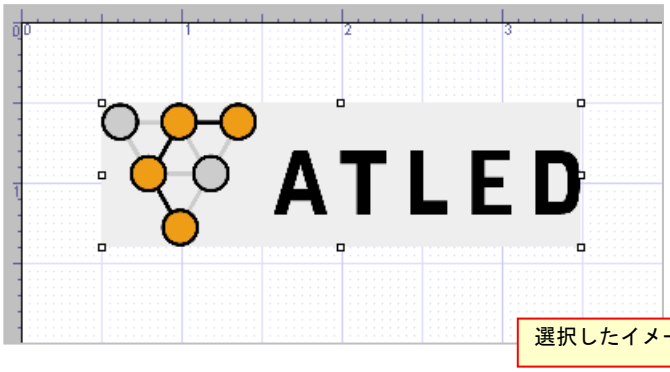
X-WebForm ではイメージ(GIF・JPG・PNG)をフォーム上に配置することができます。
イメージはクライアント端末からからコピー&ペースト、ドラッグ&ドロップでも貼り付けることができます。



イメージフィールドを配置する。



プロパティ「イメージ」からファイルを選択する。Web サーバーに配置されている画像を参照する場合は、プロパティに直接"http(s)://"から始まる URL を入力する。

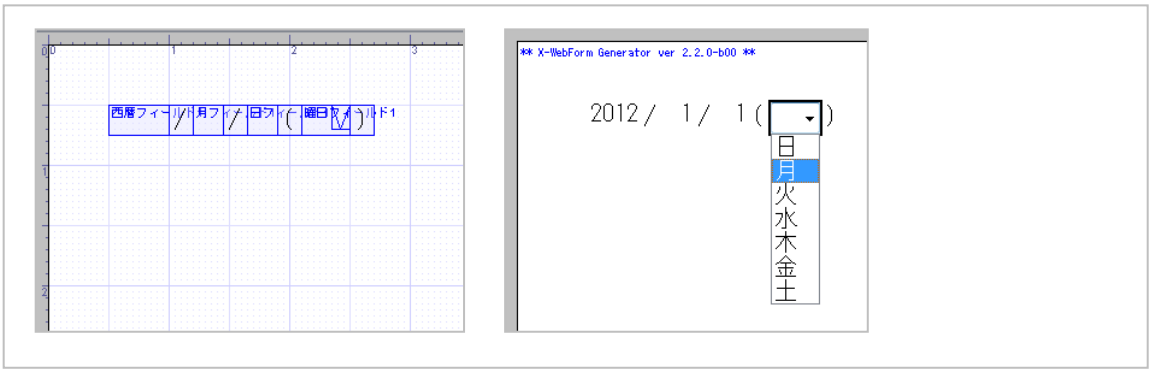


選択したイメージが指定サイズで表示される

イメージ表示の初期状態では常に倍率が"0%"で表示されます。倍率が 0 である場合に限り、幅と高さを変更することができます。**倍率が指定されている場合は幅・高さの変更ができません。**
また、**マウス操作でイメージの大きさを変更した場合は倍率が強制的に 0 に設定**されます。
なお、倍率を指定している際に表示されている幅・高さは実際の画像サイズに倍率を掛けた数値がピクセル値で表示されています。

西暦・月・日・曜日フィールド

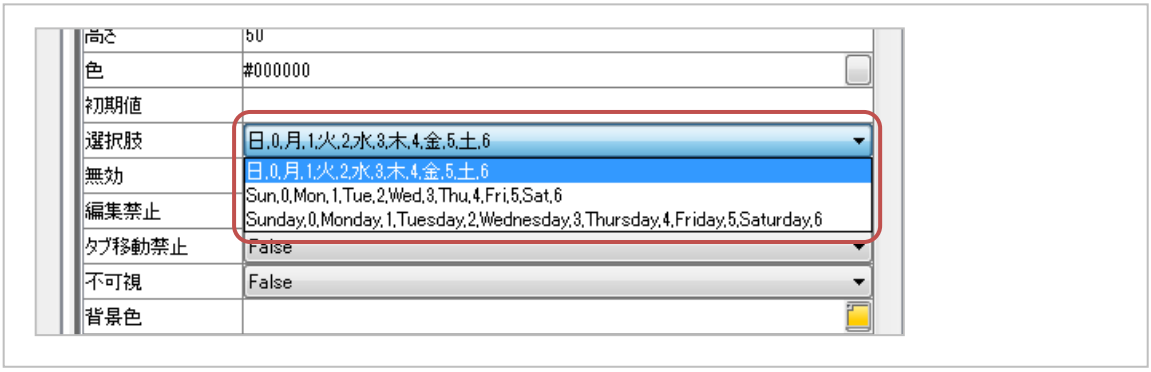
日付入力を行う場合に、西暦や月の入力フィールドを分けたいようなケースで利用します。



西暦・月・日フィールドは数値・整数フィールドとは異なり、プロパティ設定を行わずに以下の範囲でのみ入力可能なよう制御されます。

タイプ	入力可能な範囲
西暦フィールド	1900～9999
月フィールド	1～12
日フィールド	1～31

曜日フィールドはコンボボックスとして表示されます。選択肢は予め用意された以下の種類から選択します。



■ フィールドの相互参照設定

西暦・月・日・曜日フィールドでカレンダ参照を利用する場合に、プロパティ画面からフィールド間の相互参照設定を行っておくことで、カレンダ参照から入力した値を関連する他のフィールドに設定することができます。また、直接入力で日付を変更した場合に、曜日フィールドの値が自動的に変更されます。

カレンダ参照の設定方法については「5.8 カレンダ設定」を参照してください。

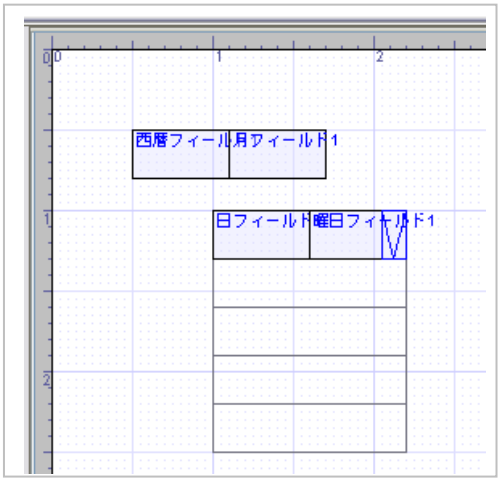


各フィールドが相互参照している状態にする。



いずれかのフィールドでカレンダ参照を行うと、参照している他のフィールドにも値がセットされる

相互参照設定は表明細外のフィールドと表明細内のフィールドを組み合わせることも可能です。

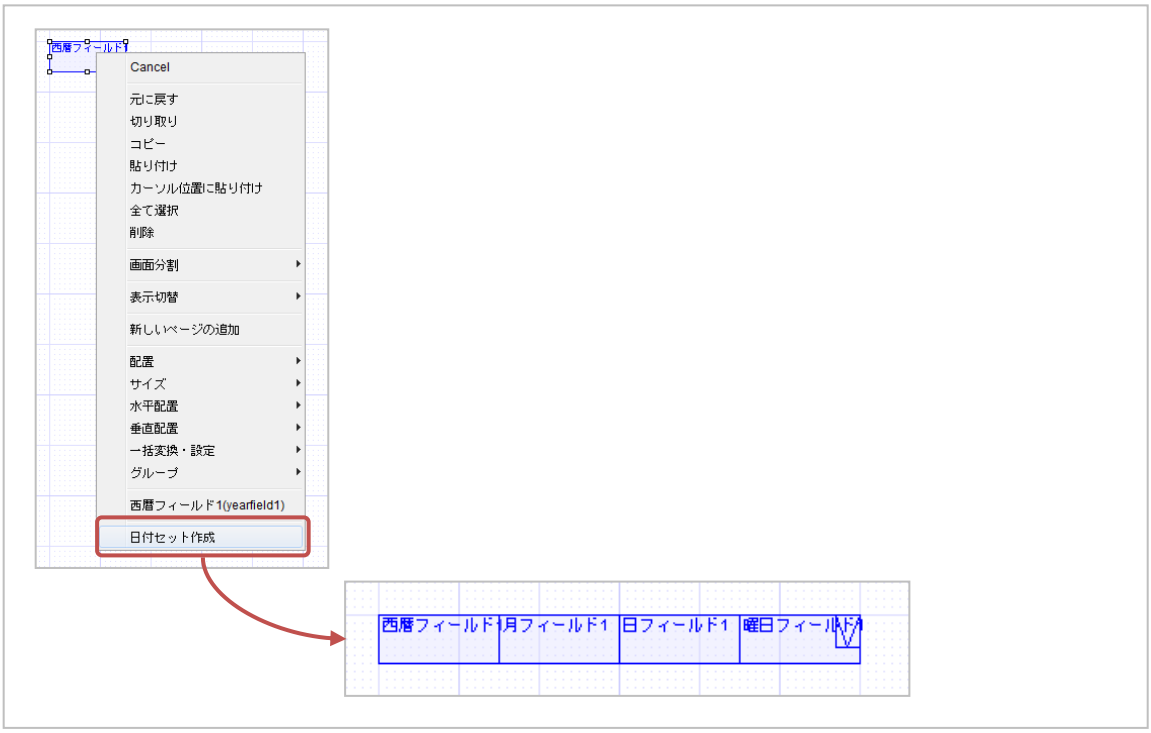


組み合わせ可能なパターンは以下の通りです。

西暦	月	日	曜日
表明細外	表明細外	表明細外	表明細外
表明細外	表明細外	表明細外	表明細内
表明細外	表明細外	表明細内	表明細内
表明細外	表明細内	表明細内	表明細内
表明細内	表明細内	表明細内	表明細内

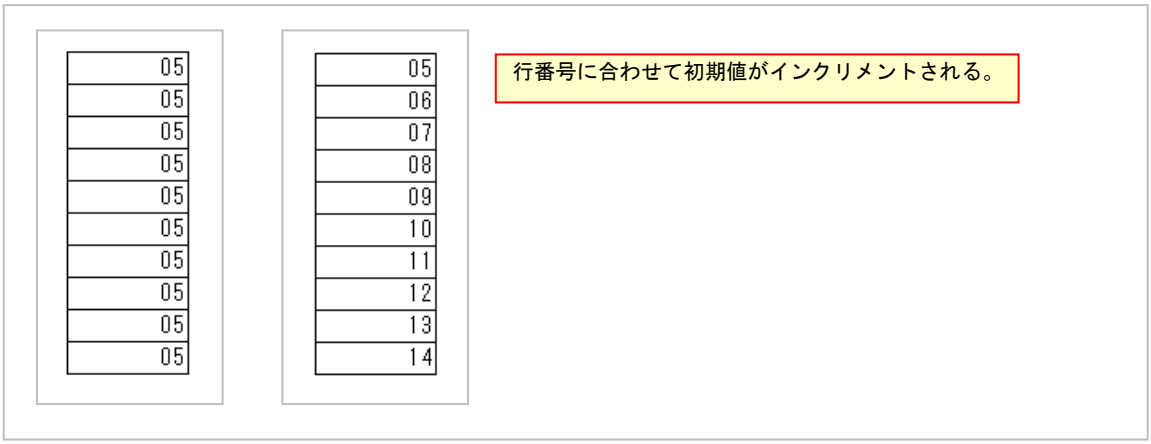
■ 日付セットの作成

西暦フィールドを作成後、[右クリック]-[日付セット作成]を選択すると、月・日・曜日フィールドを一度に配置する事が可能です。この時、フィールド間の相互参照設定も同時に行われます。



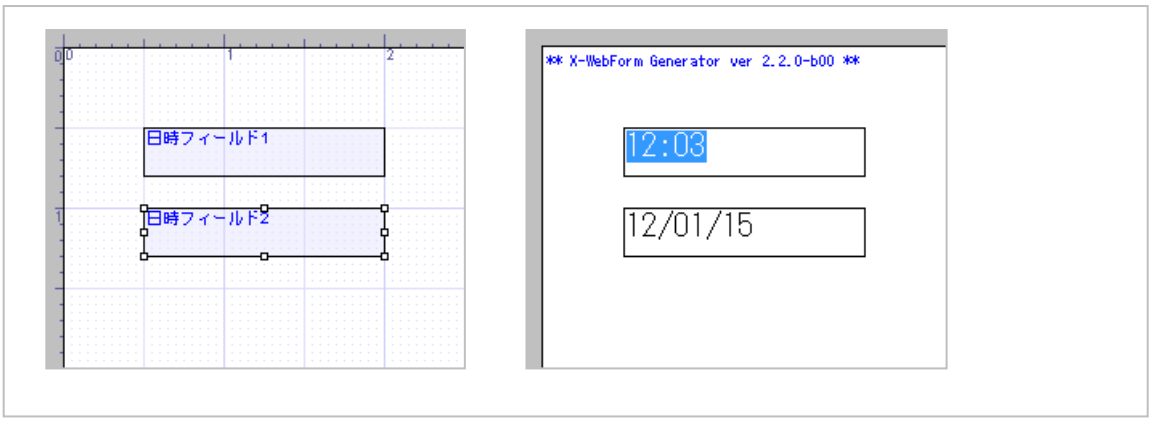
■ 表明細行番号の日付加算

表明細内に日フィールドを配置した場合に、プロパティ「行番号の日付加算」に True を指定すると、行番号に応じて初期値を変更する事が可能です。



日時フィールド

日時フィールドは日付・時刻をより簡易的に入力するためのフィールドです。テキストフィールドを利用した場合と異なり、四則演算の対象として指定することが可能です。



日時フィールドでは、入力時(フォーカスを取得しているとき)と表示時(フォーカスが無いとき)で異なる書式を指定する

ことが可能になります。例えば、入力時は 24 時間制で入力を行いフォーカス喪失と同時に 12 時間制で表示をするといった指定です。

書式	入力書式	表示書式	値例	備考
hh:mm	○	○	15:35	
hh:mm:ss	○	○	15:35:22	
hh:mm a		○	03:35 PM	12 時間制で AM・PM 表記となります
hh:mm:ss a		○	03:35:22 PM	12 時間制で AM・PM 表記となります
hhh:mm	○	○	999:59	“hhh”部が 3 桁の数値入力項目として扱われます
hhh:mm:ss	○	○	999:59:59	“hhh”部が 3 桁の数値入力項目として扱われます
yy/mm/dd	○	○	12/01/17	
yyyy/mm/dd	○	○	2012/01/17	

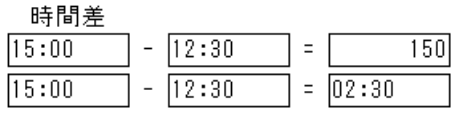
■ 計算時の扱い

時刻、日付フィールドを四則演算の対象とした場合、それぞれのフィールドが数値化された状態で扱われます。

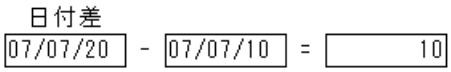
項目	説明
時刻	1 分を 1 とした数値。3 時 15 分ならば、195 (3×60+15) になります。 秒を含むフィールドは小数点以下が秒を表します。1 秒は 1 を 60 で割った値です。
日付	1970/01/01 からの経過日数で扱われます。

計算結果の代入は、代入先のフィールドが数値であるか、時刻・日付であるかにより動作が異なります。
幾つかの例を示します。

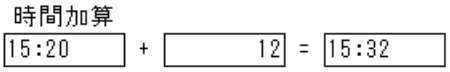
・ 時刻の差を数値、時刻に代入する場合



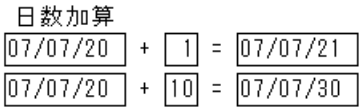
・ 日数差を数値に代入する場合



・ 時刻に数値を加算し、時間として代入する場合

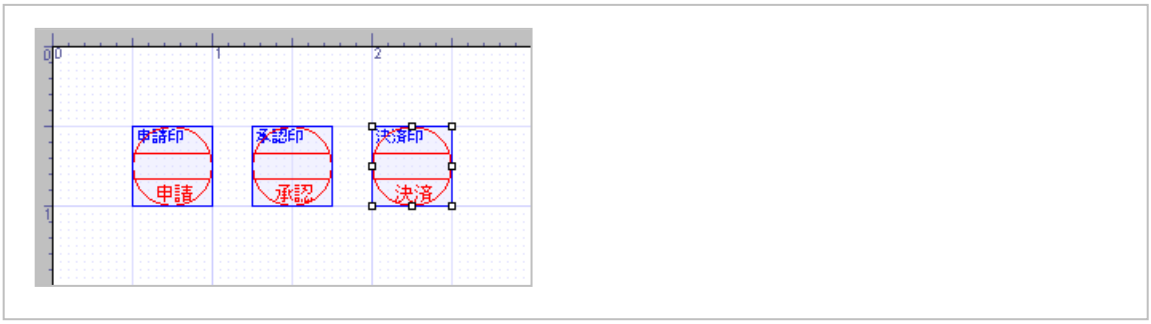


・ 日付に数値を加算し、指定日数経過した日付を代入する場合

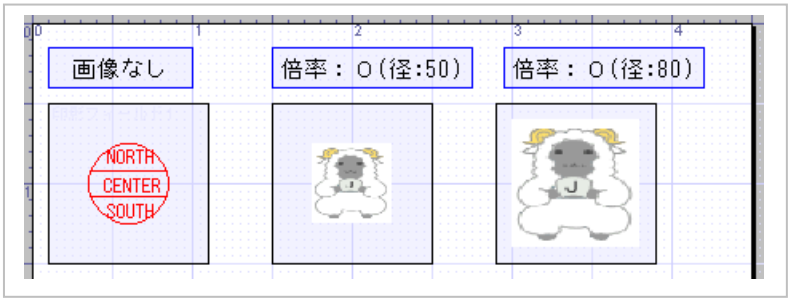


印影フィールド

書類の印影表示を行うためのフィールドです。配置すると丸型の印影を象った表示がデフォルト動作で行われます。



印影フィールドには画像を指定することもできます。通常の画像フィールドとは異なり、デフォルトでは表示される画像の大きさが印影サイズにより変化します。



倍率を指定することで印影画像の拡大・縮小を行うこともできますが、倍率を＋(プラス)で指定した場合は元画像に対する割合で表示されます。倍率を－(マイナス)で指定した場合は、フィールドの枠サイズに対する比率で画像の大きさが決まります。



バーコード

フォーム上にバーコードを配置します。表示可能なバーコードは、CODE128、CODE39、PDF417 の 3 種類です。



バーコードの種類	説明
CODE128	数字(0～9)、アルファベット大文字／小文字を使用できます。 CODE39 と比べ、バーコード長が短くなります。
CODE39	数字(0～9)、アルファベット大文字を使用できます。 フルアスキーで利用する場合は、バーコード種別に”CODE39Ex”を指定します。
PDF417	数字(0～9)、アルファベット大文字／小文字を使用できます。 CODE39/128 と比較して、大きい情報を扱う事が可能です。(非推奨)

バーコードを表示するには、プロパティ「初期値」を指定するか、プロパティ「バーコード値 ID」にバーコードの値となるフィールドを指定する必要があります。
バーコードは実際に利用するプリンタ、バーコードリーダーで検証を行った上で利用して下さい。

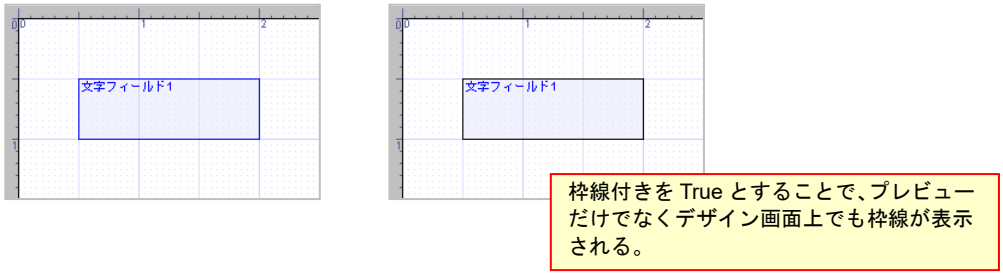
不可視フィールド

不可視コンポーネントを利用することで、ブラウザ表示の際に計算などで一時的に利用するフィールドを作成する際に利用可能な不可視(HIDDEN)フィールドを定義することができます。

プレビュー等の実行時には表示されない項目ですから、フォーム上の任意の位置に配置することができますが、フォーム作成で邪魔にならない場所に置くのが良いでしょう。

5.5. 枠線の表示

フィールドの周りに線を描画したいケースでは、フィールドのサイズに合わせて枠線を配置するのではなく、プロパティ「枠線付き」を True と指定するだけでフィールドのサイズに合わせた枠線を表示することが可能です。



注意事項
枠線を配置した場合との最大の違いは、フォーム表示時にアクティブなフィールドであることを示す枠の表示サイズが異なる点にあります。枠線を配置したの場合は、指定したフィールドサイズより大きな枠が表示され、「枠線付き」の場合は指定サイズと同じ大きさの枠線が表示されます。

5.6. 背景色の設定

プロパティ「背景色」を指定することで、オブジェクトのサイズに合わせて背景色を表示することが可能です。

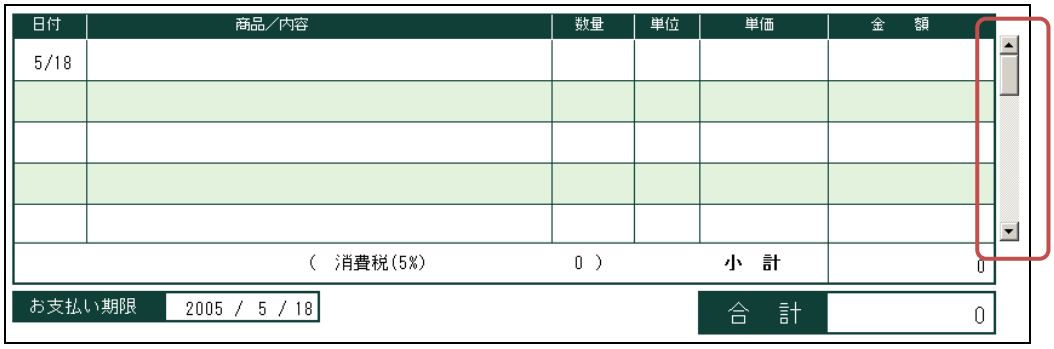


背景色をフォーム入力時における補助として利用している場合など、PDF 出力時には背景色を表示したくないようなケースでは、プロパティ「PDF 背景色表示」に False を指定することで非表示とすることが可能です。



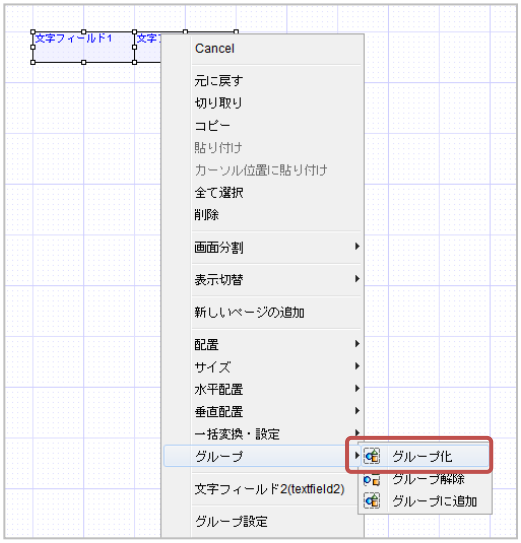
5.7. 表明細レイアウト設定

複数のフィールドを表明細レイアウトとする方法を説明します。表明細のレイアウト作成はグループ定義に繰返し行数を設定することで作成します。表内スクロールを有効とすることで、何行もある表を少ない行数で表示して入力することも可能です。

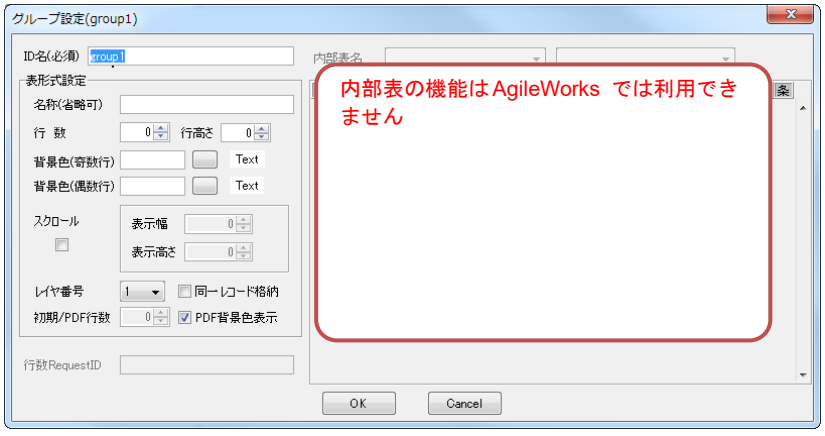


グループの設定

表明細レイアウトに含めるフィールドを選択状態にし、[右クリック]-[グループ]-[グループ化]を選択します。



選択状態のまま[右クリック]-[グループ設定]を選択し、設定ダイアログを表示します。



項目	説明
ID 名	表定義グループの ID 名称を指定します。
名称	表に名称を付ける際に指定します。内部的に利用される項目ではありませんので参考項目になります。
行数	フォーム上で繰り返し行数として表示される数を指定します。初期行数と併用する場合は、ブラウザに表示する可視行数(見える部分)を指定します。

行高さ	1 行辺りの高さを指定します。省略(0 を指定)すると、グループ化されたメンバから自動的に計算が行われます。
背景色(奇数行)	奇数行の背景色を指定します。
背景色(偶数行)	偶数行の背景色を指定します。
スクロール	ブラウザに表示された際に見える行数より多い行数を表示させる場合にチェックします。
表示幅	X-WebForm for AgileWorks では利用できません
表示高さ	スクロール表示をさせる際、行数に指定した範囲の高さをどの範囲で表示させるかを指定します。但し、初期行数を指定する場合はこの項目を 0 にします。
レイヤ番号	表が所属するレイヤ番号を指定します。 レイヤ機能は下位互換機能の為、将来的に廃止される予定のため設定不要です。
初期行数	スクロール表示を行う際の行数を指定します。 “行数＜初期行数”になるよう指定します。ブラウザには行数分が表示され、残りの部分は表横に表示されるスクロールバーを操作して表示させます。
同一レコード格納	X-WebForm for AgileWorks では利用できません
PDF 背景色表示	表の奇数行、偶数行に背景色を指定した場合、PDF 作成時にも背景色を表示するか否かを指定できます。各フィールドは PDF 作成時に背景色が”表示されない動作”が基本になりますが、表定義での背景色は”表示する動作”が基本になります。
行数 RequestID	X-WebForm for AgileWorks では利用できません

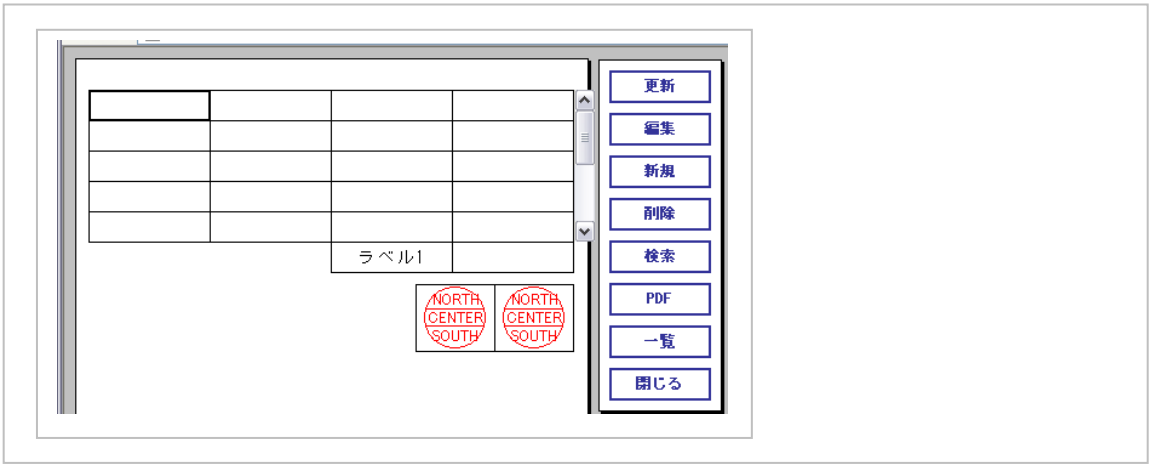
表明細スクロールを定義する場合、スクロールを行う範囲の指定に”用紙基準”、”画面基準”の 2 種類があります。
“用紙基準”で作成する場合は画面表示と PDF 出力の両方を考慮したフォームになりますが、”画面基準”で作成する場合は、画面表示のみを考えたフォーム作成になります。

■ 用紙基準での作成

用紙基準で作成する場合は PDF(印刷時)のレイアウトでフォームをデザインします。印刷イメージなのでフォーム上に作成(指定)する行数は印刷時の行数になるので、ブラウザに表示するスクロール領域は考慮せずに作成することになります。



用紙基準の場合は作成したフォームをブラウザ表示する際に表の部分を高さ方向に縮めて表示するイメージになります。
表示形式設定で”スクロール”をチェックしたのち、表部分の表示高さをピクセル値で指定します。

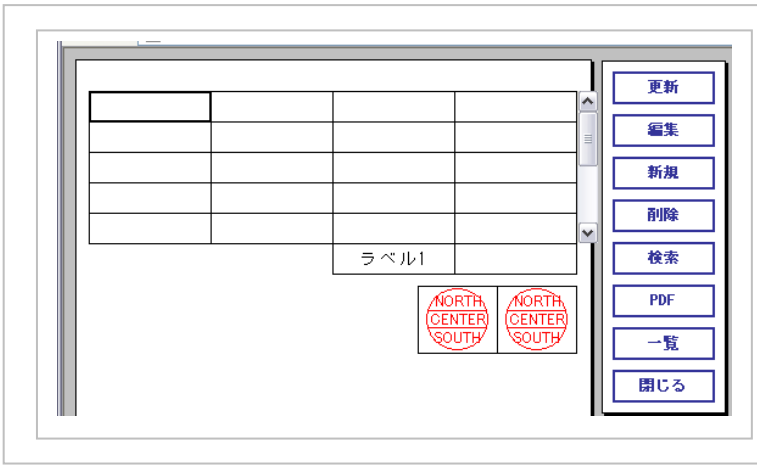


■　画面基準での作成

画面基準で作成する場合はブラウザの入力画面に表示される行数が基本となります。
なお、**画面基準で作成したフォームは PDF 時の座標情報を持たない為、PDF 出力を行うとレイアウトが崩れる場合があります**のでご注意ください。

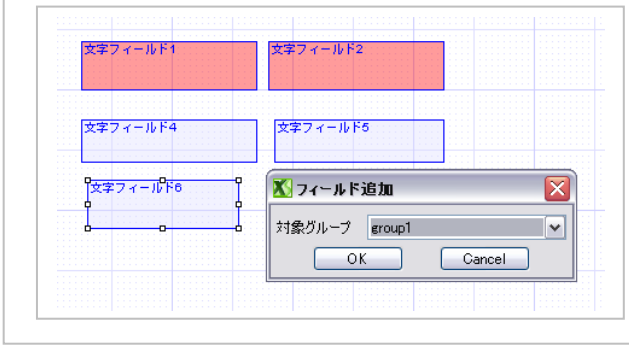


画面基準で作成した場合は指定されている行数がスクロール表の可視行数となります。その為、”初期行数”欄にスクロール表内に予め用意する行数を指定します。



既存グループへのフィールド追加

グループ化されていないフィールドを既存のグループに追加したい場合は、フィールドを選択し[右クリック]-[グループ]-[グループに追加]を選択し、追加するグループを選択して【OK】ボタンをクリックします。



グループの解除

フィールドのグループ化を解除するには、グループ化されているフィールドの一つを選択し[右クリック]-[グループ]-[グループの解除]を選択します。

表明細レイアウト内でのフォーカス移動

表明細レイアウト内でのフォーカス移動は次のような動きになります。

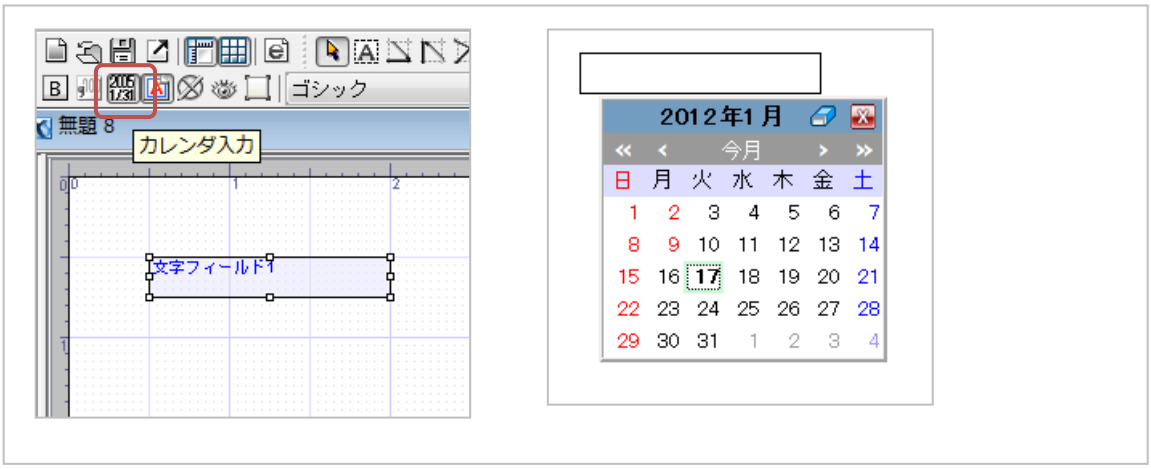
1. グループ内は作成順にカーソルが移動する
2. 繰返しで作成したオブジェクトはグループ単位で、カーソル移動が行われる

つまり、複数行を作成した場合は、行方向に移動し最終項目の次のフォーカス先は次行の先頭項目になります。

5.8. カレンダ設定

文字フィールドや西暦・年・月・日フィールドに対してカレンダから入力可能なよう設定することができます。

フィールドを選択した状態でアイコンメニューバーのカレンダ入力をクリックすることで､カレンダ参照機能が有効となります。



カレンダの表示形式・色は、利用するブラウザやクライアント端末の OS により変化します。
カレンダの各部の説明については以下の通りです。



5.9. 計算式設定

計算式を設定すると、計算対象フィールドの onChange(フィールド値の変化)タイミングで四則演算や合計(Σ)計算処理が実行されます。

例えば、
整数フィールド1 × 整数フィールド2 = 整数フィールド3

という計算を行うには、整数フィールド 3 に対して計算式設定を行い、整数フィールド 1 や整数フィールド 2 の OnChange イベントで計算処理を実行されます。

計算処理はフォームの onLoad 時には実行されませんので、計算式設定がされているフォームを AgileWorks にて関連フォーム設定を行う場合には、計算結果フィールドも含めて引用設定してください。

計算式で利用できるフィールドは、整数、数値、西暦、月、日、日時フィールドの 6 種類です。なお、表内に定義されるフィールドと表外のフィールド間での計算式設定には制約があります。

計算式「合計」の設定

指定したフィールドの合計を行います。



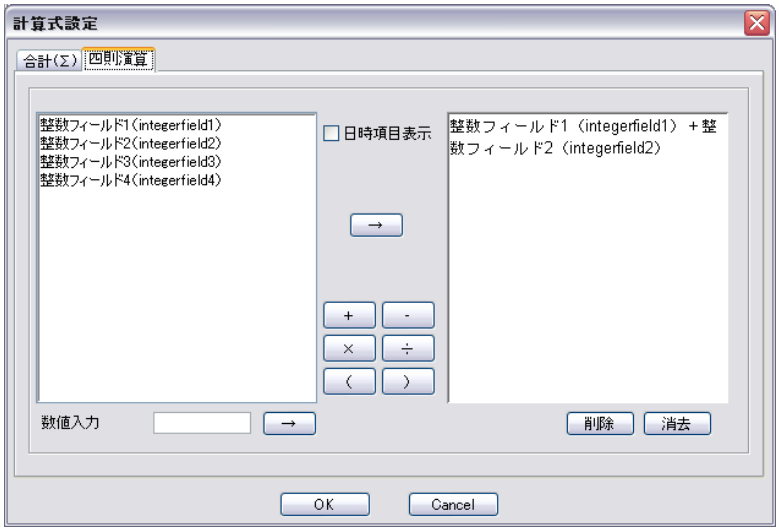
項目	説明
左項目リスト	フォーム内にある数値、整数フィールドの一覧
右項目リスト	合計を行うフィールドの一覧
→	左項目リストで選択した項目を右リストに追加します。 表内のフィールドを縦合計する場合はフィールド名を一つ定義します。 項目をマウス左ボタンのダブル・クリックで右項目に追加できます。
←	右項目リストで選択した項目をリストから削除します。 項目をマウス左ボタンのダブル・クリックで右項目から削除できます。
消去	右項目リストの内容を全て消去します。
日時項目表示	計算式の設定対象として数値･整数フィールドを指定した場合、左側リストに日時、西暦、月、日フィールドが表示されません。これを式に加える場合はチェックをします。

合計(Σ)での「端数処理」「小数点以下桁数」は、計算式を設定したフィールドのプロパティ「端数処理」「小数点以下桁数」から指定してください。整数フィールドの場合は「端数処理」のみになります。

また、表定義のメンバ項目を集計対象に指定した場合は表の列を合計した結果になります。(5 行であれば、1 行目から 5 行目までを自動的に合計します)

計算式「四則演算」の設定

指定した計算式の結果を設定します。



項目	説明
左項目リスト	フォーム内にある数値、整数フィールドの一覧
右項目リスト	現在設定されている計算式
→	左項目リストで選択した項目を右リストに追加します。 項目をマウス左ボタンのダブル・クリックで右項目に追加できます。
＋－×÷（）	計算式中で利用できる演算子
削除	右項目リストの最後に追加した項目を一つ削除します。 リスト内でマウス左ボタンをダブル・クリックでも同様に削除できます。
消去	右項目リストの内容を全て消去します。
数値入力	計算式中で定数を使用する場合に、入力後【→】をクリックします。
日時項目表示	計算式の設定対象として数値・整数フィールドを指定した場合、左側リストに日時、西暦、月、日フィールドが表示されません。これを式に加える場合はチェックをします。

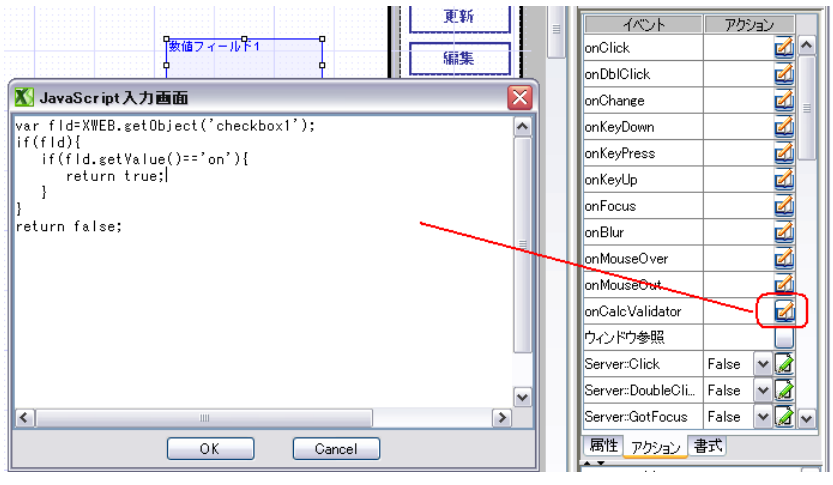
四則演算の制限事項として､表内の項目でない場合は計算式に表定義のメンバになっている項目を加えることはできません。表項目の集計結果を、四則演算に加える場合は、フォーム上にダミーの数値フィールド(もしくは、整数フィールド)を指定し、そこに集計を行う設定をしてダミーフィールドを介して計算式を作ってください。ダミーフィールドは不可視に指定しておくことで画面に表示されなくなります。

四則演算を設定するフィールドが表内の項目である場合､同一表内の項目と表に含まれない項目を選択する事ができます。

計算実行の制御

設定した計算式は関連付けられているフィールドの値が変化する度に自動的に再計算が行われますが､フィールドの値により計算式の実行を制御したい場合があります。その様な場合は、計算結果を格納する数値・整数フィールドの「onCalcValidator」イベントを設定します。設定は JavaScript により行います。

計算式の実行制御は記述した JavaScript からの戻り値が `true / false` の何れであるかにより変化します。



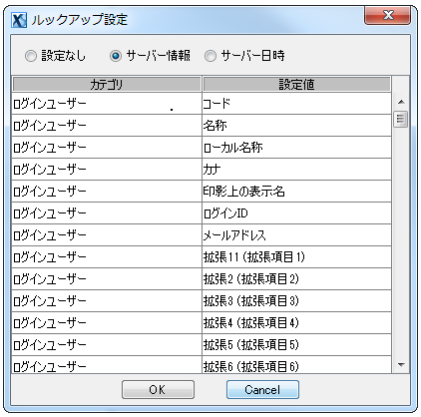
制限事項

計算式の設定では以下のような制限があります。

- 表定義内のフィールドと、表定義外のフィールドの間での計算式は設定できません。
- 数値フィールドに結果を格納する際、小数点以下のまるめ桁数を指定しない場合は、計算に利用した各フィールドの少数点以下桁数を元に結果の桁数が四捨五入されます。
  例えば、0.01+0.01+0.01+0.01 は 0.04、0.011+0.01+0.01+0.01 は 0.041 になります。(加減算のみの場合)
- 日時フィールドを計算式で利用した場合、日付として利用した場合は、1970 年 1 月 1 日からの経過日数。時刻として利用した場合は当日の午前 0 時 0 分からの経過分数を表します(秒は小数で表現)。
  計算結果を日時フィールドに代入した場合は、日付型の項目であれば 1970 年 1 月 1 日の経過日数を計算した結果が表示され、時刻の場合は午前 0 時からの経過時間として表示されます。
- 計算設定に含まれるフィールドに対して JavaScript で値を変更した場合、計算処理は実行されません。
  そのようなケースでは計算処理自体を JavaScript で独自に実装する必要があります。
- 計算が実行された場合に、計算式が設定されたフィールドの onChange アクションは動作しません。
  そのようなケースでは計算処理自体を JavaScript で独自に実装する必要があります。

5.10. ルックアップ設定

サーバーから取得された値をフィールドの値とセットする場合に指定します。
選択した値によって、フォーム表示時やワークフロー操作後に値が自動的にセットされます。



ルックアップ設定の中に表明細フィールドへの指定を想定している項目もあります。
指定可能な項目は以下の通りです。

▼サーバー情報

カテゴリ	設定値	補足
書類	書類 ID	
ログインユーザー	コード	
	名称	
	ローカル名称	
	カナ	
	印影上の表示名	
	ログイン ID	
	メールアドレス	
	拡張項目 1～20	
	組織コード	
	組織名称	
	組織画面表示名称	
	組織ローカル表示名称	
	組織拡張項目 1～20	
	セクションロールコード	
	セクションロール名称	
	セクションロールランク	
申請ユーザー	コード	
	名称	
	ローカル名称	
	カナ	

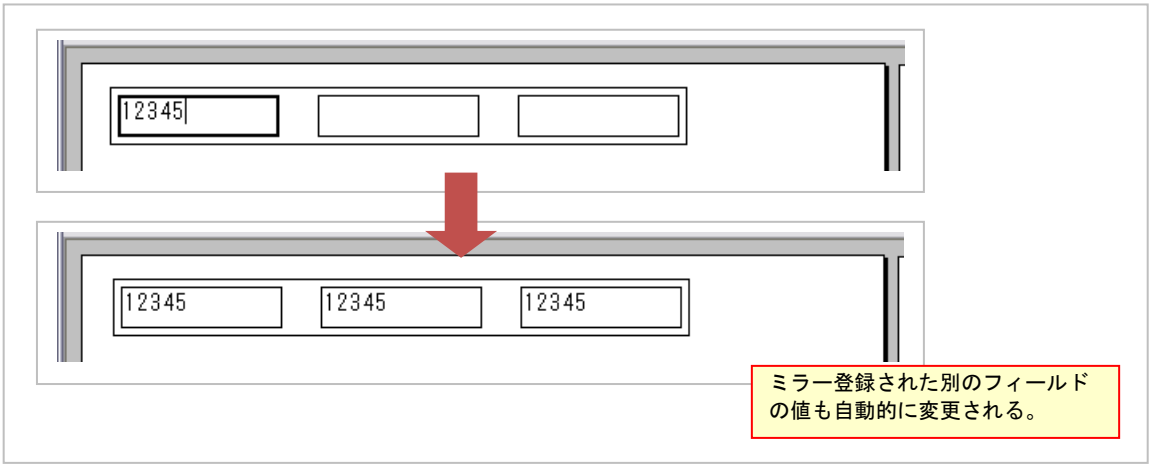
	印影上の表示名	
	ログイン ID	
	メールアドレス	
	拡張項目 1～20	
申請組織	組織コード	
	組織名称	
	組織画面表示名称	
	組織ローカル表示名称	
	組織拡張項目 1～20	
	セクションロールコード	
	セクションロール名称	
	セクションロールランク	
フォームコード	フォームコード	
フォーム名称	フォーム名称	
回付ルールコード	回付ルールコード	
回付ルール名称	回付ルール名称	
申請日	申請日	
基準日	基準日	
承認完了日	承認完了日	
作成日	作成日	
証跡 PDF 用	書類 ID	
	書類バージョン	
	件名 1～20	
	書類管理番号	
	書類オーナー名称	
	フォームコード	
	フォーム名称	書類作成時のフォーム名称
	順序	表明細フィールドに対して指定する。
	ステップ種類	表明細フィールドに対して指定する。
	ステップ名称	表明細フィールドに対して指定する。
	組織コード	表明細フィールドに対して指定する。
	組織名称	表明細フィールドに対して指定する。
	ロールコード	表明細フィールドに対して指定する。
	ロール名称	表明細フィールドに対して指定する。
	ユーザーコード	表明細フィールドに対して指定する。
	ユーザー名称	表明細フィールドに対して指定する。
	処理名称	表明細フィールドに対して指定する。
	処理日時	表明細フィールドに対して指定する。
	代理ユーザーかどうか	表明細フィールドに対して指定する。 代理ユーザーの場合は 1、そうでない場合は 0 がセットされるため、チェックボックスを利用して表示する。
	被代理組織コード	表明細フィールドに対して指定する。
	被代理組織名称	表明細フィールドに対して指定する。
	被代理ロールコード	表明細フィールドに対して指定する。
	被代理ロール名称	表明細フィールドに対して指定する。
	被代理ユーザーコード	表明細フィールドに対して指定する。
	被代理ユーザー名称	表明細フィールドに対して指定する。
	コメント	表明細フィールドに対して指定する。 各ステップの操作時(※)に入力したコメントが表示されます。 ※メモは表示されません。
	予備項目 1-10	表明細フィールドに対して指定する。 ワークフローイベントの ELECT イベントから WorkflowTaskModel# getReserveItems に対して設定した値が出力される。

▼サーバー日時

カテゴリ	設定値	補足
サーバー日時	年月日(yyyy 年 MM 月 dd 日 HH 時 mm 分)	
	年月日(yyyy 年 MM 月 dd 日)	
	年月日(yyyy 年 MM 月 dd 日、前 0 なし)	
	年月日(yyyy/MM/dd HH:mm)	
	年月日(yyyy/MM/dd)	
	年月日(yyyy/MM/dd、前 0 なし)	
	年月日(yyyy-MM-dd HH:mm)	
	年月日(yyyy-MM-dd)	
	年月日(yyyy-MM-dd、前 0 なし)	
	時刻(HH:mm)	
	元号	
	年月日(yyyymmdd、区切り文字無し)	
	西暦(yyyy)	
	月(01～12)	
	月(1～12)	
	日(01～31)	
	日(1～31)	
	時(00-23)	
	分(00-59)	

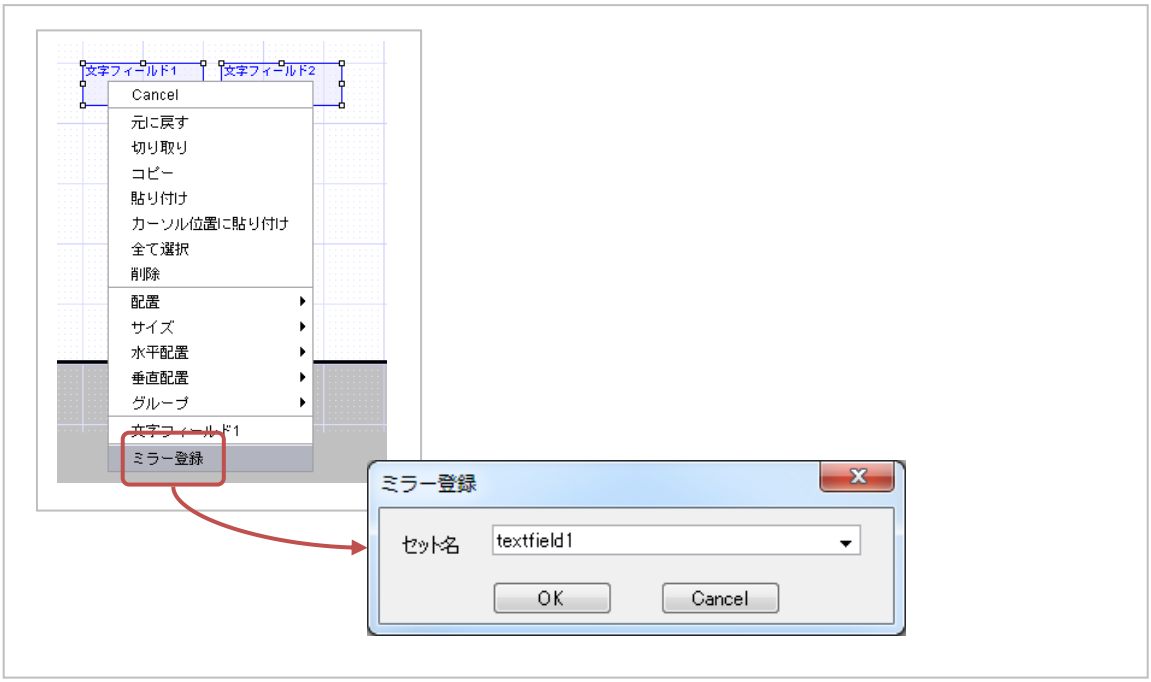
5.11. ミラー定義設定

文字列や数値などをフィールドに入力した際、その値を別のフィールドにも自動的に反映させたい場合に”ミラー定義”を利用します。



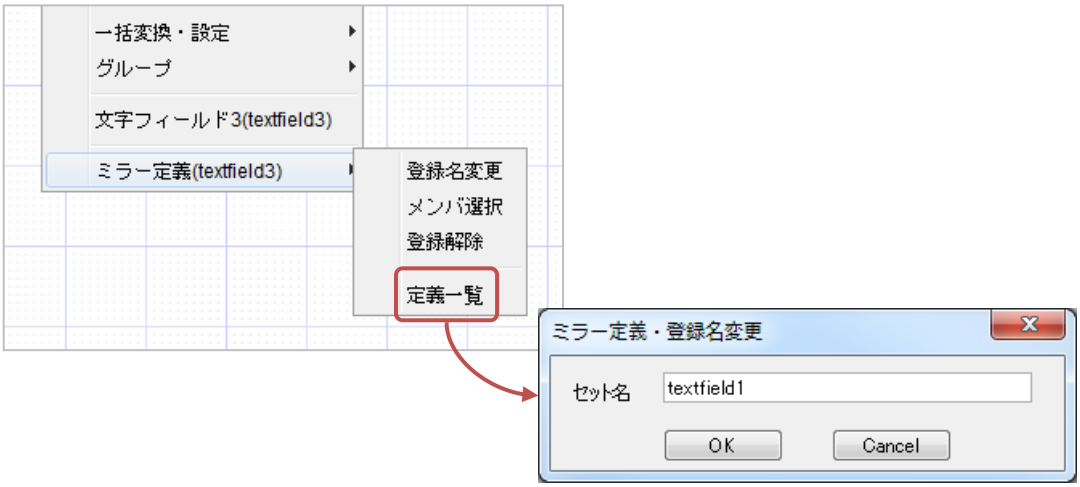
ミラー定義の追加

ミラー定義を設定したフィールドを複数選択した状態で[右クリック]-[ミラー登録]を選択し、ミラー定義名を入力して【OK】ボタンをクリックするとミラー定義が追加されます。



ミラー定義名の変更

ミラー定義メンバを選択した状態で[右クリック]-[ミラー定義]-[登録名変更]を選択すると、ミラー定義名の変更ダイアログが表示され、名称の変更が可能となります。



ミラー定義の削除

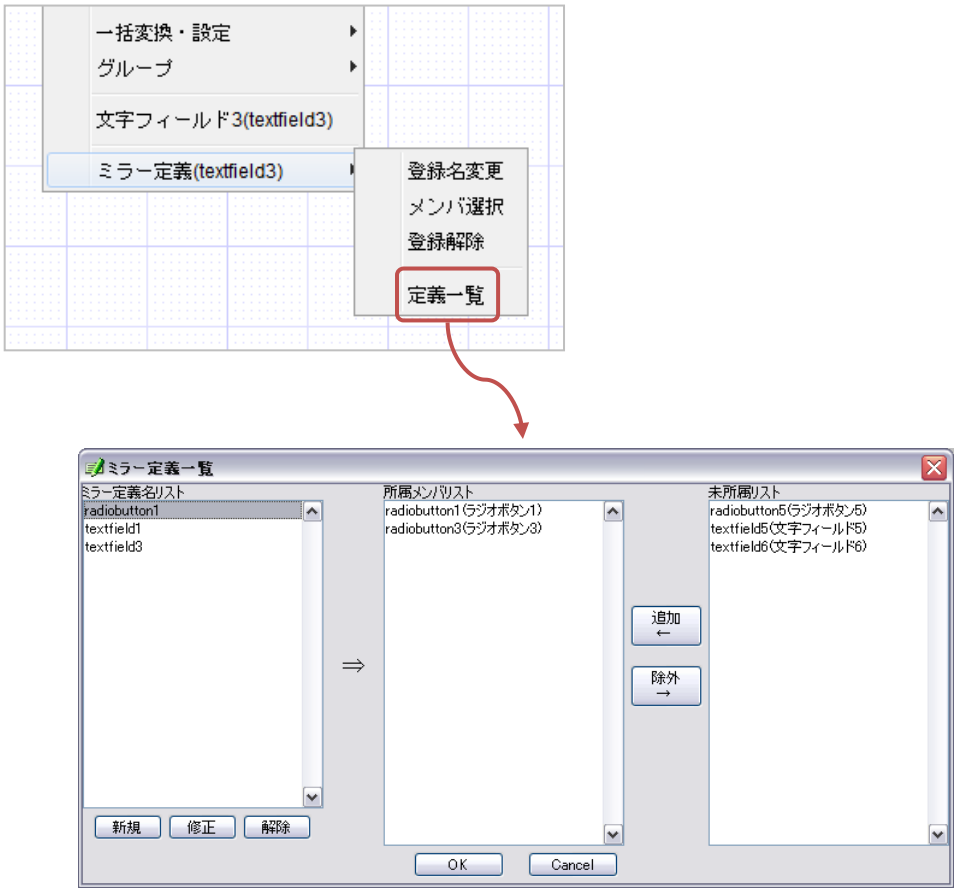
ミラー定義メンバを選択した状態で[右クリック]-[ミラー定義]-[登録解除]を選択すると、当該メンバが所属するミラー定義が削除されます。

ミラー定義メンバの選択

ミラー定義メンバを選択した状態で[右クリック]-[ミラー定義]-[メンバ選択]を選択すると、全てのメンバが選択状態となります。

ミラー定義一覧

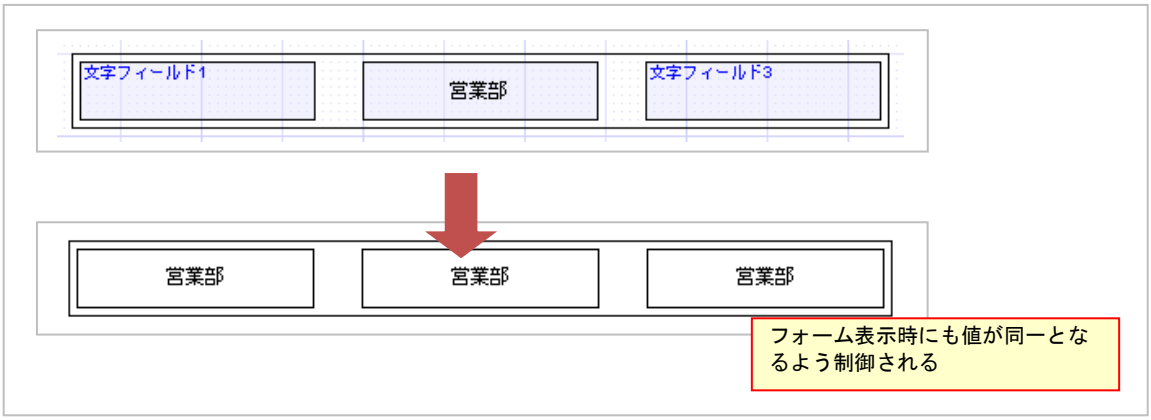
作成中のフォーム内で使用しているミラー登録を一覧形式で表示します。



項目	説明
ミラー定義名リスト	ミラー定義の定義名が表示されます。定義名を選択すると画面中央に内容が表示されます。
所属メンバリスト	選択中のミラー定義に含まれている入力フィールドが表示されます。
未所属リスト	フォーム内のどのミラー定義にも含まれていない、入力フィールドが表示されます。
新規・修正・解除	ミラー定義の新規作成、定義名変更、解除(破棄)を行ないます。実際の登録は一覧画面を「OK」ボタンで閉じた場合に行なわれます。
追加・除外	所属メンバリスト、未所属リストで選択されているフィールドをメンバに追加、除外します。実際の登録は一覧画面を「OK」ボタンで閉じた場合に行なわれます。

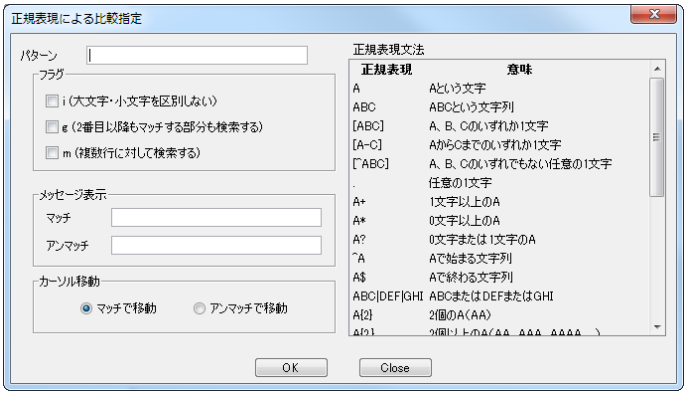
フォーム表示時の動作

フォーム表示時にもミラー定義に含まれたフィールドの値が全て同一となるよう動作します。
具体的には、ミラー定義に含まれるフィールドのうち値が設定されているフィールドを順に探索し、最初に見つかったフィールドの値を他のフィールドにセットします。探索の順序は「ミラー定義一覧」画面の所属メンバリストの表示順となります。



5.12. 正規表現比較設定

文字フィールド・テキストエリアでは正規表現による文字列チェックを行う事ができます。設定はプロパティの「正規表現比較」で行います。



項目	説明
パターン	マッチングパターンの正規表現文字を入力します。 ここでの指定は、正規表現の知識が前提となります。画面右の「正規表現文法」を参考の上、入力して下さい。
フラグ	比較動作に関するフラグを指定します。 i:大文字・小文字を区別しない場合にチェックします。 g:2 番目以降もマッチする部分を検索する場合にチェックします。 m:複数行に対して検索する場合にチェックします。
メッセージ表示	パターンがマッチする場合と、マッチしない場合の表示するメッセージを指定します。
カーソル移動	該当フィールドに値を入力した後のカーソル移動のルールを指定します。 「マッチで移動」を指定した場合、 該当フィールドに値を入力し、パターンにマッチした時だけ別フィールドにカーソル移動ができます。 「アンマッチで移動」を指定した場合、該当フィールドに値を入力し、パターンにマッチしない時に別フィールドにカーソル移動ができます。

5.13. プロパティの種類

- タグ名

  オブジェクトの名称を指定します。
  最大 255 文字まで指定可能です。

- ID

  オブジェクトを一意に特定するための ID を 28 文字指定します。
  最大 28 文字まで指定可能です。(表明細 ID については 20 文字)

  オブジェクトを配置した直後は自動的に設定された ID となっています。ID は各種設定画面でも表示される情報のため、特に入力フィールドについてはフィールドを認識できるような適切な ID に変更してください。

- タイプ

  オブジェクトのタイプを指定します。

- X 座標

  オブジェクトの X 座標位置を指定します。

- Y 座標

  オブジェクトの Y 座標位置を指定します。

- 始点 X 座標

  直線を描画する際の始点 X 座標を指定します。

- 始点 Y 座標

  直線を描画する際の始点 Y 座標を指定します。

- 終点 X 座標

  直線を描画する際の終点 X 座標を指定します。

- 終点 Y 座標

  直線を描画する際の終点 Y 座標を指定します。

- 幅

  オブジェクトの幅を指定します。

- 高さ

  オブジェクトの高さを指定します。

- 長さ

  直線の長さを指定します。

- 初期値

  文字ラベルの固定文字列、または入力フィールドの初期値を指定します。
  最大 255 文字まで指定可能です。

- ラベル

  ボタンに表示する文字列を指定します。

- 無効

  入力フィールドを無効とするかどうかを指定します。

- 編集禁止

  入力フィールドを編集禁止とするかどうかを指定します。

■ タブ移動禁止

入力フィールドに対して、Tab キーにてフォーカスを当てるかどうかを指定します。

■ 不可視

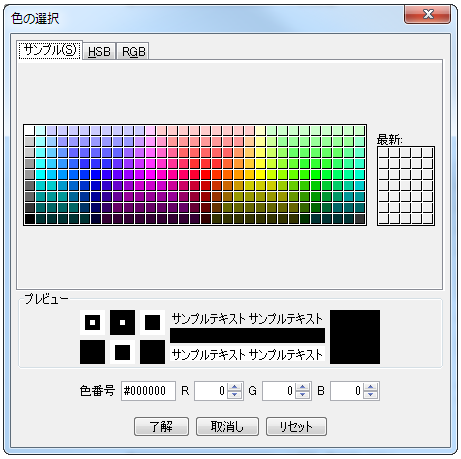
オブジェクトを不可視状態とする可動を指定します。

■ 移動禁止

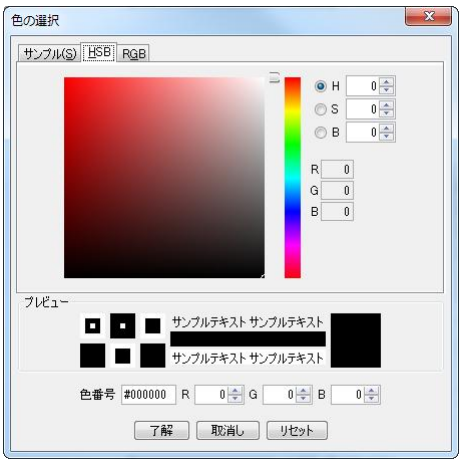
オブジェクトの座標位置を保護し、オブジェクトの移動を禁止するかどうかを指定します。
X-WebForm 上のフォーム作成をサポートするための設定となります。

■ 色

線や文字の色を指定します。
色変更の際にはカラーパレットが表示されますので、クリックして色を選択します。



サンプルから色を選択します。
RGB の 16 進コードまたは 10 進値の直接入力も可能です。



HSB カラーでの指定も可能。



スライダーを利用して RGB カラーの指定も可能。

■ 背景色

オブジェクトの背景色を指定します。

■ 枠線付き

オブジェクトの周りに枠を表示させるかどうかを指定します。

■ 枠線幅

オブジェクトの枠線の線幅を指定します。

■ 枠線色

オブジェクトの枠線の色を指定します。

■ 縦書き

ラベルの文字列を縦書きで表示するかどうかを指定します。

■ 行番号

表明細内に配置されたラベルに行番号を指定するかどうかを指定します。

■ 頁番号

X-WebForm for AgileWorks では利用できません。

■ 頁枚数

X-WebForm for AgileWorks では利用できません。

■ 表示 URL(HREF)

ラベルをクリックした際に表示するサイトの URL を指定します。

■ 表示ウィンドウ(TARGET)

表示 URL(HREF)を指定している場合に、表示対象となるウィンドウを指定します。
指定内容は HTML の target 属性の仕様に準拠します。別ウィンドウを表示する場合は"_blank"を指定してください。

■ Link 下線

表示 URL(HREF)を指定している場合に、ラベルの文字列に下線を表示するかどうかを指定します。

■ Link 下線色

表示 URL(HREF)を指定している場合に、ラベルの文字列に下線の色を指定します。

■ Link カーソル

表示 URL(HREF)を指定している場合に、ラベルにマウスカーソルを合わせた場合のカーソルの形状を指定します。

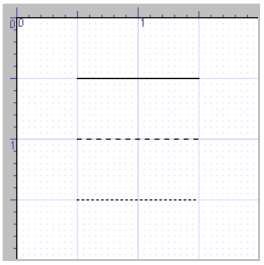
選択項目	説明
pointer	リンク
crosshair	十字
move	移動
help	ヘルプ
wait	処理中

■ 線幅

線の太さを 5 段階で指定します。

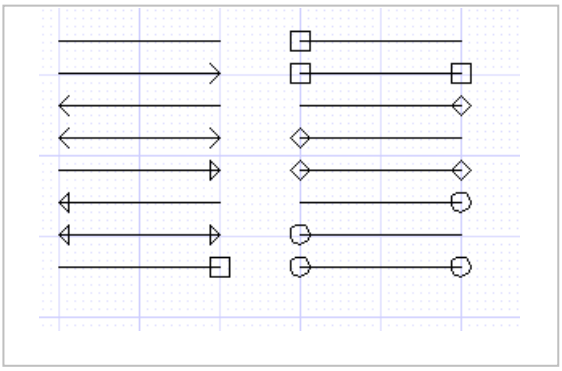
■ 線種

線の種類を実線・破線・点線から選択します。



■ 矢先

線の矢先を以下の種類から選択します。



■ コーナ R

長方形枠のコーナの曲率半径を指定します。
コーナR値は“幅”もしくは”高さ”の 2 分の 1 以下である必要があります。2 分の 1 以上の数値を指定するとコーナ R は表示されなくなります。

■ 倍率

画像の表示倍率を指定します。

■ イメージ

ボタンのイメージを指定します。
予め用意された画像か、クライアント端末に保存されている任意の画像ファイルを指定することが可能です。

■ 備考

画像の備考情報を指定します。

■ 最大入力文字数

フィールドに対して入力可能な最大文字数を指定します。(バイト数ではなく文字数となります)
この設定値を超える文字列が入力された場合はエラーがアラート表示されます。

テキストフィールド、不可視フィールドに指定可能な最大値は 1000 です。

■ 最大入力行数

テキストエリアに入力可能な最大行数を指定します。
この設定値を超える行数が入力された場合はエラーがアラート表示されます。

■ 入力可能最大値

数値・整数フィールドに入力可能な最大値を入力します。
この設定値より大きい値が入力された場合はエラーがアラート表示されます。

■ 入力可能最小値

数値・整数フィールドに入力可能な最小値を入力します。
この設定値より小さい値が入力された場合は設定された値に補正されます。

■ IME モード

フィールド入力時の IME の状態に関する指定を行います。
本プロパティは Internet Explorer・Firefox でのみ動作します。

選択項目	説明
Off	半角英数入力 (ひらがな入力に切り替えが可能)
On	ひらがな入力 (半角英数に切り替えが可能)
Disabled	半角英数入力 (切り替え不可)

■ ふり仮名フィールド

文字フィールドのカナ入力の内容を自動的に入力するフィールドを指定します。
本プロパティは Internet Explorer でのみ動作します。



■ カナ・かな

ふり仮名フィールドを指定している場合に、反映するふり仮名の内容を、全角カナ・全角かな・半角カナから選択します。

■ 計算設定値

設定された計算式とフィールドの値を元に自動計算を行い、計算結果を設定しているフィールドにセットします。

■ チェックマーク

ラジオボタン・チェックボックスがチェック状態の際に表示される文字を指定します。
文字のため、プロパティ「フォントサイズ」や「色」等が適用されます。

例: ■、●、×、レ

■ 非チェックマーク

ラジオボタン・チェックボックスが非チェック状態の際に表示される文字を指定します。
文字のため、プロパティ「フォントサイズ」や「色」等が適用されます。

例: 口、〇

■ チェック値

ラジオボタン・チェックボックスがチェック状態の際の値を指定します。デフォルトは 1 です。
ラジオボタンの場合は同一グループ内で一意となる値である必要があります。

■ 非チェック値

チェックボックスが非チェック状態の際の値を指定します。

■ 選択肢

コンボボックス・リストボックス・曜日フィールドの選択候補の設定を行います。
曜日フィールドについては予め決められた選択肢の中から選択します。

■ データ列数

選択肢を「固定値」とした際に、表示値と選択値を一致させる場合は 1、分ける場合は 2 を指定します。
選択肢を「Table/View」とした場合、本設定は無視されます。

■ 表示行数

リストボックスの選択候補の表示行数を指定します。

■ 西暦フィールド

月・日・曜日フィールドが参照する西暦フィールドを指定します。

■ 月フィールド

西暦・日・曜日フィールドが参照する月フィールドを指定します。

■ 日フィールド

西暦・月・曜日フィールドが参照する日フィールドを指定します。

■ 曜日フィールド

西暦・月・日フィールドが参照する曜日フィールドを指定します。

■ 行番号の日付加算

日フィールドを表明細内に配置した場合に、値に対して行番号を加算するかどうかを指定します。

■ 上段テキスト

印影フィールドの上段部分の文字列を指定します。

■ 中段テキスト

印影フィールドの中段部分の文字列を指定します。

■ 下段テキスト

印影フィールドの下段部分の文字列を指定します。

■ 固定画像

印影画像を指定します。

■ ユーザー印影画像

AgileWorks ユーザーに設定された印影画像を使用するかどうかを指定します。

■ バーコード種類

バーコードの種類を CODE128、CODE39、PDF417 の中から選択します。

■ 値表示

バーコード値を表示するかどうかを指定します。

■ チェックデジット付加

バーコードにチェックデジットを付加するかどうかを指定します。

■ バーコード回転

バーコードを指定角度で回転して表示します。

■ 解像度指定

バーコードの解像度(dpi)を指定します。

■ バーコード値 ID

バーコードの値を保持するフィールドを指定します。

■ フォントサイズ

画面表示される文字サイズを設定します。

■ フォントファミリ

表示されるフォント種類を設定します。

■ フォントウエイト

画面上で表示される文字を太字にします。
「False」を選択した場合は細字に、「True」を選択した場合は太字となります。

■ 文字間隔

画面上に表示される文字の間を設定します。

■ 行間隔

画面上に表示される行の間を設定します。

■ 左パディング

描画したエリア内における文字等の左余白を設定します。

■ 右パディング

描画したエリア内における文字等の右余白を設定します。

■ 上パディング

描画したエリア内における文字等の上余白を設定します。

■ 下パディング

描画したエリア内における文字等の下余白を設定します。

■ ツールチップ

フィールド上にマウスカーソルを移動させた場合に表示されるツールチップを設定します。
途中で改行する場合は“¥n”と入力します。



■ ツールチップ背景

ツールチップの背景色を設定します。

■ ツールチップ枠色

ツールチップの枠線の色を設定します。

■ ツールチップ字色

ツールチップの文字色を設定します。

■ 表示モード

描画したラベルがブラウザ、PDF で表示のオンオフを設定します。

選択項目	説明
両方	ブラウザ、PDF 両方で表示します。
ブラウザのみ	ブラウザでしか表示されません。
PDF のみ	PDF しか表示されません。

■ レイヤ番号

フィールドが所属するレイヤの番号を設定します。

> ⚠ 注意事項
> レイヤ機能は下位互換機能の為、将来的に廃止される予定です。
> R2.1.0 以降の AgileWorks では、複数ページの各ページが 1 つのレイヤとして動作します。

■ PDF 背景色表示

PDF 出力時にプロパティ「背景色」を適用するかどうかを指定します。
False とした場合、PDF 出力時に背景色は表示されません。

■ PDF/X 座標

PDF 出力時における、オブジェクトの X 座標位置を指定します。

- PDF/Y 座標

  PDF 出力時における、オブジェクトの Y 座標位置を指定します。

- PDF/始点 X 座標

  PDF 出力時における、直線を描画する際の始点 X 座標を指定します。

- PDF/始点 Y 座標

  PDF 出力時における、直線を描画する際の始点 Y 座標を指定します。

- PDF/終点 X 座標

  PDF 出力時における、直線を描画する際の終点 X 座標を指定します。

- PDF/終点 Y 座標

  PDF 出力時における、直線を描画する際の終点 Y 座標を指定します。

- PDF/幅

  PDF 出力時における、オブジェクトの幅を指定します。

- PDF/高さ

  PDF 出力時における、オブジェクトの高さを指定します。

- PDF/長さ

  PDF 出力時における、直線の長さを指定します。

- 水平配置

  ラベル内に入力した文字の水平配置を設定します。

選択項目	説明
 水平位置 (左)	入力内容を描画エリア左に配置します。
 水平位置 (中央)	入力内容を描画エリア左右方向の中央に配置します。
 水平位置 (右)	入力内容を描画エリア右に配置します。

- 垂直配置

  ラベル内に入力した文字の垂直配置を設定します。

選択項目	説明
 垂直位置 (上)	入力内容を描画エリア上に配置します。
 垂直位置 (中央)	入力内容を描画エリア上下方向の中央に配置します。
 垂直位置 (下)	入力内容を描画エリア下に配置します。

- 縦横比を維持

  イメージフィールドを幅・高さに合わせて表示するのではなく、画像サイズの縦横比で表示するかどうかを指定します。

- 日付書式

  文字フィールドにカレンダ参照を設定している場合に、セットされる日付文字列の書式を指定します。

- 文字変換

  入力した値を大文字または小文字に自動変換するかどうかを指定します。

- ルックアップ設定

  フィールド値のルックアップ設定を指定します。
  詳細は「5.10 ルックアップ設定」を参照してください。

- 正規表現比較

  フィールドの入力値に対する正規表現比較設定を行います。

■ 小数点以下桁数

数値フィールドの小数点以下の桁数を指定します。

■ 端数処理

入力内容や計算結果から端数が発生した場合の処理を、四捨五入・切捨て・切上げの中から選択します。

■ カンマ区切り

数値・整数フィールドの値をカンマ区切りで表示します。
入力時にはカンマは除去され、値変更後に再度カンマ区切りで表示されます。

■ 範囲外文字色

数値・整数フィールドの値が上限基準値・下限基準値を超えている場合、指定の文字色で表示されます。
例えば、値が負数の場合は赤色で目立つように表示するといったことが実現可能です。

■ 範囲外背景色

数値・整数フィールドの値が上限基準値・下限基準値を超えている場合、指定の背景色で表示されます。
例えば、値が負数の場合は赤色で目立つように表示するといったことが実現可能です。

■ 上限基準値

数値・整数フィールドの上限基準値を指定します。
値が基準値より大きい場合、範囲外文字色・背景色が適用されます。

■ 下限基準値

数値・整数フィールドの下限基準値を指定します。
値が基準値より小さい場合、範囲外文字色・背景色が適用されます。

各フィールドのプロパティ一覧

各フィールドが設定可能なプロパティは以下の通りです。

■ 属性の一覧

プロパティ	ラベル	水平線	垂直線	直線	長方形枠	長方形	イメージ	文字	数値	整数	テキストエリア	ボタン	ラジオボタン	チェックボックス	コンボボックス	リストボックス	西暦	月	日	曜日	日時	印影	バーコード	不可視
タグ名	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ID	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
タイプ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
X 座標	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Y 座標	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
始点 X 座標				○																				
始点 Y 座標				○																				
終点 X 座標				○																				
終点 Y 座標				○																				
幅	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
高さ	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
長さ		○	○																					
初期値	○							○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
ラベル												○												
無効	○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
編集禁止								○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○		○	
タブ移動禁止								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
不可視	○							○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	
移動禁止	○							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
色	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
背景色	○							○	○	○	○	○			○	○					○	○	○	
枠線付き	○							○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○		
枠線幅	○							○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○		
枠線色	○							○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○		

プロパティ	ラベル	水平線	垂直線	直線	長方形枠	長方形	イメージ	文字	数値	整数	テキストエリア	ボタン	ラジオボタン	チェックボックス	コンボボックス	リストボックス	西暦	月	日	曜日	日時	印影	バーコード	不可視
縦書き	○																							
行番号	○																							
頁番号	○																							
頁枚数	○																							
表示 URL(HREF)	○						○																	
表示ウィンドウ (TARGET)	○						○																	
Link 下線	○																							
Link 下線色	○																							
Link カーソル	○																							
線幅		○	○	○	○																			
線種		○	○	○	○																			
矢先		○	○	○																				
コーナ R					○																			
倍率							○															○		
イメージ							○					○												
備考							○																	
最大入力文字数								○	○	○	○													○
最大入力行数											○													
入力可能最大値									○	○														
入力可能最小値									○	○														
IME モード								○			○													
ふり仮名フィールド								○																
カナ・かな								○																
計算設定値									○	○											○			

プロパティ	ラベル	水平線	垂直線	直線	長方形枠	長方形	イメージ	文字	数値	整数	テキストエリア	ボタン	ラジオボタン	チェックボックス	コンボボックス	リストボックス	西暦	月	日	曜日	日時	印影	バーコード	不可視
チェックマーク													○	○										
非チェックマーク													○	○										
チェック値													○	○										
非チェック値														○										
選択肢															○	○				○				
データ列数															○	○								
表示行数																○								
西暦フィールド																○		○	○					
月フィールド																	○		○					
日フィールド																	○	○						
曜日フィールド																	○	○	○					
行番号の日付加算																			○					
印影直径																						○		
上段テキスト																						○		
中段テキスト																						○		
下段テキスト																						○		
固定画像																						○		
ユーザー印影画像																						○		
バーコード種類																							○	
値表示																							○	
チェックデジット付加																							○	
バーコード回転																							○	
解像度指定																							○	
バーコード値 ID																							○	

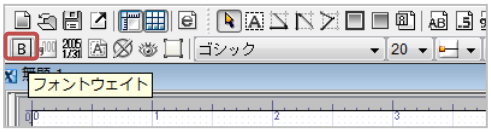
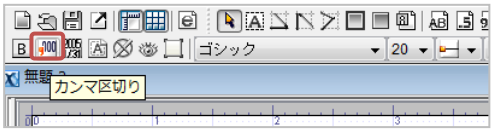
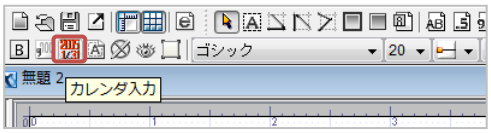
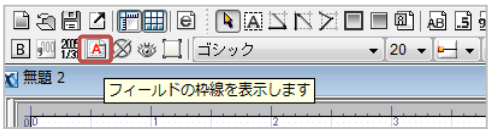
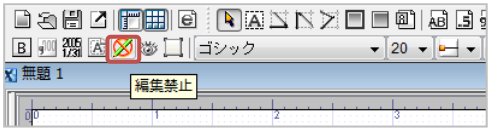
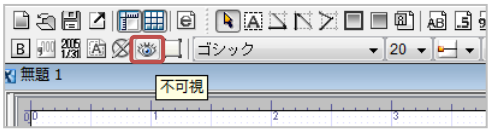
■ 書式の一覧

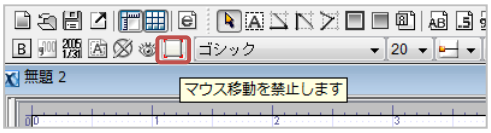
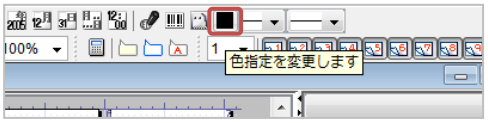
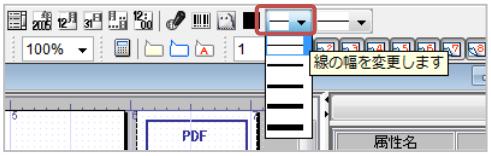
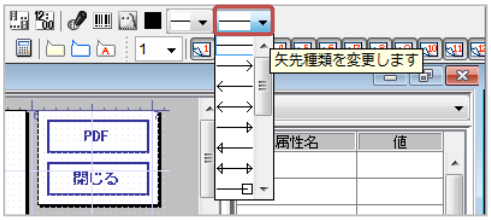
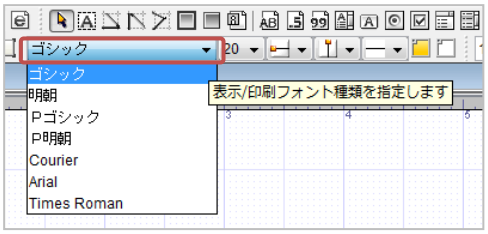
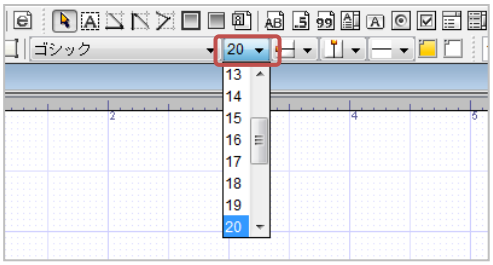
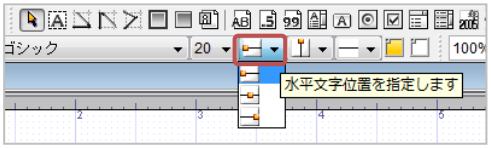
プロパティ	ラベル	水平線	垂直線	直線	長方形枠	長方形	イメージ	文字	数値	整数	テキストエリア	ボタン	ラジオボタン	チェックボックス	コンボボックス	リストボックス	西暦	月	日	曜日	日時	印影	バーコード	不可視
フォントサイズ	○							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フォントファミリ	○							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
フォントウエイト	○							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
文字間隔	○							○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○			
行間隔	○										○													
左パディング	○							○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○			
右パディング	○							○	○	○	○	○	○	○			○	○	○		○			
上パディング	○							○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○			
下パディング	○							○	○	○	○	○	○	○			○	○	○		○			
ツールチップ	○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
ツールチップ背景	○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
ツールチップ枠色	○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
ツールチップ字色	○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
表示モード	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
レイヤ番号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
PDF 背景色表示	○							○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	
PDF/X 座標	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
PDF/Y 座標	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
PDF/始点 X 座標				○																				
PDF/始点 Y 座標				○																				
PDF/終点 X 座標				○																				
PDF/終点 Y 座標				○																				
PDF/幅	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
PDF/高さ	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
PDF/長さ		○	○																					

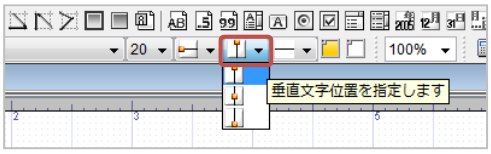
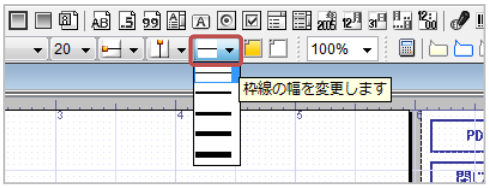
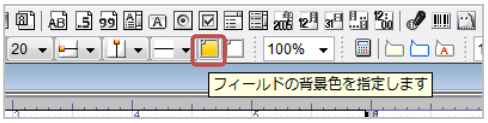
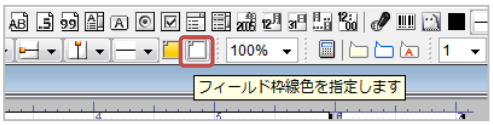
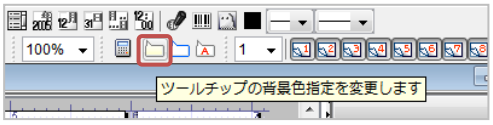
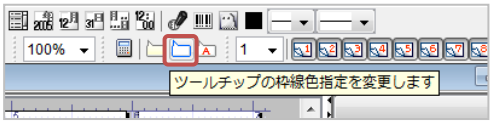
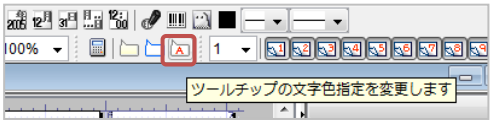
プロパティ	ラベル	水平線	垂直線	直線	長方形枠	長方形	イメージ	文字	数値	整数	テキストエリア	ボタン	ラジオボタン	チェックボックス	コンボボックス	リストボックス	西暦	月	日	曜日	日時	印影	バーコード	不可視
水平配置	○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
垂直配置	○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
縦横比を維持							○																	
日付書式								○																
文字変換								○																
ルックアップ設定								○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○			○
正規表現比較								○			○													
小数点以下桁数									○															
端数処理									○	○														
カンマ区切り									○	○														
範囲外文字色									○	○														
範囲外背景色									○	○														
上限基準値									○	○														
下限基準値									○	○														
フォントサイズ調整															○					○				
入力書式																					○			
表示書式																					○			

5.14. プロパティの一括変更

特定のプロパティについては、複数のオブジェクトの一括変更が可能です。
複数のオブジェクトを選択した状態で、メニューまたはアイコンメニューバーから該当プロパティを変更します。

プロパティ	指定箇所
タイプ	[メニュー]-[編集]-[一括変換・設定]-[図形] [メニュー] -[編集]-[一括変換・設定]-[標準コンポーネント]
座標	[メニュー] -[編集]-[配置] [右クリック]-[配置] ※ 最後に選択したオブジェクトを基準として、配置位置を揃える
幅・高さ	[メニュー] -[編集]-[サイズ] [右クリック]-[サイズ] ※ 最後に選択したオブジェクトを基準として、幅・高さを揃える
フォントウエイト	[アイコンメニューバー]-[フォントウエイト] 
カンマ区切り	[アイコンメニューバー]-[カンマ区切り] 
カレンダ入力	[アイコンメニューバー]-[カレンダ入力] 
枠線付き	[アイコンメニューバー]-[枠線表示] 
編集禁止	[メニュー] -[編集]-[一括変換・設定]-[属性設定]-[編集禁止・編集可] [アイコンメニューバー]-[編集禁止] 
無効	[メニュー] -[編集]-[一括変換・設定]-[属性設定]-[有効・無効]
不可視	[アイコンメニューバー]-[不可視] 
移動禁止	[アイコンメニューバー]-[移動禁止]

	
PDF 背景色表示	[メニュー] -[編集]-[一括変換・設定]-[属性設定]-[PDF 背景表示]
表示モード	[メニュー] -[編集]-[一括変換・設定]-[属性設定]-[表示モード]
色	[アイコンメニューバー]-[色] 
線幅	[アイコンメニューバー]-[線幅] 
線種	[アイコンメニューバー]-[線種] 
フォントファミリ	[アイコンメニューバー]-[フォントファミリ] 
フォントサイズ	[アイコンメニューバー]-[フォントサイズ] 
水平配置	[メニュー] -[編集]-[水平配置] [右クリック]-[水平配置] [アイコンメニューバー]-[水平配置] 
垂直配置	[メニュー] -[編集]-[垂直配置] [右クリック]-[垂直配置] [アイコンメニューバー]-[垂直配置]

	
枠線幅	[アイコンメニューバー]-[枠線幅] 
背景色	[アイコンメニューバー]-[背景色] 
枠線色	[アイコンメニューバー]-[枠線色] 
ツールチップ背景色	[アイコンメニューバー]-[ツールチップ背景色] 
ツールチップ枠色	[アイコンメニューバー]-[ツールチップ枠線色] 
ツールチップ字色	[アイコンメニューバー]-[ツールチップ文字色] 

5.15. ID の予約語

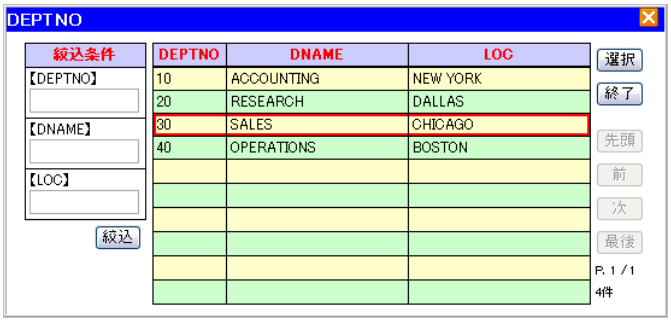
フィールド ID には JavaScript の予約語を指定することはできません。
以下は予約語の一例です。この表に含まれないキーワードで警告表示やエラーが発生する場合があります。

▼JavaScript 予約語例

Null	abstract	boolean	break	byte	case
catch	char	class	comment	concat	const
continue	debugger	default	delete	do	double
else	enum	every	export	extends	false
filter	final	finally	float	for	forEach
function	goto	if	implements	import	in
indexOf	instanceof	int	interface	join	label
lastIndexOf	long	map	native	new	package
pop	private	protected	public	push	return
reverse	shift	short	slice	some	sort
sort	splice	static	super	switch	synchronized
this	throw	throws	toSource	toString	transient
true	try	typeof	unshift	var	void
volatile	while	with			

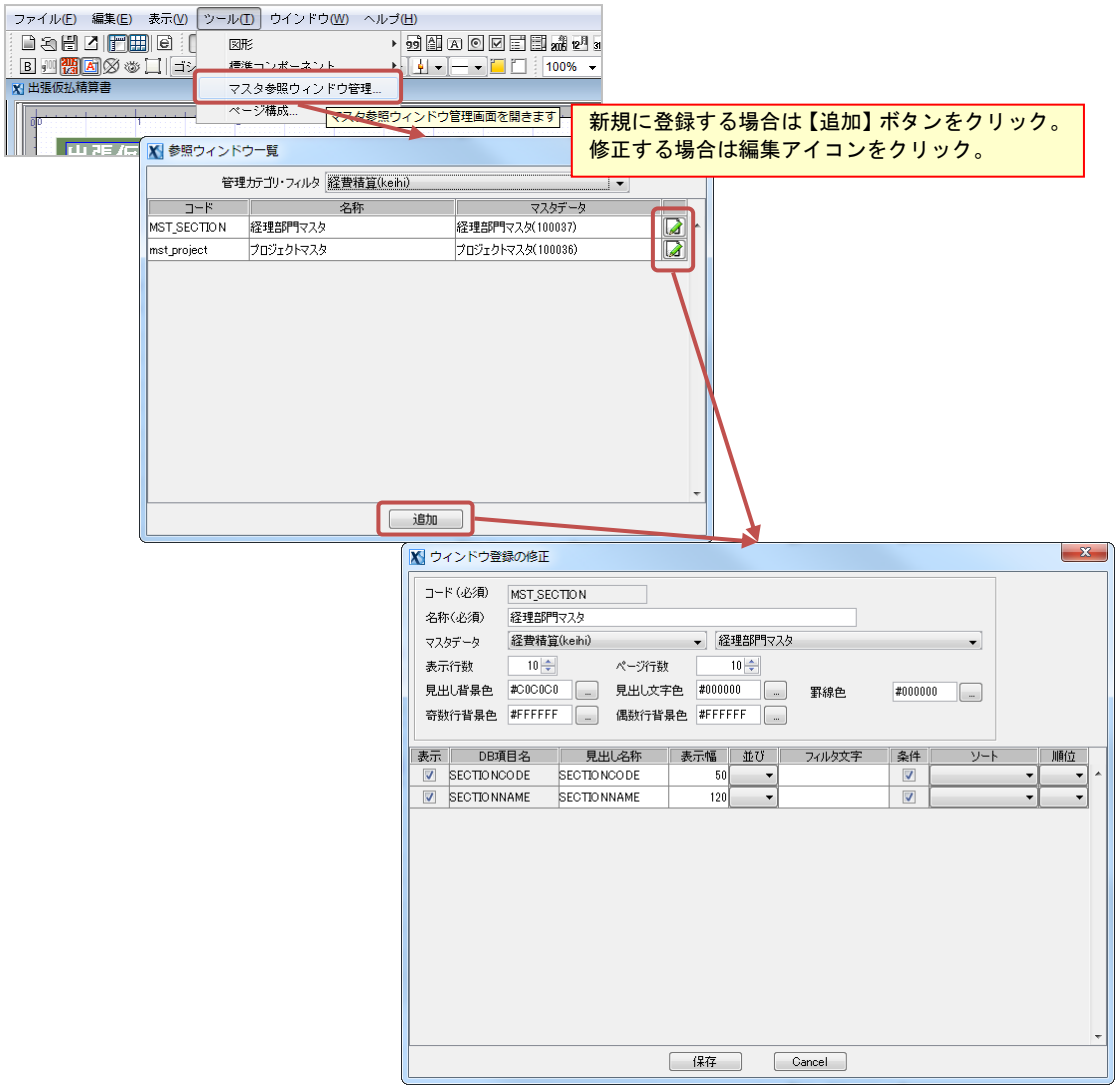
6. マスタ参照ウィンドウ

フィールドに対してマスタ参照ウィンドウ設定を行うことで、フィールドでダブル・クリック等の操作を行った際にデータベース表を参照しての入力操作を行う事が可能になります。表示されるマスタ参照ウィンドウのレイアウトは次の例に示す形式になります。



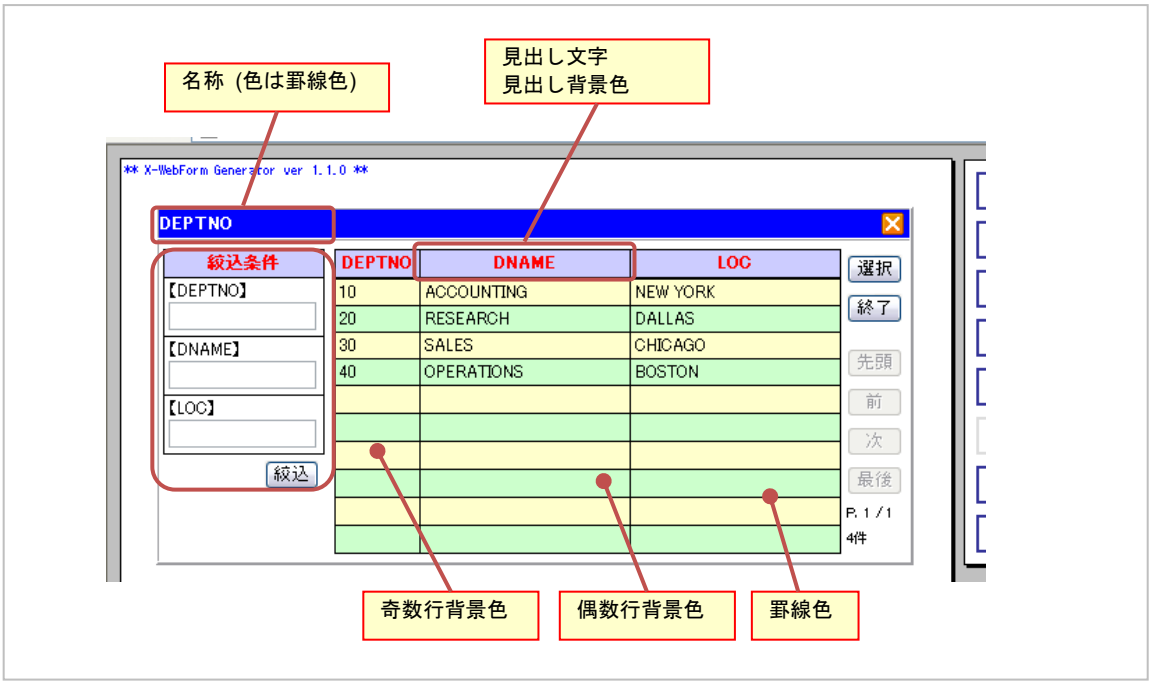
6.1. マスタ参照ウィンドウの管理

マスタ参照ウィンドウを利用する場合は、事前に使用するウィンドウに関する登録をメニュー[ツール]-[マスタ参照ウィンドウ管理]画面から行います。



項目	説明
コード	コードを指定します。
名称	名称を指定します。 マスタ参照ウィンドウに表示されるタイトルとしても使用されます。
マスタデータ	参照ウィンドウが利用するマスタデータを指定します。 事前に AgileWorks にマスタデータの登録を行っておく必要があります。
表示行数	ウィンドウ表示直後に表示されている行数になり 5～100 の間で指定を行います。ページ行数指定がない場合は、表示行数で前後ページ送りが行われます。
ページ行数	データベースより取得するレコード数を指定します。ページ行数が表示行数より大きい場合は、明細部分が縦方向にスクロールするようになります。(ページ行数は設定できないバージョンがあります)
見出し背景色、見出し文字	絞込み条件指定部、明細表示部の見出し行の色を指定します。
罫線色	明細表示の罫線色を指定します。
奇数行背景色、偶数行背景色	明細行の背景色を奇数行・偶数行で色分けする場合に設定します。
表示	マスタ参照ウィンドウのリストに表示するデータベースの項目を指定します。
DB 項目名	指定した表示情報が対応する TABLE/VIEW のフィールド名を参考情報として表示します。
見出し名称	参照ウィンドウの見出しに表示する文字列を指定します。
表示幅	参照ウィンドウをブラウザに表示する際の列幅をピクセル値で指定します。
並び	参照ウィンドウをブラウザに表示する際の項目順序を 1 から順に指定します。 指定しない場合は順番が指定されている項目の後に、画面に表示されている順序で表示されます。
フィルタ文字	表示するレコードを初めから絞りこんでおく場合に条件となる文字列を指定します。
条件	フィールドのウィンドウ参照設定を行う際に、デフォルトで絞込にチェックが入ります。
ソート	マスタ参照ウィンドウへの表示を項目の内容により昇順、降順に並べる場合に指定します。昇順であれば “ASC”、降順であれば “DESC” を指定します。
順位	ソートを複数のフィールドで行う場合、ソートする順番を指定します。

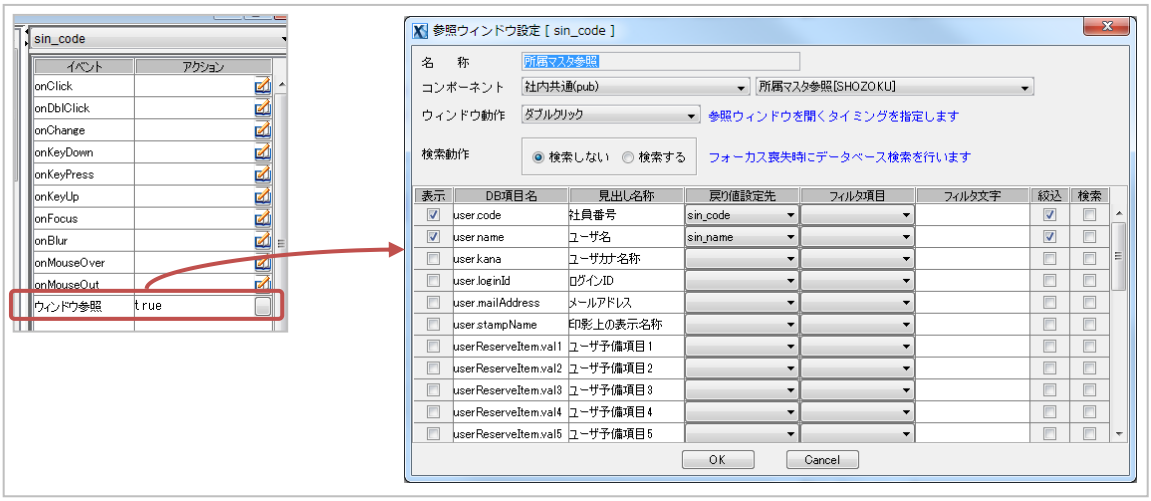
名称、色指定、条件指定が行われた場合の影響箇所は以下の通りです。



注意事項
ソート順指定を行わなかった場合、データの並び順はデータベースに依存するため不定となります。
　例）表示するデータが複数ページに及ぶ場合、同じデータが複数のページに表示されてしまう。
そのため、マスタ参照ウィンドウ設定時には常に一意となる項目に対してソート順指定を行うことを推奨いたします。

6.2. フィールドへの割り当て

参照ウィンドウ登録後はフィールドで"参照ウィンドウ"を利用することが可能になります。設定はアクションプロパティの「ウィンドウ参照」欄から行います。



項目	説明
名称	指定したコンポーネントに設定されている表題を表示します。
コンポーネント	使用する参照ウィンドウの登録コードを指定します。 参照ウィンドウの利用を解除する場合は、コンポーネントを空欄にします。
ウィンドウ動作	参照ウィンドウを表示するタイミングを指定します。 設定するフィールドの種類によっては指定できないものもあります。
検索動作	フィールドのフォーカスを失う際にフィールドに入力されている値でデータの検索を行います。 検索動作は"フィルタ項目"、"フィルタ文字"、"検索"項目の指定により制御されます。
表示	一覧表示の際に表示する項目名を指定します。参照ウィンドウ登録で指定した表示項目を更に絞り込むことが出来ます。
DB 項目名	参照ウィンドウ登録で指定された「マスタデータ」のカラム名が参考情報として表示されます。
見出し名称	参照ウィンドウ登録の際に指定された項目の見出し名称を上書き変更できます。
戻り値設定先	参照ウィンドウから特定の行を選択した場合、特定の行をダブル･クリックした場合に、その行のデータを設定するフィールド ID 名を指定します。 表内に参照ウィンドウを指定している場合は、クリックした行に反映されます。
フィルタ項目	参照ウィンドウを表示する際、フォーム上の特定のフィールドで絞込み動作を行う場合に、その値が格納されているフィールド ID 名を指定します。
フィルタ文字	表示するレコード一覧の絞込みを特定の文字列で行う場合にその文字列を指定します。
絞込	参照ウィンドウの左側に条件フィールド（検索ボックス）を表示し、検索条件として利用するかを指定します。
検索	戻り値設定先の内容を検索キーに利用する場合にチェックします。 1 つの参照ウィンドウ設定に置いて、検索キーは 1 つの項目にしか利用できません。 フィルタ項目でも代用可能ですが、参照ウィンドウ表示を同時に利用する場合、ウィンドウ表示のフィルタに利用されてしまいますので、フィルタ動作を参照ウィンドウで行わせない場合に利用します。

⚠ フォーカス喪失時に表示されるマスタ参照ウィンドウについて

フィールドのフォーカス喪失時にマスタ参照を表示した場合、マスタ参照ウィンドウを閉じると対象フィールドにフォーカスがセットされます。そのため、一度マスタ参照ウィンドウを表示し、閉じた後にもう一度対象フィールドからフォーカスが別フィールドに移った場合はマスタ参照ウィンドウが表示されません。

例）
1) フィールド A を選択している状態でフィールド B をクリックする
2) フォーカス喪失イベントが動作し、マスタ参照ウィンドウが表示される
3) マスタ参照ウィンドウを閉じる
4) フォーカスがフィールド A にセットされる
5) 再度、フィールド B をクリックする
6) マスタ参照ウィンドウが表示されず、フィールド B にフォーカスが移る
7) 再度フィールド A をクリックする
8) 1～6 を繰り返す

⚠ フィルタ項目について

フィルタ項目に指定されているフィールドの値が空の場合、マスタ参照設定の検索動作が正しく動作しません。

7. JavaScript 設定

JavaScript の設定については、別途 X-WebForm JavaScript プログラミングガイドを参照してください。

8. トラブルシューティング

8.1. X-WebForm が突然終了した

長時間の利用や、たくさんのフォームを編集していると時々動作が遅くなるケースがあります。
そのような場合は X-WebForm の実行に必要なメモリが不足している可能性が考えられます。xwebform.cmd ファイルにメモリに関する設定を追記し、利用可能なメモリのサイズ設定を変更してください。

▼ 赤字の行を追記する

```
@echo off

if "%OS%" == "Windows_NT" setlocal

:DEF_JAVA
SET J2SDK_DIR=%ProgramFiles%¥Java¥jdk1.6.0_01
IF EXIST "%J2SDK_DIR%" SET JAVA_HOME=%J2SDK_DIR%
IF EXIST "%J2SDK_DIR%" GOTO RUN_XWEB

SET J2SDK_DIR=%ProgramFiles%¥Java¥jdk1.5.0_11
IF EXIST "%J2SDK_DIR%" SET JAVA_HOME=%J2SDK_DIR%
IF EXIST "%J2SDK_DIR%" GOTO RUN_XWEB

SET J2SDK_DIR=%ProgramFiles%¥Java¥jdk1.5.0_07
IF EXIST "%J2SDK_DIR%" SET JAVA_HOME=%J2SDK_DIR%
IF EXIST "%J2SDK_DIR%" GOTO RUN_XWEB

SET J2SDK_DIR=%ProgramFiles%¥Java¥jdk1.5.0_06
IF EXIST "%J2SDK_DIR%" SET JAVA_HOME=%J2SDK_DIR%
IF EXIST "%J2SDK_DIR%" GOTO RUN_XWEB

SET JAVA_OPTS=-Xms64m –Xmx256m

:RUN_XWEB
rem CD %~p0
PUSHD %~d0%~p0
CALL startup.cmd %1
endlocal
```

「-Xmx」が X-WebForm が利用可能なメモリのサイズを指定している部分です。X-WebForm が動作する端末に十分なメモリが搭載されている場合は、適宜数字を変更してください。

8.2. フォームのプレビューが表示されない

ご利用になる PC の環境によってはフォームのプレビューが実行できない場合があります。
画面右下のコンソール・ビューに、下記のようなメッセージが表示されている場合は、内蔵のサーブレットエンジンが使用する 8080 ポートがほかのプログラムと干渉していることが考えられます。

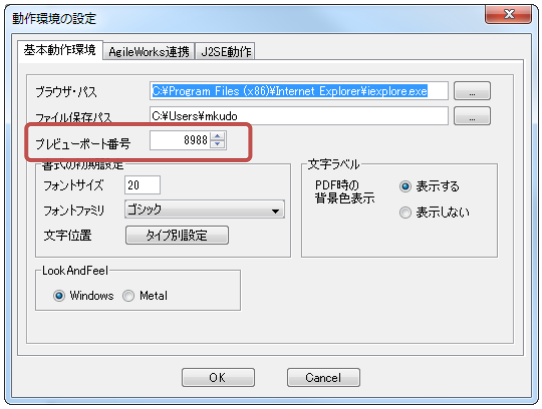
▼ メッセージ例 1

```
Bootstrap: Starting service
サービス Tomcat-Standalone を起動します
Apache Tomcat/4.1.31
- エンドポイントを起動中のエラーです
java.net.BindException: Address already in use: JVM_Bind:8080
```

▼ メッセージ例 2

```
Catalina.start: LifecycleException: プロトコルハンドラの起動に失敗しました: java.net.BindException: Address already in use: JVM_Bind:8080
LifecycleException: プロトコルハンドラの起動に失敗しました: java.net.BindException: Address already in use: JVM_Bind:8080
```

そのような場合は、動作環境設定画面から X-WebForm が利用するポート番号を変更してください。



8.3. ブラウザの表示倍率を変更するとフォーム表示が崩れる

X-WebForm ではブラウザの表示倍率変更機能に対応しておりません。
必ず表示倍率を 100%としてご利用ください。